

スル事

第一千二百六十條 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ渡ス可キ物件  
又ハ金高ヲ提供スル事及ヒ之ヲ預リ役所ニ預クル事皆法ニ適シタ  
ル時ハ義務ヲ得可キ者其費用ヲ擔當ス可シ

第一千二百六十一條 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ渡ス可キ物  
又ハ金高ヲ役所ニ預ケタル後義務ヲ得可キ者未タ之ヲ受取ラサル  
時間ハ義務ヲ行フ可キ者之ヲ取戻ス可シ但シ其義務ヲ行フ  
可キ者之ヲ取戻シタル時ハ其者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ者又ハ  
其保證人其義務ヲ免ル、可シ得ス

第一千二百六十二條 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ渡ス可キ物  
件ヲ提供シ且之ヲ役所ニ預クル法ニ適シタルノ控訴ス可カラサ  
ル裁判ヲ得タル時ハ縱令義務ヲ得可キ者ノ承諾アリト雖モ義務ヲ

行フ可キ者其預ケタル物件又ハ金高ヲ取戻シ連帶シテ義務ヲ行フ  
可キ者又ハ其保證人ノ損害ヲ爲ス可シ得ス

第一千二百六十三條 義務ヲ行フ可キ者其渡ス可キ物件又ハ金高ヲ役  
所ニ預ケ其預ケタル法ニ適シタルノ控訴ス可カラタル裁判アリ  
シ後ニ義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ其物件又ハ金高ヲ取戻ス  
可キ可シ承諾シタル時ハ其義務ヲ他ノ債主ヨリ先キニ得可キ特權  
又ハ不動産ヲ書入質トシテ得可キノ權ヲ行フ可シ得ス但シ其義務  
ヲ得可キ者其義務ヲ行フ可キ者ノ役所ニ預ケタル物件又ハ金高ヲ  
取戻ス可シ承諾セシ證書ニ更ニ改メテ書入質ノ權ヲ生ス可キ旨ヲ  
附記スルコト付キ相當ノ法式ヲ行ヒタル時ハ其法式ヲ爲シタル日ヨ  
リ其書入質ノ權ヲ復スルコト得可シ

第一千二百六十四條 義務ヲ行フ可キ者之ヲ得可キ者ニ引渡ス可キ物



件預メ定リシモノニシテ且其物件所在ノ地ニテ之ヲ引渡ス可キ時  
ハ其義務ヲ行フ可キ者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ其住所又ハ契約ヲ  
以テ別段擇ミタル住所ニ書面ヲ送リテ其物件ヲ搬運ス可キヲ要  
ム可キ○義務ヲ行フ可キ者此事ヲ要メタル後義務ヲ得可キ者猶其  
物件ヲ搬運セサル時義務ヲ行フ可キ者ノ爲メ其物件所在ノ場所必  
要ナルヲアルニ於テハ其義務ヲ行フ可キ者其物件ヲ更ニ他ノ場所  
ニ預ク可キノ允許ヲ裁判所ヨリ受クルヲ得可シ

○第五節 義務ヲ行フ可キ者其財産ヲ抛棄スル事

第一千二百六十五條 財産抛棄トハ義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ盡クシ  
不能ハサル時己レノ所有スル諸般ノ財産ヲ盡ク義務ヲ得可キ者ニ  
任カスルヲ云フ

第一千二百六十六條 財産抛棄ハ隨意ノモノアリ又ハ裁判所ノ言渡ニ

因テ爲スモノアリ

第一千二百六十七條 隨意ノ財産抛棄トハ義務ヲ得可キ者隨意ニ之ヲ  
承諾シ且其義務ヲ得可キ者ト之ヲ行フ可キ者トノ間ニ營テ結ヒ置

キタル契約ヨリ生ス可キ所ノ外更ニ他ノ効ヲ生セサル抛棄ヲ云フ

第一千二百六十八條 裁判所ノ言渡ニ因テ爲シタル財産抛棄トハ正實

ニシテ且不幸ナル義務ヲ行フ可キ者ヲシテ其身體ノ自由ヲ保タシ

ムル爲メ如何ナル契約アルヲ問ハス裁判所ノ言渡ニ因リ其所有ス

ル諸般ノ財産ヲ盡ク義務ヲ得可キ者ニ任カスル抛棄ヲ云フ

第一千二百六十九條 裁判所ノ言渡ニ因リ財産抛棄ヲ爲スト雖モ義務

ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ抛棄シタル財産ヲ所有スルノ權ヲ得

ルヲナク唯其財産ヲ賣拂フ可キノ權ト其賣拂ニ至ル迄ノ時間其財

産ヨリ生シタル入額ヲ所得ト爲スノ權トヲ得可シ



六五五

第一千二百七十條 義務ヲ得可キ者ハ法則上ニテ別段定メタル場合ニ非サレハ義務ヲ行フ可キ者裁判所ノ言渡ニ因リ其財産拋棄ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得ス

義務ヲ行フ可キ者其財産拋棄ヲ爲ス時ハ禁錮ヲ受クルコトヲ免カル可シ

又義務ヲ行フ可キ者其財産拋棄ヲ爲スト雖モ其拋棄シタル財産ノ價ニ至ル迄ノ外其義務ノ釋放ヲ得ス但シ拋棄シタル財産ノ價其義務ヲ全ク盡クスコ足ラサル時義務ヲ行フ可キ者後ニ他ノ財産ヲ所得ト爲スコアルニ於テハ亦其財産ヲ拋棄シテ其義務ヲ全ク盡クスニ至リ初メテ其拋棄ヲ止ム可シ

○第二款 義務ノ更改スル事

第一千二百七十一條 義務ノ更改ハ左ノ三箇ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可

シ

第一 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ對シ從來ノ義務ニ代ヘ更ニ新ナル義務ヲ契約シ從來ノ義務ノ消散シタル事

第二 從來義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ヨリ釋放ヲ受ケ新タニ義務ヲ行フ可キ者之ニ代リタル事

第三 新タニ結ヒタル契約ニ因リ新タニ義務ヲ得可キ者從來義務ヲ得可キ者ニ代リタルコト付キ其義務ヲ行フ可キ者從來義務ヲ得可キ者ニ對シ其義務ノ釋放ヲ得タル時

第一千二百七十二條 義務ノ更改ハ契約ヲ爲シ得可キノ權アル數人ノ間ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

七五五

第一千二百七十三條 義務ノ更改ハ思料ノミヲ以テ爲ス可カラズ其更改ヲ爲ス可キ意アルコトヲ證書ヲ以テ分明ニ了知シ得可キヲ必要ト



ス

第一千二百七十四條 新タニ義務ヲ行フ可キ者從來義務ヲ行フ可キ者ニ代リ義務ヲ更改スルコトハ從來義務ヲ行フ可キ者ノ立會ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千二百七十五條 從來義務ヲ行フ可キ者自己ニ代リテ新タニ義務ヲ行フ可キ者ヲ定メシ旨ヲ義務ヲ得可キ者ニ述フルト雖モ其義務ヲ得可キ者從來義務ヲ行フ可キ者ヲ釋放ス可キコトヲ別段述ヘタル時ニ非サレハ義務ノ更改スルコトナカル可シ

第一千二百七十六條 義務ヲ得可キ者從來義務ヲ行フ可キ者ヲ釋放シタル時ハ新タニ義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ行フコト能ハサルニ至ルコトアリト雖モ從來義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但シ此場合ニ於テ從來義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ爲スヲ得可キ

コト別段證書ニ記シタル時又ハ新タニ義務ヲ行フ可キ者從來義務ヲ行フ可キ者ニ代リシ頃既ニ公ケニ家資分散ヲ爲シ又ハ既ニ其頃ヨリ其家産ヲ以テ其義務ヲ全ク盡クスニ足ラサリシ時ハ格別ナリトス

第一千二百七十七條 義務ヲ行フ可キ者自己ニ代リテ義務ヲ行フ可キ者ヲ指示シタルノミニテハ義務ノ更改スルコトナカル可シ又義務ヲ得可キ者自己ニ代リテ義務ヲ得可キ者ヲ指示シタルノミニテハ義務ノ更改スルコトナカル可シ

第一千二百七十八條 從來ノ義務ニ付テノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ハ更改シタル義務ニ之ヲ移ス可カラズ但シ義務ヲ得可キ者別段其事ヲ定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第一千二百七十九條 新タニ義務ヲ行フ可キ者從來義務ヲ行フ可キ者



ニ代リタル時ハ從來ノ義務ニ付テノ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ  
新タニ義務ヲ行フ可キ者ノ財産ニ移スヲ得ス

第一千二百八十條 義務ヲ得可キ者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中  
ノ一人ト義務ノ更改シタル時ハ從來ノ義務ニ付テノ債主ノ特權又  
ハ書入質ノ權ヲ新タナル義務ヲ行フ可キ一人ノ財産ノミニ移スヲ  
得可シ

第一千二百八十一條 義務ヲ得可キ者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中  
中ノ一人ト義務ノ更改シタル時ハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ其他ノ  
者其義務ノ釋放ヲ受ク可シ  
義務ヲ得可キ者ト主タル義務ヲ行フ可キ者ト義務ノ更改シタル時  
ハ其保證人已レノ義務ノ釋放ヲ受ク可シ  
然レ義務ヲ得可キ者首項ノ場合ニ於テ連帶シテ義務ヲ行フ可キ數

人皆其義務更改ノ事ヲ承諾ス可キヲ要メ又第二項ノ場合ニ於テ  
其保證人ノ之ヲ承諾ス可キヲ要メタル時其連帶シテ義務ヲ行フ  
可キ數人又ハ保證人其承諾ヲ爲サ、ルニ於テハ從來ノ義務猶繼續  
シタルモノト爲ス可シ

〇第三款 義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ其義務ヲ釋放スル事  
第一千二百八十二條 雙方ノ姓名ヲ手署シタル私ノ證書ノ正本ヲ義務  
ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ義務ヲ行フ可キ者ニ渡シタル時ハ其義務ヲ  
釋放シタルノ證アリトス

第一千二百八十三條 義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ公正ノ證書ノ副本ヲ  
義務ヲ行フ可キ者ニ渡シタル時ハ義務ヲ釋放シ又ハ義務ヲ盡クシ  
タルト思料ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリトス

第一千二百八十四條 義務ヲ得可キ者連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中



二六五

ノ一人ニ私ノ證書ノ正本又ハ公正ノ證書ノ副本ヲ渡シタル時ハ連  
帶シタル他ノ數人ノ爲メ亦前二條ニ記シタル効アリトス

第一千二百八十五條 義務ヲ得可キ者連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中  
ノ一人ノ爲メ契約シテ其義務ヲ釋放シタル時ハ連帶シタル他ノ數  
人モ亦其義務ノ釋放ヲ受ク可シ但シ義務ヲ得可キ者連帶シテ義務  
ヲ行フ可キ數人中ノ一人ヲ釋放スト雖モ其他ノ者ヲ釋放セサル旨  
ヲ別段定メタル時ハ格別ナリトス但シ此場合ニ於テハ其義務ヲ得  
可キ者義務ヲ行フ可キ數人中ニテ其釋放シタル一人ノ部分ヲ減シ  
其義務ヲ得ント要ム可シ

第一千二百八十六條 質トシテ取リタル物件ヲ還シタルト雖モ其義務  
ヲ釋放シタルト思料ス可カラズ

第一千二百八十七條 義務ヲ得可キ者主タル義務ヲ行フ可キ者ノ爲メ

契約シテ其義務ヲ釋放シタル時ハ其保證人モ亦釋放ヲ受ク可シ  
又保證人ヲ釋放スト雖モ之ニ因リ主タル義務ヲ行フ可キ者ヲ釋放  
ス可カラズ

又保證人中ノ一人ヲ釋放スト雖モ他ノ保證人ヲ釋放ス可カラズ  
第一千二百八十八條 義務ヲ得可キ者義務ノ保證人ヨリ其義務ノ釋放  
ヲ得可キカ爲メ出シタル所ノ物件又ハ金高ヲ受取リタル時ハ之ヲ  
義務ノ償ニ充テ用ヒタルモノト爲シ主タル義務ヲ行フ可キ者並ニ  
他ノ保證人其保證人ノ出シタル物件又ハ金高ニ至ル迄其義務ノ釋  
放ヲ得可シ

○第四款 二箇ノ義務互ニ相殺スル事

三六五 第一千二百八十九條 相互ニ義務ヲ行フ可キ者二人アル時ハ後條ニ記  
スル場合ト方法トニ循ヒ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可シ



第一千二百九十條 互ニ義務ヲ行フ可キ雙方ノ者共ニ知ルコトナシト雖  
モ法律上ニテ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可シ但シ此場合ニ於テハ  
其二箇ノ義務ノ生シタル時其高ノ相當ルニ至ル迄互ニ之ヲ相殺ス  
可シ

第一千二百九十一條 二箇ノ義務互ニ相殺スルコトハ金高又ハ度量スル  
コトヲ得可キ物件ノミニ付キ之ヲ爲スコトヲ得可シ但シ是カ爲メ其金  
高又ハ度量ス可キ物件ノ高確定シ且既ニ其渡シ期限ノ至リシコトヲ  
必要トス

又人ヨリ得可キ穀類又ハ飲食料ノ價時價目錄ニ因リ定リタル時ハ  
既ニ渡シ期限ニ至リシ金高ト互ニ相殺スルコトヲ得可シ

第一千二百九十二條 裁判所ヨリ一方ノ者ニ義務ヲ行フ可キ期限ノ猶  
豫ヲ許ルシタリト雖モ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺スルノ妨ケトナルコ

ナカル可シ

第一千二百九十三條 二箇ノ義務ハ其生シタル原由ノ如何ナルヲ問ハ

ズ互ニ相殺スルコトヲ得可シ然レ左ノ三箇ノ場合ハ格別ナリトス

第一 一方ノ者己レニ属シタル物ヲ横ニ奪取ラレ他ノ一方ニ其  
物ノ取戻ヲ求ムル時

第二 一方ノ者他ノ一方ニ附托シタル物件又ハ他ノ一方ノ使用  
ス可キ爲メ貸與ヘタル物件ノ取戻ヲ求ムル時

第三 一方ノ者他ノ一方ニ養料ヲ給與ス可シテ債主其養料ヲ  
差押フ可カラサル時 訴訟法第五百  
八十一條見合

第一千二百九十四條 義務ヲ行フ可キ者ノ保證人ハ義務ヲ行フ可キ者  
ト義務ヲ得可キ者トノ間ニ二箇ノ義務互ニ相殺シタルコトヲ述ヘ己  
レノ保證ノ義務ヲ免ル、ノ訴ヲ爲シ得可シ



然レ義務ヲ行フ可キ者ハ義務ヲ得可キ者ヨリ保證人ニ對シテ行フ可キ義務アルコトヲ述ヘ己レノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス  
又連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ハ義務ヲ得可キ者ヨリ他ノ一人ニ對シテ行フ可キ義務アルコトヲ述ヘ己レノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス

第一千二百九十五條 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ノ他人ニ其權ヲ移シタルコトヲ承諾シ別段二箇ノ義務互ニ相殺ス可キコトヲ定メサル時ハ縱令其承諾ヲ爲サ、ル以前ニ從來義務ヲ得可キ者ニ對シ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キ求メテ爲シ得可キ場合ト雖レ既ニ其承諾ノ後ニ至リテハ其義務ヲ得可キ權ヲ讓リ受ケシ者ニ對シ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求メテ爲スコトヲ得ス  
又義務ヲ得可キ者他人ニ其權ヲ讓リ義務ヲ行フ可キ者未タ之ヲ承

諾セス唯其由ノ告知ヲ得タル時ハ其告知ノ後ニ生シタル義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求メテ爲スコトヲ得ス

第一千二百九十六條 二箇ノ義務ヲ同一ノ場所ニ於テ盡クス可カラサル時ハ一方ノ者運送ノ費用ヲ他ノ一方ニ償フタル上ニ非サレハ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求メテ爲スコトヲ得ス

第一千二百九十七條 一人ニテ盡クス可キ數箇ノ義務ヲ負ヒ之ヲ他人ヨリ得可キ一箇ノ義務ト互ニ相殺セントスルニハ第一千二百五十六條ニ記シタル規則ニ循フ可シ

第一千二百九十八條 二箇ノ義務ヲ互ニ相殺スルニ因リ他人ノ權ヲ害スルコトナカル可シ○故ニ義務ヲ行フ可キ甲者義務ヲ得可キ乙者ニ金高又ハ物件ヲ渡スノ差留ヲ他人ヨリ受ケシ後乙者ヨリ義務ヲ得可キノ權ヲ得タルニ於テハ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺シテ他人ノ權



ヲ害ス可カラス

第一千二百九十九條 甲者乙者ニ對シテ行フ可キ義務ヲ乙者ヨリ得可  
キ義務ト互ニ相殺ス可キ道理アルニ之ヲ相殺スルコトナク乙者ニ對  
シ自己ノ義務ヲ盡クシタル時ハ甲者乙者ヨリ其義務ヲ得ルニ付キ  
債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヲ述ヘ他人ノ權利ヲ害ス可カラス但シ  
甲者己ノノ義務ヲ相殺ス可キ乙者ヨリ得ル所ノ權利アルコトヲ知ラ  
サルノ證アル時ハ格別ナリトス

○第五款 權利ト義務ト渾同スル事

第一千三百條 一人ニテ權利ト義務トヲ兼有スル時ハ其權利ト義務ト  
渾同シテ相殺ス可シ

第一千三百一條 主タル義務ヲ行フ可キ者前條ニ記スル如ク其義務ヲ  
得可キ權ヲ兼有スル時ハ保證人己ノノ義務ヲ免カル可シ

保證人義務ヲ得可キノ權利ヲ兼有シ又ハ義務ヲ得可キ者保證ノ義  
務ヲ兼有シタル時ハ主タル義務ヲシテ消散セシムルヲ得ス  
連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人義務ヲ得可キノ權利ヲ兼有  
シタル時ハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ他ノ數人其一人ノ當テ擔當シ  
タル部分ノミノ釋放ヲ受クルコトヲ得可シ

○第六款 引渡ス可キ物ノ滅盡スル事

第一千三百二條 義務ノ目的タル確定セシ物ノ滅盡シタル時又ハ其物  
ノ賣買ヲ爲ス可カラサル模様ニ至リシ時又ハ其物ヲ損失シ其現存  
スルヤ否ヲ知ルコト能ハサルニ至リシ時其義務ヲ行フ可キ者未タ之  
ヲ得可キ者ヨリ其物ヲ引渡ス可キノ未メテ受ケサル中ニ義務ヲ行  
フ可キ者ノ過失ニ非ラスシテ此等ノ事ノ生シタルニ於テハ其義務  
消散ス可シ



又義務ヲ行フ可キ者之ヲ行フ可キノ求メテ受ケシ後ト雖モ其引渡  
ス可キ物意外ノ事ニ因テ滅盡セシ時其責ニ任ス可キノテ預定セス  
且縱令其物ヲ義務ヲ得可キ者ニ引渡シテ其所有ト爲シタルト雖モ  
亦滅盡ス可キ場合ニ於テハ其義務消散ス可シ

義務ヲ行フ可キ者ハ己レノ述ヘタル意外ノ事ヲ證ス可シ  
竊取シタル物ハ其滅盡シ又ハ見失ヒタル方法ノ如何ナルヲ問ハス  
之ヲ竊取セシ者必ス其價高チ償フ可キノ責アリトス

第一千三百三條 義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非スシテ其引渡ス可キ物  
ノ滅盡シ又ハ賣買ヲ爲ス可カラサルニ至リシ時又ハ之ヲ遺失シタ  
ル時其物ニ付キ從來他人ニ對シ訴ヲ爲ス可キノ權又ハ償ヲ得可キ  
ノ權アルニ於テハ其權ヲ其義務ヲ得可キ者ニ移ス可シ

〇第七款 契約ヲ取消ス事

第一千三百四條 別段ノ法律ニ因リ契約ヲ取消ス可キ訴ヲ爲スノ期限

ヲ特ニ定メタルトナキ場合ニ於テハ十年内ニ其訴ヲ爲ス可シ

契約ヲ結フニ付キ暴行脅迫ノ事アル時ハ其暴行脅迫ノ止ミタル日  
ヨリ其十年ノ期限ヲ算ヘ又錯誤及ヒ詐僞アル時ハ之ヲ知リタル日  
ヨリ其期限ヲ算ヘ又婦其夫或ハ裁判所ノ允許ヲ得ルコトナク結ビシ  
契約ニ付テハ其婚姻ヲ解キシ日ヨリ其期限ヲ算フ可シ  
又治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ結ヒタル契約ニ付テハ其禁ノ免シテ受ケ  
シ日ヨリ其期限ヲ算ヘ幼者ノ結ヒタル契約ニ付テハ其丁年ニ至リ  
シ日ヨリ之ヲ算フ可シ

第一千三百五條 契約ノ種類ノ如何ナルヲ問ハス後見ヲ免レサル幼者

ハ其契約ノ爲メ損害ヲ蒙リタルニ因リ之ヲ取消スコトヲ得可シ又後  
見ヲ免レシ幼者ハ第一篇第十卷 幼年後見ニ定メタル如ク其權利ノ



定限ニ過キタル契約ヲ結ビ之カ爲メ損害ヲ蒙リタルニ因リ其契約ヲ取消ス可キヲ得可シ

第千三百六條 幼者其結ヒタル契約ノ爲メ損害ヲ蒙リタルト雖モ其

損害意外ノ事ニ管シタル時ハ之カ爲メ其契約ヲ取消ス可カラズ

第千三百七條 幼者契約ヲ結ヒタル時其丁年ニ至リシヲ述ヘタル

ノミコテハ其契約ヲ取消スノ妨トナルコトナシ

第千三百八條 商業ヲ爲シ又ハ爲替座ヲ支配シ又ハ工作ヲ爲ス幼者

ハ其職業ノ爲メ結ヒタル契約ヲ取消ス可キヲ得ス第四百八十七條見合

第千三百九條 幼者其婚姻ヲ法ニ適シタルモノト爲スニ其許諾ヲ得

ルニ必要トスル者父母等ヲ云フノ許諾ノ立會トナリテ結ヒタル婚姻契約

書ノ條件ハ之ヲ取消ス可カラズ

第千三百十條 幼者故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘ又ハ故意ニ非スシテ

人ニ損害ヲ加ヘタル時其損害ヲ償フ可キ義務ハ之ヲ取消ス可カラズ

第千三百十一條 凡ソ人未ダ丁年ニ至ラサル時結ヒタル契約書ノ法

式ニ協ハサルニ因リ初メヨリ全ク其効ナキト其契約書ヲ取消サン

トスルノ訴ヲ爲シ得可キトナ問ハス其人丁年ニ至リテ更ニ之ヲ確

定シタル時ハ之ヲ取消サントスルコトヲ得ス

第千三百十二條 幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者婚姻ヲ結ヒタル婦其結ヒ

シ契約ヲ取消ス可キ允許ヲ受ケタル時ハ契約シタル一方ノ者ヨリ

此等ノ者ニ對シ其幼年ノ時間治産ノ禁ヲ受ケシ時間婚姻ヲ結ヒタ

ル時間其契約ニ從ヒ既ニ渡シタル物件ヲ取戻ス可キノ訴ヲ爲ス可

キ得ス但シ契約シタル一方ノ者ヨリ渡シタル物件幼者治産ノ禁ヲ

受ケシ者婚姻シタル婦ノ利益トナリタル證アル時ハ格別ナリトス



四七五

第一千三百十三條 丁年者ハ別段民法ニ記シタル場合ト規則トニ據ラ  
サレハ其損害ヲ蒙リタルノミニ因リ契約ヲ取消ス可カラス 第八百  
七十四條見合セ

第一千三百十四條 不動産ヲ他人ニ贈與シ又ハ賣拂フ事及ヒ遺物ヲ分  
派スル事ニ付キ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ必要ナル法式  
ヲ用ヒテ契約ヲ爲シタル上ハ此等ノ者其契約ニ付テハ既ニ丁年ニ  
至リシ後又ハ治産ノ禁ヲ受クル前ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス可  
シ

○第六章 義務ノ證及ヒ義務ヲ盡クシタルノ證

第一千三百十五條 凡ソ義務ヲ得ント求ムル者ハ之ヲ證ス可シ  
又既ニ義務ノ釋放ヲ得タルヲ述フル者ハ其義務ヲ盡シタル事又  
ハ義務ノ消散シタル事ヲ證ス可シ

第一千三百十六條 證書證人、思料、自認、誓詞ニ管マル規則ハ左ノ數款ニ  
之ヲ記載ス

○第一款 證書

○第一節 公正ノ證書

第一千三百十七條 公正ノ證書トハ各地方ニ於テ證書ヲ記ス可キ權ア  
ル官吏、證書人等 必要ナル法式ヲ用ヒ記シタル證書ヲ云フ

第一千三百十八條 公正ノ證書ヲ記シタル官吏之ヲ記ス可キノ權ナク  
又ハ其官吏之ヲ記ス可カラサルニ因リ又ハ法式ニ背キタルニ因リ  
其證書ヲ公正ノモノト爲ス可カラサル時其契約ヲ結ヒタル本人自  
己ノ姓名ヲ手署シタルニ於テハ之ヲ以テ私ノ證書ノ効アリトス

五七五

第一千三百十九條 公正ノ證書ハ契約ヲ結ヒタル雙方ノ者又ハ其遺物  
相續人及ヒ代權人等ノ間ニ於テハ之ニ記スル所ノ契約ノ確證ナリ



トス可シ

然レ其證書ノ贋造タルヲ主トシテ訴フル時 書類贋造ノ爲ス刑ハ  
其證書ノ如ク執行フヲ必ス停止ス可ク又其證書ノ贋造タルヲ  
附帶ノ訟トシテ訴フル時 民法ニ管シタル訴ニ添ヘテ書類ノ贋造ヲ  
法第二百十八條見合セハ 裁判所ニテ其時ノ摸樣ニ從ヒ假リニ其證書ノ如ク執  
行フヲ停止セシムルヲ得可シ

第一千三百二十條 總テ公私ヲ問ハス證書中ニ記スル諸事ハ縱令ヒ解  
明ノ爲メノミニ記シタル條件ト雖モ直チニ契約ノ趣意ニ管シタル  
モノタル時ハ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ間ニ於テ之ヲ確證ナリトス  
可シ○直チニ契約ノ趣意ニ管セサル解明ノ條件ハ之ヲ證據ノ端緒  
ノミト爲スヲ得可シ

第一千三百二十一條 公正ノ證書ヲ取消シ又ハ變改ス可キ秘密ノ證書

ハ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ間ニノミ其効ヲ生ス可ク他人ニ對シテ  
其効ヲ生ス可カラズ

○第二節 私ノ證書

第一千三百二十二條 私ノ證書ヲ記シタリトノ言掛ヲ受ケシ者之ヲ眞  
正ナリト認メタル時又ハ法律上ニテ眞正ナリト認メタリト爲シタ  
ル時ハ其證書ニ姓名ヲ手署シタル者又ハ其遺物相續人及ヒ代權人  
ノ間ニ於テ之ヲ公正ノ證書ニ等シキ確證ナリトス

第一千三百二十三條 私ノ證書ヲ記シタルトノ言掛ヲ受ケシ者ハ其書  
ノ手記又ハ其姓名ノ手署ヲ認ムルヲ又ハ認メサルヲ明カニ申述  
フ可シ

其遺物相續人又ハ代權人ハ本人ノ手記又ハ姓名ノ手署ヲ知ラサル  
旨ヲ申述フルヲ得可シ



第一千三百二十四條 證書ヲ記シタルトノ言掛ヲ受ケシ者其書ノ手記  
又ハ其姓名ノ手署ヲ認メスト述ヘ又ハ其遺物相續人及ヒ代權人之  
ヲ知ラスト述フル時ハ裁判所ニテ其書ノ驗真ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡  
ス可シ 訴訟法第百九十  
三條以下見合セ

第一千三百二十五條 雙務ノ契約ヲ記シタル私ノ證書ハ各自ノ權利ヲ  
有スル者ノ數ニ準シ其證書ノ正本數通ヲ記シタルコト非サレハ其効  
ナカル可シ

同一ノ權利ヲ有シタル數人ニ付テハ一通ノ正本ヲ以テ足レリトス  
正本各通ニハ之ヲ幾通ニ記シタルヤチ附記ス可シ

然レ正本ヲ幾通ニ記シタルヤチ附記スルコトナシト雖モ其證書中ニ  
記シタル契約ノ如ク自カラ執行フタル者ハ後ニ其附記ナキヲ述ヘ  
テ其證書ヲ取消スコト得ス

第一千三百二十六條 一方ヨリ一方ニ高金ヲ渡シ又ハ價ヲ定メ得可キ

物件ヲ渡ス可キ事ヲ約シタル證書又ハ私ノ契約書ハ之ニ姓名ヲ手  
署スル者其全文ヲ手記ス可シ若シ然ラサレハ自己ノ姓名ヲ手署シ  
タル外ニ其金高又ハ價ヲ定メ得可キ物件ノ分量ヲ數字ヲ用フルコ  
ト亦之ヲ手記シ且「ボン」渡シ方ヲ約又ハ「アップルウベ」承諾ノ語モ  
亦必ス手記ス可シ

商賈、工作者、農夫、葡萄ノ裁丁、雇夫、家僮ノ其證書ヲ記スル時ハ格別ナ  
リトス

第一千三百二十七條 證書ノ本文中ニ記スル所ノ高ト「ボン」ト記スル所  
ノ高ト相異ナル時ハ其「ボン」ト記スル所ヲ書セシ者ト其本文ヲ書セ  
シ者ト同人タリト雖レ其二箇ノ高ノ中ニテ少キ高ヲ契約シタルト  
看做ス可シ但シ其二箇ノ高ノ中ニテ何レカ錯誤タルノ證アル時ハ



格別ナリトス

第一千三百二十八條 私ノ證書ハ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル日之ニ  
姓名ヲ手署シタル一人ノ死去シタル日財産封印ノ調書及ヒ財産目  
録書ノ如キ官吏ノ記シタル公ケノ證書中ニ私ノ證書ノ趣意ヲ證明  
シタル日ヲ以テ他人ニ對スル其證書ノ日附ト定ム可シ

第一千三百二十九條 商賈ノ簿冊ハ誓ノ事ニ付キ後條第一千三百五十七  
ニ記スル所ヲ除クノ外商賈ニ非サル者ニ對シ其簿冊ニ記シタル物  
品引渡ノ證ト爲ス可カラス

第一千三百三十條 又商賈ノ簿冊ニ記スル所ハ其商賈ノ損トナル可キ  
證ト爲スヲ得可シ但シ其簿冊ニ因リ權利ヲ得ントスル者ハ其簿  
冊ニ記シタル諸件中ニテ己ノ義務ニ管シタル箇條ヲ除キ其權利  
ノミヲ得可キノ證ト爲ス可カラス

第一千三百三十一條 家内ノ簿冊又ハ書類ニ記スル所ハ之ヲ記シタル  
者ノ益トナル可キ證ト爲ス可カラス左ノ二箇ノ場合ニ於テハ其者  
ノ損トナル可キ證ト爲ス可シ

第一 其簿冊及ヒ書類ニ既ニ人ヨリ物件ヲ受取シ事ヲ明白ニ記  
スル時

第二 其簿冊及ヒ書類ヲ記シタル者自己ヨリ義務ヲ得可キ者ノ  
權利ノ證書ノ缺ケタルヲ補フ可キカ爲メ其簿冊及ヒ書類中ニ  
自カラ其義務ヲ負フタルヲ記シタル旨ヲ別段附記シタル時

第一千三百三十二條 義務ヲ得可キ者其所有シタル證書ノ正本ノ末尾  
又ハ欄外又ハ紙裏ニ義務ヲ行フ可キ者ヲシテ其義務ノ釋放ヲ得セ  
シメタルヲ知リ得可キ文詞ヲ附記シタル時ハ義務ヲ得可キ者其  
姓名及ヒ日附ヲ手記セスト雖モ其義務ヲ釋放シタルノ證ト爲ス可



又義務ヲ得可キ者契約證書ノ副本又ハ義務ヲ得タル證書ノ副本ノ  
末尾又ハ欄外又ハ紙裏ニ同上ノ文詞ヲ附記シタル時義務ヲ行フ可  
キ者其副本ヲ所有スルニ於テハ亦前ニ記スル所ニ等シトス

○第三節 符木 品物ノ賣買ヲ爲ス時兩箇ノ木片ニ記號ヲ  
附シ其木片兩箇ヲ合セ其記號ノ相符スル  
ヲ以テ信ト爲シ之ヲ  
簿冊ニ代用スル物

第一千三百三十三條 符木ノ兩片互ニ符合スルモノハ平常此符木ヲ證  
據ト爲シテ物件ヲ零賣スル者及ヒ受取ル者ノ間ニ證ト爲ス可シ

○第四節 證書ノ副本

第一千三百三十四條 證書ノ正本現存スル時ハ其副本ニ記スル所ノ諸  
件中ニテ正本ト相符合スル事ノミヲ證ト爲ス可シ但シ一方ノ者ハ  
他ノ一方ノ者ニ其正本ヲ檢視セント要ムルヲ得可シ

第一千三百三十五條 證書ノ正本既ニ現存セサル時ハ其副本ヲ以テ證  
ト爲スニ付キ左ノ規則ニ循フ可シ

第一 最初正本ヨリ寫シタル副本又ハ契約ノ如ク執行フ可キ  
ヲ附記シタル副本 第一千二百八十  
三條見合セ ハ正本ニ等シク證ト爲ス可シ  
又其他ノ副本ト雖モ契約ヲ結ヒシ雙方ノ者ノ面前又ハ一方ノ  
者ヲ呼出シテ猶出席セサル上ニテ裁判役ノ命ニ因リ之ヲ記シ  
タル時又ハ雙方ノ者ノ面前ニテ其承諾ノ上之ヲ記シタル時ハ  
亦正本ニ等シク之ヲ證ト爲ス可シ

第二 證書人ノ最初ニ寫シタル副本ヲ渡シタル後營テ其正本ヲ  
記セシ證書人又ハ之ニ代リ任ヲ得タル證書人又ハ其他其正本  
ヲ預カル官吏別段裁判役ノ命ナク又契約ヲ結ヒシ雙方ノ者ノ  
承諾ナク其正本ヨリ寫シタル副本ハ其經營ノモノタル時其失



ヒタル正本ニ等シク之ヲ證トシテ用フルヲ得可シ  
其副本ヲ記シタル日ヨリ三十年以上ノ時間ヲ經タル時ハ之ヲ  
經舊ノモノトス可シ

若シ其副本ヲ記シタルヨリ三十年ニ滿タサル時ハ之ヲ證據ノ  
端緒ノミニ用フ可シ

第三 若シ同上ノ副本嘗テ其正本ヲ記セシ證書人又ハ之ニ代リ  
任テ得タル證書人又ハ其正本ヲ預カル官吏ノ記シタルモノニ  
非サル時ハ其副本如何ニ經舊ノモノト雖モ之ヲ證據ノ端緒ノ  
ミニ用フ可シ

第四 副本ヨリ寫シタル副本ハ其時ノ模樣ニ從ヒ參考ノ爲メ之  
ヲ用フルヲ得可シ

第一千三百三十六條 證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル時ハ其簿冊ニ記

スル所ヲ以テ證據ノ端緒ノミト爲ス可ク且是カ爲メニモ左ノ二件  
ノ備ハリタルヲ必要トス

第一 嘗テ其證書ノ正本ヲ記シタル一年內ニ證書人ノ記シタル  
諸般ノ證書ノ正本ヲ盡ク失ヒタルヲノ分明ナル事又ハ意料外  
ノ事ニ因リ特ニ其一箇ノ證書ノ正本ヲ失ヒタルノ證アル事

第二 其證書ノ正本ヲ記セシ證書人ノ目錄一年中其記スル所ノ  
諸般ノ證書ノ大意ヲ  
番號ヲ立テアリテ其目錄ニ因リ其證書ノ正本ヲ記シタル日附  
ハ本人ノ述フル所ノ日附ト相違セサルノ證ヲ知リ得可キ事  
此二箇ノ模樣ノ共ニ備ハリタルニ因リ官署ノ簿冊ニ登記シタ  
ル所ヲ以テ證據ノ端緒ト爲ス可キ時嘗テ其證書ノ正本ヲ記セ  
シ時ノ證人猶生存スルニ於テハ之ヲ呼出シテ其申述ヲ聽ク  
ヲ必要トス



○第五節 義務ヲ認ムルノ書及ヒ義務ヲ確的ニ爲スノ書

第一千三百三十七條 義務ヲ認ムルノ書アリト雖モ其義務ノ證書ノ正

本ヲ出サ、ルヲ得ス但シ義務ヲ認ムル書ニ其義務ノ證書ノ文詞

ヲ特ニ記入シタル時ハ格別ナリトス

義務ヲ認ムルノ書ニ義務ノ證書ノ正本ニ記スル所ノ外更ニ餘事ヲ

記シ又ハ其正本ト異ナリシ事ヲ記シタルト雖モ此等ノ事ハ其効ナ

シトス

然レ義務ヲ認ムル書ノ互ニ符合シタルモノ數通アリテ義務ヲ得可

キ者既ニ其書ニ從ヒ義務ノ一部ノ執行ヲ得且其中ノ一通ヲ記シタ

ルヨリ三十年以上ノ時間ヲ經タル時ハ其義務ヲ得可キ者其義務ノ

證書ノ正本ヲ出スニ及ハサルノ允許ヲ受ルルヲ得可シ

第一千三百三十八條 法律上ニテ取消ノ訴ヲ爲シ得可キ義務ヲ確的ニ

爲スノ書ハ其義務ノ要領及ヒ之ヲ取消スノ訴ヲ爲スノ權利ヲ生セ  
シメタル原由ト其原由タル條件ヲ更改ス可キノ意トヲ記シタルニ  
非サレハ其効ナカル可シ

又義務ヲ確的ニ爲スノ書ナシト雖モ法ニ適シテ義務ヲ確的ニ爲ス  
ヲ得可キ期限ノ後ニ至リ幼年ノ者丁年ニ其義務ヲ行フ可キ者ノ隨  
意ニテ其義務ヲ行フタル時ハ其義務ヲ確的ニ爲シタルノ證アリト  
ス

法律上ニ定メタル法式ト期限トニ循ヒ義務ヲ確的ニ爲シタル時又  
ハ義務ヲ行フ可キ者ノ隨意ニテ其義務ヲ行フタル時ハ其義務ノ證  
書ヲ取消サント訴フルノ權ヲ拋棄シタルト看做ス可シ但シ此規則  
ヲ以テ其契約ニ管セサル者ノ權利ヲ害スルヲナカル可シ

第一千三百三十九條 生存中ノ贈遺ノ證書ニ法式ニ背キタル事アル時



ハ之ヲ確的ニ爲ス可キ書ヲ記スルト雖モ其證書ノ効チ生セシムル  
ヲ得ス必ス法律上ニ定メタル法式ヲ用ヒ更ニ改メテ贈遺ノ證書  
ヲ記スルヲ必要トス

第一千三百四十條 生存中ノ贈遺ヲ爲シタル者ノ遺物相續人及ヒ代權  
人其贈遺ヲ爲シタル者ノ死去ノ後其贈遺ノ證書ヲ確的ニ爲シタル  
時又ハ自己ノ隨意ニテ其贈遺ノ如ク執行フタル時ハ其贈遺ノ證書  
ノ法式ニ背キタルヲ述ヘ又ハ其他ノ事故ヲ申述ヘテ其證書ヲ取  
消サント訴フルノ權ヲ拋棄シタリト看做ス可シ

○第二款 證人

第一千三百四十一條 隨意ニ附託シタル物ト雖モ百五十「フランク」以上  
ノ金高及ヒ物件ニ付テハ證人ヲ以テ證ヲ立ツ可カラス證書人ノ面  
前ニテ記シタル證書公正ノ證書ヲ云フ又ハ姓名ヲ手署シタル私ノ證書アル

「ヲ必要トス又百五十「フランク」以下ノ金高及ヒ物件ニ管シタル時  
ト雖モ其證書アルニ於テハ之ニ記シタル所ト異ナリシ事又ハ之ニ  
記シタル所ヨリ更ニ餘分ノ事ハ證人ヲ以テ證ス可カラス又其證書  
ヲ記スル前其證書ヲ記スル時其證書ヲ記セシ後ニ言説シタルト云  
フ所ノ事モ又證人ヲ以テ證ス可カラス  
但シ此規則ト商法ニ定ムル所ノ規則ト相觸ル、ヲナカル可シ  
第一千三百四十二條 元金ト其息銀トヲ求ムルノ訴ヲ爲ス時其息銀ト  
元金トヲ合算シテ百五十「フランク」ノ高ニ過クルニ於テハ亦前條ノ  
規則ヲ通シテ用フ可シ

第一千三百四十三條 百五十「フランク」以上ノ高ヲ得ント訴ヘタル者ハ  
後ニ其訴フル所ノ高ヲ減スルト雖モ證人ヲ以テ其證ヲ立ツルヲ得  
得ス



○九五

第一千三百四十四條 百五十「フランシ」以下ノ高ヲ得ント訴フル時ト雖モ其高ハ別段證書ヲ以テ證ヲ立テサル百五十「フランシ」以上ノ高ノ殘リ高タル「又」ハ其一部タル「一」ノ言渡アルニ於テハ證人ヲ以テ其證ヲ立ル「一」ヲ得ス

第一千三百四十五條 證書ノ備ハラサル數箇ノ金高又ハ物件ヲ得ント訴フル者アル時其數箇ノ金高又ハ物件ヲ合算シテ百五十「フランシ」以上ニ至ルニ於テハ縱令ヒ其數箇ノ金高又ハ物件ヲ未ムルノ權各々相異ナリタル理由ニ出テ且其權ノ生シタル時日ノ互ニ異ナリタル「一」ヲ述フルト雖モ證人ヲ以テ其證ヲ立ル「一」ヲ得ス但シ其數箇ノ金高又ハ物件ヲ未ムルノ權ヲ遺物相續又ハ贈遺又ハ其他ノ方法ニ因リ數人ヨリ讓リ受ケタル時ハ格別ナリトス

第一千三百四十六條 證書ヲ以テ證ヲ立テサル數箇ノ條件ニ付テノ訴

ハ其條件ノ名義如何ナルヲ問ハス一通ノ訴狀ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ其訴狀ヲ相手方ニ送リタル後ハ證書ヲ以テ證ヲ立テサル其他ノ條件ノ訴ヲ爲スト雖モ裁判所ニテ之ヲ許サス

第一千三百四十七條 證據ノ端緒アル時ハ前數條ニ記シタル規則ト異ナリトス

被告人又ハ其名代人ノ記シタル書面アリテ原告人ノ訴フル所正實ナル可シト思料スルヲ得可キ時ハ證據ノ端緒アリトス

第一千三百四十八條 義務ヲ得可キ者己レノ契約シタル義務ノ證書ヲ得ル「一」能ハサルノ情實アル時ハ亦前數條ニ記スル所ノ規則ト異ナリトス 證人ヲ以テ證ヲ立ル「一」ヲ得可キヲ云フ

此事ハ左ノ四箇ノ場合ニ通シ用フ可シ

一九五

第一 准契約別ニ契約ヲ結フ事ナリ人ノ隨意ニテ爲シタル事ヨリ

カシコントライ

義務ヲ生シタル約束ヲ云フ此篇第四卷ニ詳ナリ



又ハ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所行或ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル所行ヨリ生シタル義務アル時

第二 火災崩潰騒亂破船等ノ場合ニ於テ止ムヲ得ス人ニ物ヲ附

託シタル時又ハ旅舎ニ宿シタル旅客其物件ヲ附託シタル時

但シ此等ノ事ハ其人ノ模様ト其時ノ景狀トニ從テ定ム可シ

第三 證書ヲ記シ能ハサル意外ノ事ニ因リ契約シタル義務ヲ得可キ時

第四 義務ヲ得可キ者抗拒ス可カラサル意外ノ事ニ因リ其證書ヲ失ヒタル時

○第三款 思料ノ事

第一千三百四十九條 思料トハ法律上ニ定ムル所ニ因リ又ハ裁判役ノ判断ニ因リ知り得タル事ヨリ知り得サル事ニ推シ及シテ思料スル

トナ云フ

○第一節 法律上ニ定メタル思料ノ事

第一千三百五十條 法律上ニ定メタル思料トハ別段設ケタル法ニ因リ或ル證書又ハ或ル事柄ニ付キ思料ヲ爲スヲ云フ但シ其證書及ヒ事柄ハ左ニ記スル所ノモノナリトス

第一 證書ノ旨趣ニ因リ法律ニ背キタルトシ思料シ其効ナキ旨ヲ法律上ニ定ムル證書

第二 法律上ニ定メタル景况アルニ因リ物件所有ノ權アルトシ又ハ義務ノ釋放ヲ得タルトシ別段法律上ニ定ムル場合

第三 既ニ控訴ス可カラサルニ至リシ裁判ヲ經タル事ノ力  
第四 一方ノ者ノ自認又ハ其誓詞ノ力

第一千三百五十一條 既ニ控訴ス可カラサルニ至リシ裁判ヲ經タル事



四九五

ノカハ其裁判ノ旨趣タル事ノミニ付キ備ハリタルモノトス但シ此  
レカ爲メニハ一方ノ者ノ訴フル所ノ事既ニ其裁判ヲ經タル事ト同  
一ニシテ其訴ヲ爲スノ原由及ヒ其訴ヲ爲ス者モ亦以前ニ等シク且  
其原告ハ以前ノ原告ニシテ其被告ハ以前ノ被告タルヲ必要トス  
第一千三百五十二條 法律上ニテ權利ヲ有スルノ思料ヲ受クル者ハ其  
權利ノ證ヲ立ルニ及ハス  
法律上ノ思料ニ因リ證書ノ効ナキ事又ハ訴訟ヲ爲スヲ許サ、ル事  
ヲ法律上ニ定メタル時ハ其思料ニ反シタル證ヲ立ルヲ許サス但  
シ其思料ニ反シタル證ヲ立ルヲ得可キ旨ヲ別段法律上ニ定メタ  
ル時ハ格別ナリトス又誓詞又ハ自認ニ付テノ規則モ亦例外ナリト  
ス

○第二節 法律上ニ定メサル思料ノ事

第一千三百五十三條 法律上ニ定メサル思料トハ裁判役ノ知識ト思慮  
トニ因リ爲ス所ヲ云フ但シ裁判役ハ重故アリテ詳明符合シタル思  
料ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス又證人ヲ以テ證ヲ立ルヲ法律上  
ニ許シタル場合ニ非サレハ其思料ヲ爲ス可カラス尤モ詐僞ヲ原由  
ト爲シテ證書ヲ取消サント訴フル時ハ格別ナリトス

○第四款 一方ノ者ノ自認

第一千三百五十四條 一方ノ者ノ自認ハ裁判所外ニテ爲スモノアリ又  
ハ裁判所ニ於テ爲スモノアリ

第一千三百五十五條 一方ノ者裁判所外ニテ言詞ノミヲ以テ自認ヲ爲  
シタルヲ相手方ヨリ述フルト雖モ證人ヲ以テ證ヲ立ルヲ許サ  
、ル訴ニ付テハ其効ナカル可シ

五九五

第一千三百五十六條 裁判所ニ於テ爲シタル自認トハ一方本人又ハ其



本人ヨリ特ニ證書ヲ以テ任シタル名代人裁判所ニ於テ述フル所ヲ云フ

其自認ヲ爲シタル者ニ對シテハ之ヲ以テ確證ナリトス

一方ノ者其義務ノ一部ヲ行ヒ他ノ一部ヲ行ハサル旨ヲ自認シタル時ハ相手方ノ者其義務ノ一部ヲ得タルハ虚ニシテ他ノ一部ヲ得サルハ實ナルヲ述フ可カラス

又一方ノ者自認シタル所ハ事實ノ錯誤ニ因リ之ヲ爲シタルノ證アルニ非サレハ之ヲ取消ス可カラス○法律上ノ錯誤ヲ以テ口實ト爲シ自認ヲ取消スヲ得ス

○第五款 誓ノ事

第一千三百五十七條 裁判所ニ於テ爲ス所ノ誓ハ二様ナリトス

第一 誓ニ據テ訴訟ノ審判ヲ爲サシムル爲メ一方ノ者ヨリ相手

方ニ求メタル誓但シ此誓ヲ名ケテ訴訟審判ノ誓ト云フ

第二 裁判役其職務ニ因リ一方ノ者ニ命シタル誓

○第一節 訴訟審判ノ誓

第一千三百五十八條 訴訟審判ノ誓ハ何レノ訴訟ニ付テモ之ヲ爲ス可キノ求メテ爲スヲ得可シ

第一千三百五十九條 相手方ノ一身ニ管シタル事ニ非サレハ一方ヨリ誓ヲ爲ス可キヲ求ムルヲ得ス

第一千三百六十條 訴訟ヲ爲スニ付テノ證據ノ端緒又ハ訴訟ヲ拒ムニ付テノ證據ノ端緒ナキ時ト雖モ訴訟ヲ爲ス間何時ニ限ラス誓ヲ爲ス可キヲ求ムルヲ得可シ

第一千三百六十一條 誓ヲ爲ス可キノ求メテ受ケシ者其誓ヲ爲スヲ肯セサル時又ハ其求メテ爲シタル者ニ誓ヲ反シ求メサル時ハ其訴



訟ヲ爲スノ權又ハ訴訟ヲ拒ムノ權ヲ失フ可シ又誓ヲ爲ス可キノ求  
メテ爲シタル者其相手方ヨリ誓ヲ反シ爲ス可キノ求ヲ受ケ之ヲ肯  
セサル時ハ亦此等ノ權ヲ失フ可シ

第一千三百六十二條 誓ヲ爲スノ旨趣雙方ノ者ニ管シタル事ニ非ラス  
シテ唯其誓ヲ爲ス可キ求メテ受ケシ者ノ一身ノミニ管シタル時ハ  
其者ヨリ其求メテ爲シタル者ニ誓ヲ反シ求ムルヲ得ス

第一千三百六十三條 一方ノ者相手方ヨリ誓ヲ爲ス可キノ求メテ受ケ  
之ヲ爲シタル時又ハ誓ヲ反シ爲ス可キノ求メテ受ケ之ヲ爲シタル  
時ハ相手方ノ者其誓ノ偽タルヲ述フルヲ得ス

第一千三百六十四條 一方ノ者相手方ニ誓ヲ爲ス可キノ求メテ爲シ又ハ  
誓ヲ反シ爲ス可キノ求メテ爲シタル時相手方其求メテ承諾シタルニ  
於テハ一方ノ者翻辭ヲ爲スヲ得ス

第一千三百六十五條 誓ハ之ヲ爲ス可キヲ求メタル本人又ハ其遺物  
相讀人及ヒ代權人ノミノ利益或ハ損害トナルノ證トス可シ

連帶シテ義務ヲ得可キ者ノ中一人義務ヲ行フ可キ者ニ對シ誓ヲ爲  
ス可キノ求メテ爲シ其義務ヲ行フ可キ者誓ヲ爲シタル時ハ義務ヲ  
行フ可キ者義務ヲ得可キ者ノ中一人ノ部分ノミニ付キ其釋放ヲ  
得可シ

主タル義務ヲ行フ可キ者ニ對シ誓ヲ爲ス可キノ求メテ爲シ其者其  
誓ヲ爲シタル時ハ其保證人モ亦其釋放ヲ得可シ

連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ニ對シ誓ヲ爲ス可キノ求メテ  
爲シ其一人其誓ヲ爲シタル時ハ義務ヲ行フ可キ他ノ數人ノ利益ト  
ナル可シ

保證人ニ對シ誓ヲ爲ス可キノ求メテ爲シ保證人其誓ヲ爲シタル時



ハ主タル義務ヲ行フ可キ者ノ利益トナル可シ  
此條ノ第四項第五項ノ場合ニ於テ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中  
一人及ヒ保證人連帶及ヒ保證ノ事ニ付キ誓ヲ爲ス可キノ求メテ受  
ケ義務ノ事ニ付キ其求メテ受ケサル時ハ其誓ヲ以テ義務ヲ行フ可  
キ他ノ數人及ヒ主タル義務ヲ行フ可キ者ノ爲メ利益ヲ生ス可カラ  
ス

〇第二節 裁判役其職務ニ因リ命シタル誓

第一千三百六十六條 裁判役ハ訴訟ノ裁判ヲ爲スニ付テノ一證トシテ  
一方ノ者ニ誓ヲ爲スコトヲ命シ又ハ償還ノ高ヲ定ム可キカ爲メ一方  
ノ者ニ誓ヲ爲スコトヲ命スルヲ得可シ

第一千三百六十七條 裁判役左ノ二箇ノ場合ニ非サレハ訴訟又ハ其抵  
拒ニ付キ己レノ職務ヲ以テ誓ヲ爲ス可キコトヲ命スルヲ得ス

第一 訴訟又ハ其抵拒ノ證全ク備リタルニ非サル時

第二 訴訟又ハ其抵拒ノ證全ク備ハラサルニ非サル時

此二箇ノ場合ノ外ハ裁判役誓ヲ命スルコトナク其訴訟又ハ其抵拒ノ  
申立ヲ全ク取上ケ又ハ取上ケサル可シ

第一千三百六十八條 裁判役其職務ニ因リ一方ノ者ニ誓ヲ爲ス可キコ  
トヲ命シタル時ハ其相手方ニ對シ誓ヲ反シ求ムルコトヲ得ス

第一千三百六十九條 一方ノ者己レニ得ント訴ヘタル物件ノ價ニ付キ  
誓ニ非サル方法ヲ用ヒ證ヲ立ルコト能ハサル時ノ外裁判役其者ニ對  
シ誓ヲ爲ス可キコトヲ命スルヲ得ス

又此場合ニ於テ裁判役ハ幾許ノ高ニ至ル迄原告人ノ誓ヲ以テ信據  
ト爲ス可キヤヲ定ム可シ



○第四卷 契約ナクシテ生スル義務(千八百四年二月九日決定同月十九日布告)

第一千三百七十條 義務ノ中ニ之ヲ行フ可キ者モ之ヲ得可キ者モ契約ヲ爲スコトナクシテ生スルモノアリ

此義務ハ法律上ニテ生スルモノアリ又ハ一方ノ者ノ所爲ニ因リ生スルモノアリ

法律上ニテ生シタル義務トハ相隣シタル土地ノ所有者ノ間ノ義務又ハ後見人又ハ支配人等總テ己レノ任セラレタル職務ヲ行ハサルヲ得サル者ノ義務ノ如ク人ノ意ニ因ラスシテ生シタル義務ヲ云フ一方ノ者ノ所爲ニ因リ生スル所ノ義務ハ准契約ヨリ生シ又ハ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所爲或ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加

ヘタル所爲ヨリシテ生ス但シ此類ノ義務ハ此卷ニ之ヲ解明ス

○第一章 准契約

第一千三百七十一條 准契約トハ人ノ隨意ニテ行フタル所爲ニ因リ他人ニ對シテ義務ヲ生シ又時トシテハ其所爲ニ因リ雙方ノ間ニ互ニ義務ヲ生スル事ヲ云フ

第一千三百七十二條 人自己ノ隨意ヲ以テ他人ノ事務ヲ管理スル時ハ他人其管理ノ事ヲ知ルト否トチ問ハス其管理ヲ爲ス者其爲シ始メタル管理ヲ繼續シテ爲シ他人自カラ其事務ヲ管理スルヲ得可キニ至ル迄其管理ヲ成就スルノ手續ヲ爲ス可キ默許ノ義務ヲ負フタリトス又其管理ヲ爲ス者ハ其管理スル事務ニ附帶シタル諸事ヲモ引受ケサルヲ得ス

此管理ヲ爲ス者ハ其本人ヨリ別段名代ノ證書ヲ受ケタルニ等シキ



四〇六

義務ヲ行フ可シ

第一千三百七十三條 若シ本人其管理ノ事務ノ終成スル前ニ死去スル  
コアリト雖モ管理ヲ爲ス者ハ其死者ノ遺物相續人管理ヲ爲スコト  
得可キニ至ル迄其管理ヲ繼續シテ行ハサルヲ得ス

第一千三百七十四條 管理ヲ爲ス者ハ之ヲ爲スニ付キ極メテ懇切ニ注  
意スルコトヲ必要トス

然レ其事務ノ管理ヲ爲シ始メタル時ノ情實ニ因リ裁判役管理ヲ爲  
ス者ノ過失又ハ懈怠ノ償ヲ減少スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千三百七十五條 自己ノ隨意ニテ他人ノ事務ヲ管理スル者適宜ニ  
之ヲ爲シタル時ハ其者本人ノ名前ニテ人ト契約シタル義務ハ本人  
ヨリ盡クス可シ又其管理ヲ爲シタル者其管理ノ爲メ自己ニ擔當シ  
テ盡クシタル義務ハ本人ヨリ之ヲ其者ニ償ヒ且其者ノ爲シタル有

益ノ費用又ハ己ムコトヲ得サル費用モ亦本人ヨリ之ヲ其者ニ償フ可  
シ

第一千三百七十六條 錯誤ニ因リ又ハ故意ヲ以テ己レノ得可カラサル  
物ヲ受取リタル者ハ之ヲ其渡シタル者ニ還ス可シ

第一千三百七十七條 錯誤ニ因リ自カラ義務ヲ行フ可シト思ヒ其義務  
ヲ盡クシタル時ハ其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ヲ訴フルノ權アリ  
然レ其義務ヲ得タル者之ヲ得タルニ因リ其證書ヲ破棄シタル後ハ  
誤テ義務ヲ盡クシタル者其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻ヲ訴フルノ  
權ナク唯當然其義務ヲ行フ可キ者ニ對シテ其償ヲ得ント訴フルコ  
トヲ得可シ

五〇六

第一千三百七十八條 若シ前條ノ場合ニ於テ義務ヲ得タル者不正ノ事  
アル時ハ其者其得タル義務ノ元高ト之ヲ得タル日ヨリ以來ノ利分



トチ還ス可シ

第一千三百七十九條 不當ニ有體ノ不動産又ハ動産ヲ受取リタル者ハ其不動産又ハ動産ノ現存スルニ於テハ其品物ノ儘之ヲ還ス可シ又其者ノ過失ニ因リ其不動産又ハ動産ヲ滅シ盡サシメ或ハ卑惡ニ至ラシメタルニ於テハ其價ヲ還ス可シ但シ之ヲ受取ルニ付キ不正ノ處置ヲ爲シタル時ハ縱令ヒ意外ノ事ニ因リ其物ヲ失フタリト雖モ其者其責ヲ免ル、コチ得ス

第一千三百八十條 不正ノ意ニ非スシテ錯テ物件ヲ收受シタル者其收受セシ物ヲ賣拂フタル時ハ其賣拂ニ因リ得タル所ノ價高ノミチ還與ス可シ

第一千三百八十一條 自己ノ所有物ノ返還ヲ得タル者ハ縱令ヒ不正ニ其物ヲ所得ト爲シタル者ニ對スルト雖モ其者之ヲ保全ス可キタメ

爲シタル所ノ己ムチ得サル費用及ヒ有益ノ費用ヲ盡ク償フ可シ

○第二章 故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所行及ヒ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル所行

第一千三百八十二條 何事ニ因ラス人ニ損害ヲ加フル所行ヲ爲シタル時ハ其償ヲ爲ス可シ

第一千三百八十三條 何人ニ限ラス自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミニ非ス自己ノ懈怠又ハ疎忽ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

第一千三百八十四條 自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミニ非ス自己ノ引受ク可キ者又ハ自己ノ管守スル物ノ種類等ノ所爲ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ故ニ父又父ノ死去シタル後ハ母ヨリ其同居ノ幼年ノ子ノ人ニ加ヘ



タル損害ヲ償フ可シ

家長及ヒ人ヲ使用スル者ハ其僕婢及ヒ使用ヲ受クル者ノ其任ヲ受ケタル事ニ付キ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

授業師及ヒ工作者ハ其受業者及ヒ工作ヲ學フ者己レノ管照ヲ受クル時間ニ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

父及ヒ母又ハ授業師及ヒ工作者ハ其子又ハ弟子ノ人ニ損害ヲ加ヘシ所行ヲ防制スルヲ能ハサルノ證ヲ立ルニ非サレハ上ニ記スル所ノ如ク其償ヲ爲ス可キノ責ヲ免ル、ヲ得ス

第一千三百八十五條 獸類ノ所有者又ハ獸類ヲ用フル者ハ之ヲ用フル時間ニ其獸類ヲ管守シタルト其徘徊逃逸シタルトヲ問ハス其獸類ノ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

第一千三百八十六條 家屋ノ所有者ハ之ヲ修理スルヲ怠リタルニ因

リ又ハ之ヲ建造スル法ノ不良ナルニ因リ其家屋ノ崩潰シテ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

○第五卷 婚姻ノ契約書及ヒ夫婦雙方ノ權〔千八百四年二月十日決定同月二十日布告〕

○第一章 總規則

第一千三百八十七條 夫婦トナル可キ雙方ノ間ニ別段ノ契約ナキ時ノ外ハ法律ヲ以テ夫婦ノ財産支配ノ方法ヲ規定スルヲナシ但シ夫婦ハ國ノ風俗ヲ亂ルヲナシ且後ノ數條第一千三百八十八條以下第一千三百八十九條迄ノ數條ヲ云フニ記列スル所ノ規則ニ循フ時ハ其隨意ノ契約ヲ取結フヲ得可シ  
第一千三百八十八條 夫其婦及ヒ其子ノ身ノ上ヲ指令スルニ付テノ權、



夫ノ家長タルニ付キ有スル所ノ權第一篇第九卷親ノ及ヒ第十卷幼年ノ後見等ニ循ヒ夫婦中ノ生存スル者ニ與フル所ノ權并ニ民法ニ於テ別段定メタル所ノ規則第一千三百九十九條第一千四百五十三條等見合セハ夫婦ノ契約ヲ以テ之ニ背シテ得ス

第一千三百八十九條 夫婦ハ其子又ハ卑屬ノ親ヨリ遺物相續ヲ爲スニ付キ雙方ノ間ニ其當然ノ規則ヲ變易セントシ又ハ其數人ノ子ヲ自己ノ遺物相續ヲ爲サシムルニ付キ其數人ノ間ニ遺物相續ノ當然ノ規則ヲ變易セントスルノ契約又ハ拋棄ヲ爲スヲ得ス但シ此條ニ記スル所ハ民法ニ定メタル場合ト法式トニ循ヒ爲スヲ得可キ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ差支トナルヲナカル可シ第一千八十一條以下數條見合

第一千三百九十條 夫婦ハ往時佛蘭西國中ノ各所ニ行ハレ方今此民法

ヲ以テ廢棄シタル各地方ノ風習及ヒ法例ニ循ヒ婚姻ノ契約ヲ爲ス可キヲ泛博ニ定ムルヲ得ス

第一千三百九十一條 (千八百五十年七月十日左ノ如ク改ム)然レ夫婦ハ

財産共通ノ法又ハ嫁資分括ノ法ヲ以テ婚姻ヲ結フ可キヲ泛博ニ定ムルヲ得可シ

財産共通ノ法ヲ用フル時ハ夫婦及ヒ其相續人ノ權ヲ此卷ノ第二章ニ循ヒ定ム可シ

嫁資分括ノ法ヲ用フル時ハ夫婦及ヒ其相續人ノ權ヲ此卷ノ第三章ニ循ヒ定ム可シ然レ婚姻ノ證書ニ夫婦契約書ナクシテ婚姻ヲ結ビ

シト記シタル時ハ其婦他人ニ對シ平常ノ法第一千三百九十二條見合セニ循ヒ其夫ト婚姻ノ契約ヲ結ヒタルモノト爲ス可シ但シ其婦他人ト結ビ

シ契約ノ證書中ニ別段婚姻ノ契約書ヲ記シタル事ヲ記入シタル時



二一六

ハ此例ニ非ス

第一千三百九十二條 婦自カテ其財産ヲ嫁資ト爲シ又ハ他人ヨリ其財産ヲ婦ノ嫁資ト爲ス可キノ約束アルノミニシテ別段婚姻ノ契約書ニ其財産ヲ嫁資分括ノ法ニ處置ス可キヲ記セサル時ハ其財産ヲ此法ニ處置スルヲ得ス又夫婦其財産ヲ共通スルヲナク婚姻ヲ爲シ又ハ互ニ其財産ヲ分ツテ婚姻ヲ爲ス可キヲ述ヘタルノミニテハ亦其財産ヲ嫁資分括ノ法ニ處置スルヲ得ス

第一千三百九十三條 夫婦其財産ニ付キ共通ノ法ニ反シタル契約ヲ結ビシ時又ハ其法ノ例外タル契約ヲ結ヒシ時ノ外ハ通常此卷ノ第二章ノ第一則ニ記スル規則ヲ以テ佛蘭西國婚姻ノ定則ナリトス  
第一千三百九十四條 (千八百五十年七月十日左ノ如ク改ム)總テ婚姻ノ契約書ハ婚姻ヲ結フ前ニ證書人之ヲ記ス可シ

證書人ハ第一千三百九十一條ノ末項ト此條ノ末項トチ夫婦トナル可キ雙方ノ者ニ讀ミ聞ス可シ○其讀ミ聞シタル事ハ之ヲ其契約書中ニ附記ス可シ若シ之ヲ附記セサル證書人ハ十「フラン」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

證書人ハ夫婦雙方共ニ婚姻ノ契約書ニ姓名ヲ手署スル時己レノ姓名住所及ヒ雙方ノ者ノ姓名身上住所并ニ其契約書ノ日附ヲ印税ナキ紙ニ記シタル受合書ヲ雙方ノ者ニ渡ス可シ○其受合書ニハ雙方ノ者婚姻ヲ行フ前ニ其書ヲ身上證書ノ官吏ニ渡ス可キ旨ヲ附記ス可シ

第一千三百九十五條 婚姻ノ契約書ハ婚姻ヲ行フタル後ニ更改ス可カラス

三一六

第一千三百九十六條 婚姻ヲ行フ前ニ其契約書ノ條件ヲ更改セントス



ル時ハ之ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其契約書ト同一ノ  
法式ヲ用ヒ記シタル所ノ證書ヲ以テ其更改ノ旨ヲ證ス可シ  
又其更改ノ證書又ハ秘密ノ證書 婚姻ノ契約書ヲ密カニ改メ  
ノ契約書ニ管セシ者盡ク立會ノ上同時ニ之ヲ承諾シタルニ非サ  
ハ其効ナカル可シ

第一千三百九十七條 總テ婚姻ノ契約書ヲ更改スル證書又ハ秘密ノ證  
書ハ縱令前條ニ記セシ規則ニ循フタルモノト雖モ之ヲ婚姻契約書  
ノ正本ノ末ニ附記シタルニ非サレハ其契約書ニ管セサル者ニ對シ  
其効ナカル可シ又證書人ハ更改ノ證書又ハ秘密ノ證書ヲ婚姻契約  
書ノ寫ノ末ニ附記セスシテ之ヲ渡ス可カラス若シ之ニ背ク時ハ之  
カ爲メ損失ヲ受ケシ者ニ對シテ償ヲ出シ又別段ノ道理アル時ハ更  
ニ重キ罰ヲ言渡サル可シ

第一千三百九十八條 婚姻ノ契約ヲ結フヲ得可キ幼者ハ其契約書ノ  
箇條ヲ承諾シテ之ヲ定ムルヲ得可シ但シ其幼者ノ定メタル契約  
及ヒ贈遺ハ其幼者ノ婚姻ヲ爲スヲ許ス可キ權アル者之ヲ承諾シ  
タル上ニ非サレハ其効ナカル可シ

○第二章 夫婦財産共通ノ法

第一千三百九十九條 夫婦財産ヲ共通スルハ法律上ヨリ生スルト契  
約ヨリ生スルトヲ問ハス身上證書ノ官吏ノ面前ニテ婚姻ヲ結ヒシ  
日ヨリ之ヲ始ム可ク他ノ期日ヨリ始ムルヲ約ス可カラス

○第一則 法律上ヨリ生シタル財産共通ノ法

第一千四百條 夫婦財産共通ノ法ヲ用ヒ婚姻ヲ結フ可キヲ述ヘタル  
時又ハ別段契約ノアラサル時ハ後ノ六款ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ  
其財産ヲ共通ス可シ



○第一款 共通財産ノ利得及ヒ負債

○第一節 共通財産ノ利得

第一千四百一條 共通財産ノ利得トナル可キ物ハ左ノ如シ

第一 夫婦婚姻ヲ行フタル日ニ其所有スル動産并ニ其結縁ノ間

ニ遺物相續又ハ贈遺ノ名義ヲ以テ夫婦ノ得タル動産ノ全部但

シ其贈遺ヲ爲ス者特ニ其贈遺シタル財産ヲ夫婦共通ノ財産中

ニ入レサルヲ定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第二 婚姻ヲ行フタル時夫婦ニ屬スル財産ヨリ生スル利益、入額

息銀又ハ何レノ名義タルヲ問ハス其結縁ノ間ニ得タル財産ヨ

リ生スル利益、入額、息銀但シ其利益、入額、息銀ハ其種類ノ如何ナ

ルヲ問ハス結縁ノ間ニ得ル所ノモノニ限ル可シ

第三 夫婦結縁ノ間ニ買ヒ入レタル不動産

第一千四百二條 夫婦中ノ一人婚姻ヲ結フ以前ニ所有ト爲シ又ハ法ニ

循テ占有セシ證アル不動産又ハ婚姻ヲ結ヒシ後遺物相續或ハ贈遺

ノ名義ヲ以テ得タル證アル不動産ヲ除クノ外如何ナル不動産ト雖

モ共通ノ財産中ニ入ル可キモノトス可シ

第一千四百三條 森林ヨリ伐出シタル木材又ハ石礦及ヒ其他ノ礦中ヨ

リ掘出シタル物ノ中第二篇第三卷入額所得ニ記シタル規則ニ循ヒ

物件入額ノ所得ナリト爲ス可キ諸件ハ皆之ヲ共通ノ財産ニ屬ス可

シ

此規則ニ循ヒ財産ヲ共通スル時間ニ森林ヨリ伐リ出ス可キ木材ア

ル時之ヲ伐リ出サハルニ於テハ夫婦中ニテ其森林ヲ所有セサル一

方ノ者又ハ其相續人ニ他ノ一方ヨリ後ニ相當ノ償ヲ爲ス可キノ義

務アリ



又夫婦結縁ノ間ニ石礮及ヒ其他ノ礮ヲ穿開シ其堀出シタル物ヲ共通ノ財産中ニ加入シタル時ハ後ニ共通ノ財産中ヨリ一方ノ者ニ相當ノ償還ヲ爲ス可シ

第一千四百四條 夫婦婚姻ヲ行フタル日ニ所有シタル不動産又ハ遺物相續ノ名義ニテ其結縁ノ間ニ得タル不動産ハ共通ノ財産中ニ屬セサルモノトス

然レ夫婦中ノ一人財産共通ヲ約シタル婚姻ノ契約書ヲ記セシ後未タ婚姻ヲ行ハサル前ニ不動産ヲ買入レタル時ハ其不動産ヲ共通ノ財産中ニ屬ス可シ但シ婚姻ノ契約書ノ箇條ニ循ヒ其不動産ヲ買入レタル時ハ其契約ニ循ヒ其不動産ヲ取扱フ可シ

第一千四百五條 結縁ノ間ニ人ヨリ其夫婦中ノ一人ニ贈遺トシテ與ヘタル不動産ハ之ヲ共通ノ財産中ニ屬ス可カラズ其贈遺ヲ受ケタル

夫又ハ婦ノミニ屬ス可シ但シ其不動産ヲ贈遺ト爲シタル者之ヲ共通ノ財産中ニ屬ス可キヲ別段定メタル時ハ格別ナリトス

第一千四百六條 父母及ヒ其他尊屬ノ親夫婦中ノ一人ニ對シ負フタル義務ヲ盡ス可キ爲メ又ハ父母及ヒ其他尊屬ノ親他人ニ對シ負フタル義務ヲ夫婦中ノ一人ヲシテ盡クサシム可キ爲メ其一人ニ贈與シタル不動産ハ之ヲ共通ノ財産中ニ屬ス可カラズ但シ此等ノ手續ヲ爲スニ付キ共通ノ財産中ヨリ費シタル所ハ夫婦中其贈遺ヲ受ケタル一方ノ者共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ

第一千四百七條 夫婦中ノ一人ニ當テ屬シタル不動産ト交換ノ名義ヲ以テ結縁ノ間ニ其一人ノ得タル不動産ハ之ヲ共通ノ財産中ニ加フ可カラズ但シ其交換ヲ爲スニ付キ共通ノ財産中ヨリ費シタル所ハ夫婦中其交換ヲ爲シタル一方ノ者共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ



○二六

第一千四百八條 夫婦中ノ一人當テ他人ノ共同シテ所有シタル不動産ノ一部ヲ糶賣ニテ買入ル、名義又ハ其他ノ名義ニテ夫婦結縁ノ間ニ買入レタル時ハ之ヲ共同ノ財産中ニ加フ可カラズ但シ其不動産買入ニ付キ共同ノ財産中ヨリ費シタル所ハ夫婦中其買入ヲ爲シタル一方ノ者共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ

夫其一身ノ名前ニテ其婦ノ他人ト共同シテ所有シタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ買入レタル時ハ後ニ夫婦財産ノ共通ヲ解除スル時ニ至リ婦其不動産ヲ嘗テ共通セシ財産中ニ加ヘ置クヲ承諾シ又ハ其不動産買入ノ代金ヲ共通ノ財産中ニ償フテ之ヲ引取ルヲ自由タル可シ但シ婦其不動産ヲ共通ノ財産中ニ加ヘ置クヲ承諾シタル時ハ其不動産ノ價中ニテ婦ニ屬ス可キ其一部ヲ共通ノ財産中ヨリ其婦ニ償フ可シ

○第二節 共通財産ノ負債及ヒ其負債ニ付キ受ク可キ訴訟

第一千四百九條 共通財産ノ負債トナル可キ物ハ左ノ如シ

第一 夫婦其婚姻ヲ行フタル日ニ負フタル動産ノ償及ヒ其結縁ノ間其夫婦人ヨリ遺物相續ヲ爲スニ付キ擔當ス可キ動産ノ償但シ夫婦中ノ一方ノミニ屬スル不動産ヲ嘗テ買入レタルニ付テノ負債ハ縱令動産タリト雖モ後ニ其一方ノ者ヨリ共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ

第二 夫婦財産ヲ共通スル時間夫ノ契約シテ負フタル債又ハ夫ノ承諾ヲ以テ其婦ノ契約シテ負フタル債ノ元金及ヒ息銀但シ夫婦中ノ一方ヨリ其債ヲ共通ノ財産中ニ償フ可キ道理アル時ハ之ヲ償フ可シ



第三 夫又ハ婦ノ一身ノミニ管シテ負フタル債ノ息銀又ハ年金  
第四 共通ノ財産中ニ屬セサル不動産ヲ修理スルニ付キ其入額  
ヲ所得ト爲ス者ノ當然擔當ス可キ費用

第五 夫婦ノ飲食料、其子ノ教育料及ヒ其他結縁間ノ諸費

第四百十條 婚姻ヲ結ヒシ前ニ婦ノ負フタル動産ノ債ヲ其婚姻ヲ  
結ヒシ前ニ記シタル公正ノ證書ヲ以テ證シタル時又ハ其負債ノ證  
書公正ノモノニ非スト雖ヒ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記シ或ハ之ニ姓名  
ヲ手署シタル者一人又ハ數人ノ死去シタルニ因リ婚姻ヲ結フ前ニ  
其證書ヲ記シタル日附ノ確定シタル時ノ外總テ共通ノ財産ヲ以テ  
其負債ヲ擔當スルニ及ハス

又婚姻ヲ結ヒシ前ニ負フタル債ノ契約證書ノ日附確定セサル時ハ  
其證書ニ據リ婦ヨリ其債ノ償ヲ得ントスル者其婦ノ一身ニ屬スル

不動産所有ノ權ノミヲ以テ其償ニ充ント訴フルヲ得可シ  
若シ又夫其婦ノ爲メ此類ノ負債ヲ自カラ償フタリト述フル時ハ後  
ニ其婦又ハ婦ノ相續人ニ對シテ其償ヲ得ント訴フルヲ得ス

第四百十一條 結縁ノ間ニ其夫婦中ノ一方ノ者人ヨリ相續シタル  
動産ノ負債ハ共通ノ財産ヲ以テ盡ク之ヲ擔當ス可シ

第四百十二條 結縁ノ間ニ其夫婦中ノ一方ノ者人ヨリ相續シタル  
不動産ニ付キ擔當ス可キ負債ハ共通ノ財産ヲ以テ之ヲ擔當スルコ  
及ハス唯其債主ハ夫婦中其一方ノ相續シタル不動産所有ノ權ヲ以  
テ其償ニ充ント訴フルヲ得可シ

然レ夫其不動産ヲ人ヨリ相續シタル時ハ其不動産ニ付テノ債主夫  
ノ一身ニ屬スル諸般ノ財産ヲ以テ其債ノ償ニ充ント訴ヘ又然ノミ  
ナラス共通ノ財産ヲ以テ其償ニ充ント訴フルヲ得可シ但シ共通



ノ財産ヲ以テ夫ノ債ヲ償フタル時ハ夫ヨリ其婦又ハ婦ノ相続人ニ  
對シテ其債ヲ爲ス可キノ義務アリ

第一千四百十三條 婦其夫ノ許諾ヲ得テ人ヨリ不動産ヲ相續シタル時  
ハ其不動産ニ付テノ債主其婦ノ一身ニ屬スル諸般ノ財産所有ノ權  
并ニ其入額所得ノ權ヲ以テ其債ノ償ニ充ント訴フルヲ得可シ然  
レ婦其夫ノ許諾ヲ得ルヲナク裁判所ノ允許ノミヲ以テ人ヨリ不動  
産ヲ相續シタル時ハ其不動産ニ付テノ債主其不動産ヲ得タルノミ  
ニテ尙其債ノ償ヲ得ルニ足ラサル時其婦ノ一身ニ屬スル他ノ財産  
所有ノ權ノミヲ以テ其債ニ充ント訴フルヲ得可ク其入額所得ノ  
權ヲ以テ其債ニ充ント訴フ可カラス

第一千四百十四條 夫婦中一方ノ者人ヨリ相續シタル財産ノ一部ハ動  
産ニシテ一部ハ不動産ナル時其相續シタル財産ニ付キ擔當ス可キ

負債アルニ於テハ其動産ノ價ト不動産ノ價トヲ比較シ其負債中ニ  
テ動産ニ管シタル部分ハ之ヲ共通ノ財産ヲ以テ擔當シ其餘ハ其相  
續ヲ爲シタル夫又ハ婦ノ一身ニ之ヲ擔當ス可シ  
此負債中ニテ動産ニ管シタル部分ハ遺物財産ノ目錄ヲ以テ之ヲ定  
ム可シ但シ夫自カラ人ヨリ相續ヲ爲ス時ハ自己ノ權利ニ因リ其目  
録ヲ記セシメ又其婦人ヨリ相續ヲ爲ス時ハ夫其管理ヲ爲シテ之ヲ  
記セシム可シ

第一千四百十五條 目錄ナキニ因リ婦ノ爲メニ損害ヲ生シタル時ハ婦  
又ハ其相續人財産ノ共通ヲ解除スル時ニ至リ其夫ニ對シテ其損害  
ノ償ヲ得ント訴フルヲ得可ク且目錄ヲ記セサル動産アリテ其償  
ノ幾許ナルヤヲ證ス可キ爲メニハ證人又ハ家内ノ證書類又己ムヲ  
得サルニ於テハ人ノ通知スル評説ヲ以テ其證ト爲スヲ得可シ



六二六

夫ハ此等ノ方法ヲ以テ其證ヲ立ルヲ得ス

第一千四百十六條 第一千四百十四條ノ規則アリト雖モ夫ノ人ヨリ相續シタルト婦其夫ノ許諾ヲ得テ人ヨリ相續シタルトナ問ハス其相續シタル財產ノ一部ハ動産ニシテ一部ハ不動産タル時ハ其遺物財產ニ付テノ債主夫婦共通ノ財產ヲ以テ其債ノ償ニ充ント訴フルノ差支トナルヲナカル可シ但シ此等ノ場合ニ於テハ夫又ハ婦ヨリ共通ノ財產中ニ其償ヲ爲ス可キノ義務アリ

又婦裁判所ノ允許ヲ得タルノミニテ人ヨリ相續ヲ爲シタル時ト雖モ夫預シメ目錄ヲ記セサルニ因リ其遺物ノ動産ト共通ノ財產中ノ動産ト相混シタルニ於テハ亦前ニ記スル所ニ等シトス

第一千四百十七條 夫其婦ノ人ヨリ遺物相續ヲ爲スヲ許諾セス其婦裁判所ノ允許ヲ得テ其遺物相續ヲ爲シタル時其遺物動産ノ目錄アルニ於テハ其遺物財產ニ付テノ債主其遺物ノ不動産及ヒ動産ヲ以テ其債ノ償ニ充ントスルヲ要メ若シ其不動産及ヒ動産ヲ以テ其債ヲ得ルニ足ラサル時ハ婦ノ一身ニ屬スル他ノ財產所有ノ權ノミニテ以テ其償ニ充ント要ムルヲ得可シ

第一千四百十八條 遺物相續ヲ爲スニ因リ擔當ス可キ負債ニ付キ第一千四百十一條以下ノ數條ニ定メタル規則ハ贈遺ノ財產ニ付キ擔當ス可キ負債ニモ亦通シ用フ可シ

第一千四百十九條 婦其夫ノ許諾ヲ得タル上ニテ人ヨリ債ヲ負フタル時ハ其債主夫又ハ婦ノ財產ト共通ノ財產トヲ以テ其債ノ償ニ充ント要ムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ婦ヨリ共通ノ財產中ニ其債ヲ爲シ又夫ニ其償ヲ爲ス可シ

七二六

第一千四百二十條 諸般ノ事ニ管スルト一箇ノ事ニ管スルトナ問ハス



婦其夫ノ名代人タルノ權アリテ負フタル債ハ共通ノ財産ヲ以テ其償ニ充ツ可シ但シ其債主ハ其婦ニ對シ其一身ノ財産ヲ以テ其償ニ充テシム可キヲ要ム可カラス

○第二款 共通ノ財産ヲ支配スル事及ヒ共通ノ財産ニ付キ夫又ハ婦ノ記シタル證書ノ効

第一千四百二十一條

夫ハ一人ニテ共通ノ財産ヲ支配ス可シ

夫ハ其婦ノ承諾ヲ得シテ共通ノ財産ヲ賣拂ヒ又ハ書入質ト爲スヲ得可シ

第一千四百二十二條

夫ハ其婦トノ間ニ舉ケタル子ニ產業ヲ定メシム

ル爲メノ外償ヲ得スシテ共通ノ不動産ヲ生存中ノ贈遺ト爲スヲ得ス又償ヲ得スシテ其動産ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺ト爲スヲ得ス

然レ夫ハ如何ナル人ノ爲メト雖モ共通ノ動産中ノ別段指定メタル品物ヲ償ヲ得スシテ贈遺スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ夫其贈與シタル動産ノ入額所得ノ權ヲ己レニ保有スルヲ得ス

第一千四百二十三條

夫ノ爲ス所ノ遺囑ノ贈遺ハ共通ノ財産中ニテ其得可キ部分ニ過クルヲ得ス

夫共通ノ財産中ノ物件ヲ遺囑ノ贈遺ト爲シ人ニ贈與シタルト雖モ後ニ共通ノ財産ヲ分派スル時ニ其贈遺ト爲シタル物件夫ノ相続人ノ得タル部分中ニ入りタルニ非サレハ其贈遺ヲ受クル者之ヲ品物ノ儘得ント求ムルヲ得ス又其贈遺ト爲シタル物件夫ノ相続人ノ得タル部分中ニ入ラサル時ハ其贈遺ヲ受クル者共通ノ財産中ニテ夫ノ相続人ノ得ル所ノ部分及ヒ夫ノ一身ニ屬スル財産ノ部分中ヨリ其贈遺トシテ受ク可キ物件ノ代金ヲ得可シ



〇三六

第一千四百二十四條 准死ニ至ラサル罪犯ノ爲メ夫ノ出ス可キ罰金ハ  
共通ノ財産中ヨリ之ヲ償ヒ後ニ夫ヨリ其婦ニ對シテ其償ヲ爲ス可  
シ又婦ノ出ス可キ罰金ハ夫婦互ニ其財産ヲ共通スル間其婦ノ一身  
ニ屬スル財産所有ノ權ノミヲ以テ其償ニ充テシムルヲ得可シ  
第一千四百二十五條 准死ニ至ル可キ罪犯ノ爲メ夫婦中一方ノ者刑ノ  
言渡ヲ受クル時ハ共通ノ財産中ニテ其者ノ得可キ部分並ニ其者ノ  
一身ニ屬スル財産ノミヲ以テ其償ニ充ツ可シ

第一千四百二十六條 夫ノ許諾ヲ得スシテ其婦ノ記シタル證書ノ契約  
ハ其婦公ケノ商賈ニシテ其商業ノタメ爲シタル時ノ外縱令裁判所  
ノ允許ヲ得タルト雖モ共通ノ財産ヲ以テ其償ニ充ツ可カラズ

第一千四百二十七條 婦ハ其夫ヲ獄舍中ヨリ出サシム可キ爲メ又ハ夫  
ノ失踪ノ時其子ノ産業ヲ定メシム可キ爲メト雖モ別段裁判所ノ允

許ヲ得タル上ニ非サレハ共通ノ財産ヲ引當トシテ金高ヲ借リ又ハ  
書入質ト爲シ又ハ賣拂フヲ得ス

第一千四百二十八條 夫ハ婦ノ一身ニ屬スル財産ノ全部ヲ支配スルノ  
權アリ

夫ハ其婦ニ屬スル動産ニ付テノ訴訟及ヒ不動産占有ノ權ニ付テノ  
訴訟ヲ總テ一人ニテ爲スヲ得可シ

夫ハ其婦ノ一身ニ屬スル不動産ヲ婦ノ承諾ヲ得スシテ賣拂ヒ又ハ  
贈與スルヲ得ス

夫其婦ノ財産ヲ保全ス可キ處置ヲ爲サ、ルニ因リ其財産ノ損壞シ  
タル時ハ自カラ其責ニ任ス可シ

一三六

第一千四百二十九條 夫一人ニテ其婦ノ不動産ヲ九年以上ノ期限間人  
ニ賃貸スルノ契約ヲ爲シ置キ後ニ財産ノ共通ヲ解除スル時ニ至リ



其最初ノ九年ノ期限ニ猶殘期アルニ於テハ其婦又ハ其遺物相續人  
 其殘期ノ間ノミ其契約ヲ循守ス可シ但シ此財產貸渡ノ第二次ノ期  
 限又ハ第三次第四次等ノ期限ニ於テモ皆之ニ倣フ可シ故ニ其不動  
 產ノ賃借人ハ當時ノ九年ノ期限間ノミ之ヲ借受クルノ權アリトス  
 第一千四百三十條 夫一人ニテ其婦ノ所有スル土地ヲ人ニ賃貸セシ當  
 時ノ期限ノ終ル時ヨリ三年以上前又其婦ノ所有スル家屋ヲ人ニ賃  
 貸セシ當時ノ期限ノ終ル時ヨリ二年以上前ニ九年以下ノ期限ヲ以  
 テ更ニ改メテ其土地又ハ家屋ヲ貸與フ可キノ契約ヲ爲シタルト雖  
 モ財產ノ共通ヲ解除スル前ニ既ニ其賃貸ノ契約ノ如ク執行フコト  
 始メタル時ニ非サレハ其契約ノ効ナカル可シ

第一千四百三十一條 共通ノ財產ノ事務ニ付キ又ハ夫ノ事務ニ付キ夫  
 ト連帶シテ債ヲ負フタル婦ハ其夫ニ對シテ唯其債ノ保證人ナリト

看做ス可シ但シ婦其債ヲ拂フタル時ハ夫ヨリ其債ヲ得可キノ權アリ

第一千四百三十二條 婦其一身ニ屬スル不動産ヲ賣拂フタル時夫其婦  
 ト連帶シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ賣拂ノ保證人第一千六百二十六條見合タル時其  
 買入人ノ損失ヲ償フコトアルニ於テハ共通ノ財產中ニテ婦ノ得可キ  
 部分又ハ婦ノ一身ニ屬スル財產ヲ以テ其債ヲ得ント其婦ニ對シテ  
 訴フルコトヲ得可シ

第一千四百三十三條 夫婦中一方ノ者ニ屬スル不動産ヲ賣拂ヒ又ハ夫  
 婦中一方ノ者ニ屬スル不動産ニ付キ其得可キ土地ノ義務ヲ釋放シ  
 人ヨリ高金ヲ得テ其金高ヲ共通ノ財產中ニ加入シ更ニ其金高ヲ利  
 益トナル可キ方法ヲ用フルコトナキ時ハ其賣拂フタル不動産又ハ土  
 地ノ權利ヲ有セシ夫又ハ婦後ニ共通ノ財產中ヨリ其金高ヲ己レニ



四三六

取戻ス可キノ權アリ

第千四百三十四條 夫財産ヲ買入ル、時嘗テ自己ノ一身ニ屬セシ不動産ヲ賣拂ヒ其得タル所ノ代金ヲ更ニ利益トナル可キ方法ニ用フ可キカ爲メ其代金ヲ以テ其財産ヲ買入シ旨ヲ述フルニ於テハ更ニ其金高チ利益トナル可キ方法ニ用ヒタルト看做ス可シ

第千四百三十五條 又婦ノ不動産ヲ賣拂フテ得タル代金ヲ其婦ノ利益トナル可キ方法ニ用フ可キカ爲メ更ニ財産ヲ買入レタル旨ヲ夫ヨリ申述フルト雖モ婦其財産買入ノ事ヲ明カニ承諾シタルニ非サレハ夫其金高チ婦ノ利益トナル可キ方法ニ用ヒタリト爲ス可カラス但シ婦其買入レノ事ヲ承諾セサル時ハ其婦財産ノ共通ヲ解除スル時ニ至リ其嘗テ賣拂フタル自己ノ不動産代金ノ償ヲ得ル權アリ

第千四百三十六條 夫ニ屬スル不動産代金ノ償ハ共通財産ノ合部中

ノミヨリ之ヲ得可ク又婦ニ屬スル不動産代金ノ償ハ先ツ共通ノ財産中ヨリ之ヲ得又其財産ノ足ラサル時ハ夫ノ一身ニ屬スル財産中ヨリ之ヲ得可シ○何レノ場合ニ於テモ夫又ハ婦賣拂フタル不動産ノ償ニ付キ如何ナル申述ヲ爲スヲ問ハス其賣拂ノ償ニ從テ其償ヲ得可シ

五三六

第千四百三十七條 夫婦中一方ノ者嘗テ人ヨリ買入レタル不動産ノ全價或ハ其價ノ一部ヲ拂フ爲メ又ハ人ヨリ土地ノ義務ノ釋放ヲ得ル爲メノ如ク總テ其一方ノ者ノ一身ニ負フタル債ヲ償フニ付キ又ハ其一方ノ者ノ一身ニ屬シタル財産ヲ人ヨリ取戻シ又ハ之ヲ保全シ又ハ之ヲ良好ニ爲スニ付キ共通ノ財産中ヨリ金高チ取用ヒタル時又ハ其他總テ夫婦中一方ノ者其一身ノミノ利益ノ爲メ共通ノ財産ヲ用ヒタル時ハ其一方ノ者共通ノ財産中ニ其償ヲ爲ス可シ



第一千四百三十八條 夫婦連合シテ其子ニ嫁資ヲ贈與シ其贈與ス可キ部分ヲ別段各自ニ定メサル時ハ共通ノ財産ヲ以テ既ニ其嫁資ヲ贈與シ又ハ贈與ス可キノ約ヲ爲シタルト其夫婦中一方ノ者ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ既ニ其嫁資ヲ贈與シ又ハ贈與ス可キノ約ヲ爲シタルト看做ス可シ  
夫婦中一方ノ者ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ其子ニ嫁資ヲ贈與シタル時ハ其者他ノ一方ノ財産中ヨリ其嫁資ノ半ノ償ヲ得可キ訴ヲ爲スノ權アリ但シ其償ヲ得ント爲スニ付テハ其嫁資ヲ贈與シタル時ノ價ニ從フ可シ

第一千四百三十九條 夫一人ニテ共通ノ財産ヲ其婦トノ間ニ舉ケシ子ニ嫁資トシテ贈與セント約シタル時ハ共通ノ財産ヲ以テ其嫁資ノ贈與ニ充ツ可ク後ニ財産ノ共通ヲ解除スル時婦其共通ノ財産ヲ受

クルヲ肯シタルニ於テハ其婦其嫁資ノ半ヲ己レニ擔當ス可シ但シ夫其子ニ贈與スル嫁資ノ全部又ハ其半以上ヲ己レニ擔當ス可キ事ヲ別段定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第一千四百四十條 己レノ子ニ嫁資ヲ贈與ス可キ者ハ其嫁資ニ付キ他人ヨリ訴訟ノ起ルヲナキノ保證ヲ爲ス可ク且其嫁資ヲ渡ス可キ期限ヲ別段定メタル時ト雖モ其子ノ婚姻ヲ結フニ至リ猶之ヲ渡サ、ル時ハ其日ヨリ以來ノ息銀ヲ渡ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

○第三款 財産ノ共通ヲ解除スル事及ヒ其解除ヨリ生スル條件

第一千四百四十一條 財産ノ共通ハ左ノ場合ニ於テ解除ス可シ

第一 死去



第二 准死

第三 離婚

第四 夫婦居ヲ分ツ事

第五 夫婦財産ヲ分ツ事

第一千四百四十二條 夫婦中一方ノ者死去シ又ハ准死ヲ受ケタル後ハ  
共通財産ノ目錄ヲ記シタルコトナシト雖モ財産ノ共通ヲ繼續ス可カ  
ラス但シ其共通ノ財産ニ管係アル者ハ證書又ハ人ノ通知スル評説  
ヲ以テ證トシ共通財産中ニ何等ノ物件アリシコトヲ訴フルヲ得可  
シ

幼年ノ子アル時夫婦中ノ後ニ生存スル者共通財産ノ目錄ヲ記セサ  
ルニ於テハ其子ノ入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ失フ可シ又其幼者ノ後  
見人ノ父母中ノ一方ノ監察者夫婦中ノ後ニ生存スル者ナシテ其目錄

ヲ記セシメサル時ハ其監察者後ニ生存シタル夫又ハ婦ト連帶シテ  
幼者ニ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第一千四百四十三條 夫婦財産ヲ分ツ事ハ夫ノ産業ノ衰敗セシニ因リ  
夫ノ一身ノ財産ヲ以テ婦其權利ヲ行ヒ且其家資ヲ取戻スニ足ラサ  
ルノ恐アル時其婦ヨリ之ヲ裁判所ニ訴出スコトヲ得可シ  
夫婦ノ隨意ニテ財産ヲ分チタル時ハ其効ナカル可シ

第一千四百四十四條 裁判所ヨリ夫婦財産ヲ分ツ可キコトヲ言渡シタル  
ト雖モ夫ノ財産ヲ以テ現ニ婦ノ嫁資ヲ返還スルニ充テ且其旨ヲ公  
正ノ證書ニ記シタル時又ハ裁判所ノ言渡ヨリ十五日内ニ其言渡ノ  
如ク執行フ可キ手續ヲ爲シ始メ其後繼續シテ其手續ヲ爲シタル時  
ニ非サレハ其財産ヲ分チタルノ効ナカル可シ

第一千四百四十五條 夫婦財産ヲ分ツ事ハ之ヲ執行フ以前初告裁判所



ノ公室ニ別段設ケ置キタル懸帖ニ其事ヲ記シテ之ヲ公ケニ爲ス可  
シ且夫商賈又ハ銀舖主タル時ハ更ニ其住所ノ商法裁判所ノ公室ニ  
設ケ置キタル懸帖ニモ亦其事ヲ記シテ之ヲ公ケニ爲ス可シ但シ此  
等ノ事ヲ爲サ、ル時ハ財產ヲ分ツ事ノ効ナカル可シ

財產ヲ分ツ可キ裁判言渡ノ効ハ其事ヲ訴出シタル日ヨリ生ス可シ  
第一千四百四十六條 婦ノ債主ハ其婦ノ承諾ヲ得スシテ夫婦ノ財產ヲ  
分ツ可キヲ訴出スルヲ得ス

然レ夫ノ家資分散ヲ爲シタル時又ハ其產業ヲ破リタル時ハ其婦ノ  
債主其債ノ額ニ至ル迄其婦ニ代リテ其權利ヲ行フヲ得可シ

第一千四百四十七條 夫其債主ノ權ヲ害セシカ爲メ裁判所ヨリ夫婦財  
產ヲ分ツ可キノ言渡ヲ得タル時ト既ニ其言渡ノ如ク執行ヒ始メタ  
ル時トノ別ナク債主其言渡ノ執行ヲ止メシムルヲ訴フルヲ得可

シ又其債主ハ財產ヲ分タントスル訴訟ニ管涉シテ之ヲ爭フヲ得  
可シ

第一千四百四十八條 夫ト財產ヲ分ツヲ得タル婦ハ己レノ家産ト夫  
ノ家産トニ准シテ其夫婦ノ間ニ生レシ子ノ養育ノ費用ト家事ノ費  
用トヲ出合ス可シ  
若シ夫全ク其財產ヲ有セサル時ハ其婦此等ノ費用ヲ盡ク擔當ス可  
シ

第一千四百四十九條 夫ト住居及ヒ財產ヲ分チタル婦又ハ財產ノミチ  
分チタル婦ハ自カラ自由ニ其財產ヲ支配スルノ權ヲ復ス可シ○其  
婦ハ自己ノ動産ヲ人ニ贈與シ又ハ賣拂フヲ得可シ  
其婦ハ夫ノ許諾ヲ得タル上ニ非サレハ自己ノ不動産ヲ人ニ贈與シ  
又ハ賣拂フヲ得ス又夫ノ其事ヲ許諾セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ



得タル上ニ非サレハ其不動産ヲ贈與シ又ハ賣拂フヲ得ス

第一千四百五十條 夫ト財産ヲ分テタル婦裁判所ヨリ允許ヲ得テ自カ  
テ賣拂ヒシ不動産ノ代金ヲ其利益トナル可キ方法ニ用ヒス又ハ其  
代金ヲ以テ更ニ他ノ不動産ヲ買入レスト雖モ夫其責ニ任スルヲナ  
カル可シ但シ夫其婦ノ不動産賣拂ノ契約ニ加ハリタル時又ハ其代  
金ヲ已レニ受取リ又ハ已レノ利益ト爲シタルノ證アル時ハ格別ナ  
リトス

若シ婦其夫ノ面前ニテ其許諾ヲ得タル上自己ノ不動産ヲ賣拂フタ  
ル時夫其代金ヲ利益トナル可キ方法ニ用ヒス又ハ更ニ他ノ不動産  
ヲ買入レサルニ於テハ其責ニ任ス可シ但シ其代金ヲ利益トナル可  
キ方法ニ用ヒタル時ハ現ニ其利益ノ生スルヲナシト雖モ夫其責ニ  
任スルヲナカル可シ

第一千四百五十一條

夫婦住居ト財産トヲ分チ又ハ財産ノミヲ分チタ

ルニ因リ財産ノ共通ヲ解除シタルト雖モ其雙方ノ承諾ヲ以テ再ヒ  
其共通ヲ復スルヲ得可シ

一度解除シタル財産ノ共通ヲ復サントスルニハ證書人ノ面前ニ於  
テ證書ヲ記シ其證書ノ正本ヲ取リ置キ且第一千四百四十五條ノ法式  
ヲ以テ其旨ヲ懸帖ニ記シテ公ケニ爲ス可シ

此ノ如ク財産ノ共通ヲ復シタル時ハ婚姻ノ日ヨリ以來ノ其効ヲ再  
ヒ生セシメ營テ其財産ヲ分チシヲナキト同様ノ景狀ニ爲ス可シ但  
シ此規則ト營テ財産ヲ分チタル時間ニ第一千四百四十九條ニ記スル  
所ニ循ヒ婦ノ記シタル證書ノ如ク執行フ可キ規則ト相觸ル、トナ  
カル可シ

夫婦一度解除シタル財産ノ共通ヲ復サントスル時營テ其財産ヲ共



通セシ時ニ定メタル約束ト異ナリシ約束ヲ用ヒ之ヲ共通セントス  
ルノ契約ハ其効ナカル可シ

第一千四百五十二條 離婚シタル事又ハ住居ト財産トヲ分テタル事又  
ハ財産ノミヲ分テタル事ニ因リ其財産ノ共通ヲ解除シタル時ハ婦  
其夫ヨリ後ニ生存スル時得可キ權利ヲ行フヲ得ス然レ夫ノ死去  
シ又ハ准死トナリシ時ハ婦同上ノ權利ヲ行フヲ得可シ

○第四款 婦共通ノ財産ヲ受クルヲ肯スル事及ヒ肯セサル  
事並ニ其事ニ管シタル必要ノ條件

第一千四百五十三條 夫婦財産ノ共通ヲ解除シタル後婦又ハ其遺物相  
續人及ヒ代權人其財産ヲ受クルヲ肯シ又ハ之ヲ肯セサル事自由  
ナリトス但シ之ニ反シタル契約ハ皆其効ナカル可シ

第一千四百五十四條 婦從來其夫ト共通セシ財産ノ事ニ管涉シタル時

ハ其財産ヲ受クルヲ肯セサルヲ得ス

婦其共通セシ財産ヲ支配シ又ハ保全スルノミノ處置ヲ爲シタル時  
ハ其財産ノ事ニ管涉シタルモノト爲ス可カラス 第七百七十八條見合

第一千四百五十五條 丁年ノ婦其記シタル證書中ニ共通ノ財産ヲ受ク  
ルヲ肯シタル旨ヲ記セシ時ハ其財産ノ目錄ヲ記スル前ニ其證書  
ヲ記シタルト雖モ其財産ヲ受クルヲ肯セサルヲ得ス但シ夫ノ遺  
物相續人ニ詐僞アル時ハ格別ナリトス

第一千四百五十六條 夫ヨリ後ニ生存スル婦共通ノ財産ヲ受クルヲ肯  
肯セサルノ權利ヲ保有セントスルニハ夫ノ死去シタル日ヨリ三月  
内ニ夫ノ遺物相續人ノ面前ニテ又ハ其面前ニ非スト雖モ之ヲ呼出  
シ猶出席セサル上ニテ共通ノ財産ノ詳明真正ナル目錄ヲ記セシム  
可シ



其婦ハ其目錄ヲ成就シタル時立會官吏 證書人ノ面前ニテ之ヲ真正  
ノモノナリト證ス可シ

第一千四百五十七條 婦ハ夫ノ死去シタルヨリ三月ト四十日內ニ夫ノ  
住所ヲ管轄スル初告裁判所ノ書記局ニ共通ノ財産ヲ受クルヲ肯  
セサル證書ヲ出ス可シ但シ其證書ハ遺物相續ヲ肯セサル旨ヲ記ス  
可キ爲メ設ケタル簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第一千四百五十八條 婦ハ其時ノ模様ニ從ヒ其共通ノ財産ヲ受クルヲ  
肯セサル證書ヲ出スニ付キ前條ニ定メタル期限ノ猶豫ヲ得ント  
初告裁判所ニ訴フルヲ得可シ但シ其猶豫ノ期限ヲ許スニ付キ別  
段ノ道理アル時ハ夫ノ遺物相續人ノ面前ニテ之ヲ言渡シ又ハ其相  
續人ヲ呼出シ猶出席セサル上ニテ之ヲ言渡ス可シ

第一千四百五十九條 婦第一千四百五十七條ニ記シタル定期內ニ共通ノ

財産ヲ受クルヲ肯セサル證書ヲ出サスト雖モ其財産ノ事ニ管涉  
スルヲナシ且其目錄ヲ記セシメタル時ハ猶其財産ヲ受クルヲ肯  
セサルノ權利アリトス然モ之ヲ受クルヲ肯セサル證書ヲ出ス迄  
ノ時間ハ其共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル者ナリトシテ人ヨリ  
ノ訴訟ヲ受ケ且其證書ヲ出ス迄同上ノ訴訟ヲ受タルニ付キ相手方  
ニ拂フ可キ裁判費用ハ自己ノ財産中ヨリ償フ可シ  
又婦其夫ノ死去シタル日ヨリ三月ニ至ラサル内ニ目錄ヲ成就シタ  
ル時ハ其時ヨリ四十日ノ期限ノ終リシ後同上ノ訴訟ヲ受ク可シ  
第一千四百六十條 共通ノ財産中ノ物件ヲ自カラ竊取シ又ハ其物件ヲ  
人ノ竊取シタルヲ隱匿セシ婦ハ其共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサ  
ル旨ヲ述フルト雖モ猶共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セシ者ナリト爲  
ス可シ但シ婦ノ遺物相續人モ亦之ト同一ナリトス



八四六

第一千四百六十一條 若シ婦共通財産ノ目錄ヲ記シ又ハ之ヲ成就スル  
トナシ其夫ノ死去シタル日ヨリ三月ノ期限内ニ亦死去シタル時ハ  
其婦ノ遺物相續人目錄ヲ記シ又ハ之ヲ成就ス可キ爲ノ婦ノ死去シ  
タルヨリ三月ノ猶豫ト目錄ヲ成就セシ日ヨリ後熟思ノ爲メ四十日  
ノ猶豫トヲ得可シ

又其婦目錄ヲ成就シテ死去シタル時ハ其遺物相續人熟思ノ爲メ其  
婦死去ノ日ヨリ四十日ノ猶豫ヲ得可シ

又其遺物相續人ハ前數條ニ記シタル法式ヲ以テ共通ノ財産ヲ受ク  
ルトナ肯セサルヲ得可ク且第一千四百五十八條及ヒ第一千四百五十九  
條ニ記スル所ノ規則ハ其遺物相續人ニモ亦通シ用フ可シ

第一千四百六十二條 第一千四百五十六條ヨリ以下數條ニ記スル所ノ規  
則ハ准死ヲ受ケタル者ノ婦ニ付キ其准死ノ時ヨリ亦通シテ之ヲ用

フ可シ

第一千四百六十三條 夫ト離婚シタル婦又ハ夫ト居テ分チタル婦其離  
婚又ハ分居ノ確定ノ言渡アリシ日ヨリ三月ト四十日ノ期限内ニ共  
通チ財産ヲ受クルトナ爲サ、ル時ハ之ヲ受クルトナ肯セサルモノ  
ト爲ス可シ但シ其期限内ニ其夫ノ面前ニテ又ハ夫ヲ呼出シ猶出席  
セサル上ニテ裁判所ヨリ更ニ其期限ノ猶豫ヲ得タル時ハ格別ナリ  
トス

第一千四百六十四條 婦ノ債主ハ其婦又ハ其遺物相續人己レノ權利ヲ  
害セシカ爲メ詐僞ヲ以テ共通ノ財産ヲ受クルトナ肯セサルトアル  
時其事ニ管涉シ自己ノ權ヲ以テ共通ノ財産ヲ受クルトナ肯スルヲ  
得可シ

九四六

第一千四百六十五條 婦ハ共通ノ財産ヲ受クルトナ肯シタルト否トナ



問ハス目錄ヲ記シ且熟思ヲ爲ス可キ爲メ其得タル三月ト四十日ノ猶豫ノ期限間自己ノ飲食料及ヒ其僕婢ノ飲食料ヲ現存スル所ノ飲食料中ヨリ取用フルコトヲ得可ク若シ現存スル飲食料ノアラサル時ハ共通財産ノ合部中ヨリシテ相當ノ金高ヲ借受クルコトヲ得可シ但シ其金高ハ之ヲ節約シテ用フ可シ  
又其婦ハ同上ノ期限内ニ共通ノ財産中ノ家屋又ハ夫ノ遺物相續人ニ屬スル家屋ニ居住スルニ付キ其借賃ヲ拂フニ及ハス又財産ノ共通ヲ解除シタル時其夫婦ノ居住セシ家屋ヲ人ヨリ借受ケ其借賃ヲ拂フ可キモノタル時ハ其婦同上ノ期限間自己ノ財産ヲ以テ其借賃ヲ拂フニ及ハス共通ノ財産ヲ以テ之ヲ拂フ可シ

第一千四百六十六條 婦ノ死去シタルニ因リ財産ノ共通ヲ解除シタル時ハ其婦ノ遺物相續人法律上ニテ夫ヨリ後ニ生存シタル婦ノ爲メ

定メタル所ノ期限ト法式トニ循ヒ共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯セサルヲ得可シ

○第五款 共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯シタル後其財産ヲ分派スル事

第一千四百六十七條 婦又ハ其遺物相續人共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯シタル後左ノ方法ヲ以テ其利得トナル可キ諸件ヲ分派シ且其負債ヲ擔當ス可シ

○第一節 利得ヲ分派スル事

第一千四百六十八條 夫婦又ハ其遺物相續人ハ此章ノ第一則第二款ニ定メタル規則ニ循ヒ共通ノ財産中ニ償フ可キ諸件ヲ當時現存スル財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第一千四百六十九條 夫婦又ハ其遺物相續人ハ前婚ノ子ニ嫁資ヲ贈與



スル爲メ又ハ夫婦ノ間ニ舉ケタル子ニ一人ニテ嫁資ヲ贈與スル爲メ  
共通ノ財産中ヨリ取用ヒタル金高又ハ財産ノ代金ヲモ亦現存ス  
ル財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第千四百七十條 夫婦又ハ其遺物相續人ハ左ノ物件ヲ財産ノ合部中

ヨリ先ツ己レニ引取ルヲ得可シ

第一 共通ト爲サ、ル一身ニ屬スル財産又ハ其財産ヲ賣拂ヒ其  
代金ヲ以テ買入レタル財産

第二 夫婦財産ヲ共通セシ時間其一身ニ屬スル不動産ヲ賣拂ヒ  
其代金ヲ以テ新クニ不動産ヲ買入レタルヲナキ時ハ其代金

第三 夫婦又ハ其遺物相續人共通ノ財産中ヨリ得可キ所ノ償

第四百十九條第千四百  
三十一條等見合セ

第千四百七十一條 婦ハ財産合部中ヨリ己レニ引取ル可キ物件ヲ夫

ヨリ先ニ引取ル可シ

婦ノ己レニ引取ル可キ物件品物ノ儘現存セサル時ハ先ツ共通財産  
中ノ金高ヲ以テ其償ヲ得次ニ共通財産中ノ動産ヲ以テ其償ヲ得若  
シ其動産猶其償ニ足ラサル時ハ共通財産中ノ不動産ヲ以テ其償ヲ  
得可シ但シ此場合ニ於テ其不動産ヲ擇ムノ權ハ婦又ハ其遺物相續  
人ニアリトス

第千四百七十二條 夫ハ己レノ得可キ物件ヲ引取ラントスルニ付キ  
共通ノ財産ノミヲ引當ト爲スヲ得可シ

婦又ハ其遺物相續人ハ己レノ得可キ物件ヲ引取ルニ付キ共通ノ財  
産ノミニナ尙<sup>ホ</sup>足ラサル時ハ夫ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ其引當ト  
爲スヲ得可シ

第千四百七十三條 共通ノ財産中ヨリ夫又ハ婦ニ返還ス可キ償又ハ



夫又ハ婦ヨリ共通ノ財産中ニ返還ス可キ債ニ付テハ財産ノ共通ヲ解除シタル日ヨリ以來其息銀ヲ生ス可シ

第千四百七十四條 財産ノ合部中ヨリ夫又ハ婦ノ先ツ引取ル可キ部分ヲ盡ク引取リシ後ハ其餘ノ物件ヲ夫婦又ハ其相続人等ノ間ニ平分ス可シ

第千四百七十五條 若シ婦ノ遺物相続人二人以上アリテ其意各相異ナリ其中ノ一人ハ共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯シ又一人ハ之ヲ受クルコトヲ肯セサル時ハ之ヲ受クルコトヲ肯シタル者婦ノ得可キ財産中ニテ自己ノ相続ス可キ部分ノミヲ收取スルコトヲ得可シ  
其者ノ收取セシ以外ノ財産ハ皆之ヲ夫ニ屬シ其夫ハ婦ノ相続人中ニテ共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯セサル者ニ對シ婦ノ自カラ之ヲ受クルコトヲ肯セサル時擔當ス可キ所ニ等シキ義務ヲ擔當ス可シ但シ

此場合ニ於テ夫ノ擔當ス可キ義務ハ婦ノ相続人中ニテ共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯セサル者ノ得可キ部分ノミニ管ス可シ

第千四百七十六條 夫婦共通ノ財産ヲ分派スルコトノ法式ニ管シタル諸事、不動産雜賣ノ事、財産分派ヨリ生スル諸事分派シタル諸事ヲ保証スル事分派ヲ得可キ者ノ部分ノ平等ナラサル時之ヲ平等ニ爲ス事ハ死者ノ遺物相続人等ノ間ニ財産ヲ分派スルニ付キ此篇第一卷遺物ニ定メタル規則ニ循フ可シ

第千四百七十七條 夫婦中一方ノ者共通セシ財産中ノ物件ヲ竊取シ又ハ人ノ竊取シタルヲ知リ之ヲ隱匿セシ時ハ其物件ヲ己ノニ得ルノ權ヲ失フ可シ 第七百九十條見合セ

五五六 第千四百七十八條 夫婦中一方ノ者自己ノ金高ヲ以テ他ノ一方ノ一身ノ負債ヲ盡クシタルニ因リ又ハ其他ノ原由ニ因リ其一方ノ者他



ノ一方ノ者ヨリ義務ヲ得可キ時ハ共通財産ノ分派ヲ成就シタル後  
共通ノ財産中ヨリ他ノ一方ノ者ノ得タル部分又ハ其者ノ一身ニ屬  
スル財産ヲ以テ其義務ヲ得キノ訴ヲ爲スヲ得可シ

第一千四百七十九條 夫婦中一方者他ノ一方ノ者ヨリ得可キ義務ハ其

義務ヲ得可キヲ裁判所ニ訴出セシ日ヨリ以來其息銀ヲ生ス可シ

第一千四百八十條 夫婦中一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ爲ス所ノ贈遺

ハ共通ノ財産中ニテ其贈遺ヲ爲シタル者ノ得ル所ノ部分及ヒ其者

ノ一身ニ屬スル財産中ヨリ之ヲ爲ス可シ

第一千四百八十一條 婦其夫ノ喪ニ居ルニ付テノ費用ハ其死去シタル

夫ノ遺物相續人ヨリ之ヲ出ス可シ

其費用ハ夫ノ家産ニ准シテ之ヲ定ム可シ

共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル婦ノ爲メニモ亦夫ノ相續人ヨリ

同上ノ費用ヲ出ス可シ

○第二節 夫婦共通ノ負債及ヒ其負債ヲ夫婦雙方ニ分派  
スル事

第一千四百八十二條 共通ノ負債ハ夫婦又ハ其雙方ノ遺物相續人各々其  
半ヲ擔當ス可シ但シ財産ノ封印目錄、動産ノ賣拂、其財産ノ算計、不動

産ノ羅賣、共通財産ノ分派等ニ付テノ費用ハ其負債ノ一部ナリトス

第一千四百八十三條 婦詳明真正ナル目錄ヲ記セシメ且其目錄ニ記シ  
タル諸件ト分派ニ因リ自己ノ得ル所ノ部分タル諸件トノ精算ヲ爲  
シタル時ハ己レノ得タル利得ニ至ル迄ノ外其夫ニ對シ又ハ債主ニ  
對シ共通ノ負債ヲ擔當スルニ及ハス

第一千四百八十四條 夫ハ己レノ契約シテ負フタル共通ノ債ノ全部ヲ  
擔當ス可シ但シ其債ノ半ヲ其婦又ハ婦ノ遺物相續人ヨリ己レニ償



還セシムルノ權アリ

第一千四百八十五條 婦ノ一身ニ屬セシ債共通ノ債トナリシ時ハ其夫其半ノミヲ擔當ス可シ

第一千四百八十六條 婦ノ一身ニ屬セシ債共通ノ債トナリシ時ハ婦其債生ヨリ其債ノ全部ノ償還ニ付キ訴訟ヲ受ク可シ但シ其債ノ半ヲ其夫又ハ夫ノ遺物相續人ヨリ己レニ償還セシムルノ權アリ

第一千四百八十七條 婦ハ共通ノ負債ヲ一身ニ擔當シタル時ト雖モ其負債ノ半ノミニ付キ訴訟ヲ受ク可シ但シ夫ト連帶シテ其債ヲ負フタル時ハ格別ナリトス

第一千四百八十八條 婦共通ノ負債ノ半以上ヲ償フタリト雖モ其半ニ過キタル部分ヲ其債主ヨリ取還サントスル訴ヲ爲スヲ得ス但シ債主ノ受取書ニ婦ノ償フタル所ハ共通ノ債ノ半ナルヲ記シタル

時ハ格別ナリトス

第一千四百八十九條 夫婦中一方ノ者分派ニ因リ得タル不動産嘗テ書入質ト爲シタルモノタルニ因リ其一方ノ者共通ノ負債ノ全部ニ付キ訴訟ヲ受ケタル時ハ他ノ一方ノ者又ハ其遺物相續人ニ對シ其負債ノ半ノ償還ヲ得ント訴フルヲ得可シ

第一千四百九十條 前數條ノ規則アリト雖モ夫婦共通財産ノ分派ノ約定ニ因リ夫婦中一方ノ者共通ノ負債ノ半以上又ハ其全部ヲ償フ可キヲ擔當スルノ差支トナルヲナカル可シ

夫婦中一方ノ者共通ノ負債中ニテ其擔當ス可キ部分ヨリ更ニ多分ヲ償フタル時ハ他ノ一方ノ者ニ對シ償還ノ訴ヲ爲スヲ得可シ

第一千四百九十一條 夫又ハ婦ニ付キ前數條ニ記シタル所ハ夫又ハ婦ノ遺物相續人ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ但シ夫ノ遺物相續人ハ夫



ト同一ノ權利ヲ行ヒ且同一ノ訴訟ヲ受ケ又婦ノ遺物相續人ハ婦ト  
同一ノ權利ヲ行ヒ且同一ノ訴訟ヲ受ク可シ

〇第六款 共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル事及ヒ之ヲ肯セ  
サルノ效

第一千四百九十二條 共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル婦ハ其財産ヲ  
得ルノ權ヲ失ヒ且嘗テ自カラ其共通ノ財産中ニ加入セシ動産ト雖  
モ亦之ヲ得ルノ權ヲ失フ可シ

其婦ハ麻布類及ヒ衣服類ヲ自己ノ須用ノ爲メニ所得ト爲スヲ得  
可シ

第一千四百九十三條 共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル婦ハ左ノ諸件  
ヲ取戻スノ權アリ

第一 婦ニ屬スル不動産其儘ニテ現存スル時ハ其不動産又其不

動産ヲ既ニ賣拂ヒ其代金ヲ用ヒテ更ニ他ノ不動産ヲ買入レタ  
ル時ハ其不動産

第二 婦ノ不動産ヲ賣拂ヒ夫其代金ヲ前ニ記シタル如ク用フル  
ヲナク又之ヲ用ヒタルト雖モ婦其用方ヲ承諾セサル時ハ其代  
金

第三 共通ノ財産中ヨリ其婦ノ得可キ總テノ償

第一千四百九十四條 共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル婦ハ其夫又ハ  
債主ニ對シ共通ノ負債ヲ全ク擔當スルニ及ハス〇然レ婦其夫ト連  
帶シテ負債ヲ償フ可キ契約アル時又ハ共通ノ負債元來婦ノ負シモ  
ノタル時ハ婦其債主ニ對シテ其負債ヲ擔當ス可シ但シ此場合ニ於  
テハ婦ヨリ夫又ハ其遺物相續人ニ對シテ償還ノ訴ヲ爲スヲ得可  
シ



第一千四百九十五條 共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯セサル婦ハ共通ノ財産ト夫ノ一身ノ財産トニ付キ前數條ニ記シタル訴訟ヲ爲スノ權及ヒ取戻ヲ爲スノ權ヲ行フコトヲ得可シ

其婦ノ遺物相續人ハ麻布類及ヒ衣服類ヲ所得ト爲ス事及ヒ目錄ヲ記シ且熟考ヲ爲スタメ定メタル期限間借貸ヲ出サスシテ家屋ニ住スル事並ニ飲食料ヲ得ル事ヲ除クノ外其婦ト同一ノ權利ヲ行フコトヲ得可シ但シ麻布類衣服類家屋ノ借貸飲食料ニ付テノ權利ハ夫ヨリ後ニ生存シタル婦ノ一身ノミニ限リタルモノトス

○夫婦中一方ノ者又ハ雙方ノ者前婚ノ子アル時法律上ノ財産共通ニ管シタル規則

第一千四百九十六條 夫婦中一方ノ者又ハ雙方ノ者前婚ノ子アル時ト雖モ前數條ニ記シタル規則ニ循フ可シ

然レ若シ動産ト負債ト渾同スルニ因リ夫婦中一方ノ者ヲシテ第一千九十八條贈遺ニ定メタル所ヨリ更ニ多分ノ利益ヲ得セシムルコトアル時ハ他ノ一方ノ者ノ前婚ノ子其利益ヲ減ス可キノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ

○第二則 契約ヨリ生スル財産ノ共通法律上ノ財産ノ共通ヲ更改シ又ハ除去ス可キ契約

第一千四百九十七條 夫婦ハ第一千三百八十七條第一千三百八十八條第一千三百八十九條第一千三百九十條ニ記シタル所ニ背カサル契約ヲ爲シテ法律上ノ財産ノ共通ヲ更改スルコトヲ得可シ  
其更改ノ方法中ニテ平常最モ多ク行ル、所ノモノハ左ノ八件中ノ一ヲ契約スルコトアリトス

第一 共通ノ財産ハ夫婦結縁ノ間買入タル財産ノミヲ包含ス可



キ事

第二 夫婦現在所有スル動産又ハ後來所有ス可キ動産ヲ共通ノ財産中ニ加入セサル事又ハ其動産ノ一部ノミチ共通ノ財産中ニ加入ス可キ事

第三 不動産ヲ動産ニ等シキモノト看做シ夫婦現在所有スル不動産又ハ後來所有ス可キ不動産ノ全部又ハ一部ヲ共通ノ財産中ニ包含ス可キ事

第四 夫婦婚姻ノ前ニ負フタル債ヲ各自ニ拂フ可キ事

第五 財産ノ共通ヲ解除スル時其財産ヲ受クルヲ肯セサル婦共通ノ債ヲ全ク擔當スルヲナク嘗テ其共通ノ財産中ニ加入シタル物件ヲ取戻ス事

第六 夫婦中ノ後ニ生存スル者其財産ノ分派ヲ爲ス前ニ或ル財

産又ハ金高ヲ預メ己レニ引取ル可キ事

第七 夫婦其財産ヲ分派スル時互ニ平等ナラサル部分ヲ得可キ事

第八 夫婦ノ間ニ其財産ノ全部ヲ共通ス可キ事

○第一款 夫婦結縁ノ間買入レタル財産ノミチ共通スル事

第一千四百九十八條 夫婦其結縁ノ間ニ買入レタル財産ノミチ共通ス可キ契約ヲ爲シタル時ハ現在後來ノ別ナク其雙方ノ負フタル債ト動産買入レタルトチ共通財産ノ中ヨリ除キタルト看做ス可シ

此場合ニ於テハ財産ノ共通ヲ解除スル時夫婦各其共通ノ財産中ニ入レシ證アル物件ヲ預シメ己レニ引取リタル後嘗テ夫婦ノ協力シ又ハ夫婦其財産ノ入額ヲ互ニ節約シテ結縁ノ間共ニ買入レタル財産又ハ各自ニ買入レタル財産ノミチ分派ス可シ



第一千四百九十九條 婚姻ヲ結ヒタル時既ニ存在シタル動産又ハ婚姻  
ヲ結ヒタル後遺物相續又ハ贈遺ニ因リ得タル動産ヲ相當ノ目錄ヲ  
以テ證明セサル時ハ之ヲ結縁間ニ買入タル財産ニ等シキ者ト看做  
ス可シ

○第二款 動産ノ全部又ハ一部ヲ共通ノ財産中ニ加入セサ  
ル契約

第一千五百條 夫婦ハ其現在所有スル動産又ハ後來所有ス可キ動産ノ  
全部ヲ共通ノ財産中ニ加入セサルヲ得可シ  
又夫婦定マリシ價ニ至ル迄其動産ヲ互ニ共通ノ財産中ニ加入セン  
ト爲ストチ契約シタル時ハ其餘ノ動産ヲ己レノ所有ト爲シ保チタ  
ルモノト看做ス可シ

第一千五百一條 此契約アル時ハ夫又ハ婦其共通ノ財産中ニ加入セン

ト約セシ價ノ動産又ハ金高ヲ共通ノ財産中ニ拂フ可キノ義務ヲ負  
ヒ且其動産ヲ既ニ共通ノ財産中ニ加入シタルノ證ヲ立ツ可シ

第一千五百二條 夫ニ付テハ婚姻ノ契約書ニ其動産ハ幾許ノ價タルヤ  
ヲ記シタルヲ以テ其動産ヲ共通ノ財産中ニ加入シタルノ證アリト  
ス  
婦ニ付テハ夫ヨリ婦ニ渡シタル受取書又ハ其婦ニ嫁資ヲ贈與シタ  
ル者ニ渡シタル受取書ヲ以テ其婦ノ動産ヲ共通ノ財産中ニ加入シ  
タルノ證アリトス

第一千五百三條 夫婦婚姻ヲ結ヒシ時共通ノ財産中ニ加入シタル動産  
又ハ其後遺物相續又ハ贈遺ニ因リ得タル動産ノ價當テ共通ノ財産  
中ニ加入ス可シト約シタル動産ノ價ニ過キタル時ハ財産ノ共通ヲ  
解除スル時分派ノ前ニ其過分ノ價ヲ預メ己レノ方ニ引取ルノ權ア



第一千五百四條 結縁ノ間ニ夫又ハ婦ノ贈遺又ハ遺物相續ニ因リ得

ル動産ハ目錄ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

夫贈遺又ハ遺物相續ニ因リ得タル動産ノ目錄ヲ記セサル時又ハ其

動産ノ現存スル事ト其債ヲ差引タル價トヲ證明ス可キ證書ヲ記セ

サル時ハ其夫共通財産分派ノ前ニ其動産ヲ引取ル可カラズ

又婦遺物相續又ハ贈遺ニ因リ得タル動産ノ目錄ヲ記セサル時ハ其

婦又ハ其相續人證書又ハ證人又ハ人ノ通知スル評説ニ因リ其動産

ノ價ヲ證スルヲ得可シ

○第三款、不動産ヲ動産ト看做ス契約

第一千五百五條 夫婦又ハ夫婦中一方ノ者其現在所有スル不動産又ハ

後來所有ス可キ不動産ノ全部又ハ一部ヲ共通ノ財産中ニ加入ス可

キヲ契約シタル時ハ其契約ヲ名ケテ不動産ヲ動産ト看做ス契約ト云フ

第一千五百六條 不動産ヲ動産ト看做ス事ハ或ハ定マリシモノアリ或

ハ定マラサルモノアリ

夫婦別段定メタル一箇ノ不動産ノ全部又ハ別段定メタル不動産ノ

或ル價ニ至ル迄ノ一部ヲ動産ト看做シテ之ヲ共通ノ財産中ニ入

ント述フル時ハ不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定マリタルモノトス

夫婦或ル價ニ至ル迄不動産ヲ共通ノ財産中ニ入ル可シト述ヘ別ニ

其不動産ヲ定メタル事ナキ時ハ不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定マラ

サルモノトス

第一千五百七條 不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定マリシモノタル時ハ其

別段定メタル一箇ノ不動産又ハ數箇ノ不動産ヲ動産ニ等シク共通



財産中ノ物ト爲スノ効アリ

婦別段定メタル一箇ノ不動産又ハ數箇ノ不動産ノ全部ヲ動産ト看做シタル時ハ其夫其不動産ヲ共通ノ動産ノ如ク取扱ヒ其全部ヲ賣拂フヲ得可シ

婦別段定メタル不動産ノ或ル價ニ至ル迄ノ一部ヲ動産ト看做シタル時ハ夫其婦ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ賣拂フヲ得ス但シ夫ハ婦ノ不動産ヲ動産ト看做シタル一部ニ至ル迄ヲ其婦ノ承諾ナクシテ書入質ト爲スヲ得可シ

第一千五百八條 不動産ヲ動産ト看做ス事ノ定マラサルモノタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ共通ノ財産中ニ加入スルヲナク唯其事ヲ承諾シタル夫又ハ婦ヲシテ財産ノ共通ヲ解除スル時ニ嘗テ約シタル價ニ至ル迄自己ノ不動産ヲ財産ノ合部中ニ加入セシム可キ義務ヲ生

スルモノトス

此場合ニ於テハ夫前條ニ記シタル如ク婦ノ動産ト看做シタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ其婦ノ承諾ナクシテ賣拂フヲ得ス然レ夫其婦ノ動産ト看做シタル價ニ至ル迄ノ不動産ヲ書入質ト爲スヲ得可シ

第一千五百九條 不動産ヲ動産ト看做シタル夫又ハ婦ハ共通ノ財産分派ノ時其得可キ部分中ヨリ同上ノ不動産ノ當時ノ價ヲ差引キテ其不動産ヲ己レニ保有スルヲ得可シ但シ其遺物相續人モ亦同一ノ權アリ

○第四款 夫婦其債婚姻前ノ各自ニ拂フ可キ契約

第一千五百十條 夫婦其債ヲ各自ニ拂フ可キ契約アル時ハ其債ヲ負フタル夫又ハ婦ノ爲メ共通ノ財産中ヨリ償フタルノ證アル諸件ヲ財



産共通解除ノ時ニ至リ其夫又ハ婦ヨリ共通ノ財産中ニ算計ス可キノ義務アリ

夫又ハ婦ノ動産ノ目錄ノ有無ヲ問ハス其夫又ハ婦前ニ記スル所ノ如キ義務ヲ負フ可シ但シ夫婦婚姻ヲ結ヒタル時其共通ノ財産中ニ加入シタル動産ヲ目錄又ハ婚姻前ニ記シタル公正ノ證書ヲ以テ證明セサル時ハ夫又ハ婦ノ債主夫婦其動産所有ノ權ノ相異ナル旨ヲ述フルニ管セス共通ノ動産並ニ目錄ヲ記セサル一方ノ動産ヲ以テ其債ノ償ニ充ツ可キノ訴ヲ爲スヲ得可シ  
又夫又ハ婦其財産ヲ共通スル時間遺物相續又ハ贈遺ニ因リ得タル動産ノ目錄又ハ公正ノ證書ヲ記セサル時ハ其債主亦前ニ記スル所ニ等シキ權ヲ有スルモノトス

第一千五百十一條 夫又ハ婦別段定メタル金高又ハ物件ヲ共通ノ財産

中ニ加入スル時ハ其金高又ハ物件ニ付キ婚姻前ノ債ヲ擔當スルコトナキ旨ヲ約シタルモノト看做ス可シ但シ夫又ハ婦共通ノ財産中ニ加入セント約シタル金高又ハ物件ヲ自己ノ負債ノ爲メ減少スルコトアル時ハ其一方ヨリ他ノ一方ニ其償ヲ爲ス可シ

第一千五百十二條 夫婦其債ヲ各自ニ拂フ可キノ契約アリト雖モ其婚姻ヲ結ヒシ以後ノ其債ノ息銀ヲ共通ノ財産ヲ以テ償フ可キノ差支トナルコトナカル可シ

第一千五百十三條 夫婦中一方ノ者婚姻ノ契約書ニ婚姻前ノ債ヲ全ク滌掃シタル旨ヲ記シタルニ共通解除ノ時其一方ノ者ノ債主共通ノ財産ヲ以テ其債ヲ償フ可キ旨ヲ訴ヘ共通ノ財産ヲ以テ之ヲ償フタル時ハ他ノ一方ノ者其債ヲ負フタル一方ノ者ノ共通ノ財産中ヨリ得可キ部分又ハ其者ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ其償還ヲ得可キノ



權アリ若シ其債ヲ負フタル一方ノ者ノ共通ノ財産中ヨリ得可キ部  
 分又ハ其一身ニ属スル財産ヲ以テ其償還ニ充ルニ足ラサル時ハ他  
 ノ一方ノ者其配偶者ノ負債ナキ旨ヲ述ヘタル父母又ハ尊屬ノ親又  
 ハ後見人ニ對シ同上ノ償還ヲ得ント訴フルヲ得可シ  
 又婦其債ヲ負フタル時ハ夫婦財産ヲ共通スル間ト雖モ夫其婦ノ父  
 母又ハ尊屬ノ親又ハ後見人ニ對シ同上ノ償還ヲ得ント訴フルヲ  
 得可シ但シ此場合ニ於テハ後ニ夫婦財産ノ共通ヲ解除スル時婦又  
 ハ其遺物相續人ヨリ其父母又ハ尊屬ノ親又ハ後見人ニ其算還ヲ爲  
 ス可キノ義務アリトス

○第五款 夫婦財産ノ共通ヲ解除スル時婦共通ノ債ヲ全ク  
 擔當スルヲナク其嘗テ共通ノ財産中ニ加入セシ財産ヲ  
 取戻ス可キ事

第一千五百十四條 婦共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサル時ハ共通ノ負  
 債ヲ擔當スルヲナク嘗テ婚姻ヲ結ヒシ時又ハ其後共通ノ財産中ニ  
 加入シタル財産ノ全部又ハ一部ヲ取戻ス可キノ契約ヲ爲スヲ得  
 可シ但シ其契約ハ別段其書中ニ記シタル財産ノ外ニ之ヲ及ボシ用  
 フルヲ得ス又別段其書中ニ記シタルヨリ以外ノ人ニ及ボシ用フ  
 ルヲ得ス

故ニ婦ノ婚姻ヲ結ヒタル時共通ノ財産中ニ加入セシ動産ヲ取戻ス  
 可キヲ約シタル時ハ婚姻ヲ結ヒタル後其婦遺物相續又ハ贈遺ニ  
 因リ得タル動産ニ其約ヲ及ボスヲ得ス又婦其契約ニ因リ同上ノ  
 特權ヲ得タルト雖モ之ヲ其子ニ及ボスヲ得ス又婦及ヒ其子ノ爲  
 メ同上ト特權ヲ生シタル時ト雖モ其遺物相續人タル尊屬ノ親又ハ  
 傍系ノ親ニ之ヲ及スヲ得ス



何レノ場合ニ於テモ共通ノ財産ヲ以テ償フタル婦ノ一身ニ屬スル債ヲ差引タル上ニ非サレハ其婦嘗テ共通ノ財産中ニ加入セシ諸件ヲ取戻スヲ得ス

○第六款 夫婦中ノ後ニ生存スル者其財産ノ分派ヲ爲ス前ニ或ル財産又ハ金高ヲ預メ己レニ引取ル可キ契約

第一千五百十五條 夫婦中ノ後ニ生存スル者其共通ノ財産ヲ分派スル前ニ或ル金高又ハ動産ヲ預メ己レニ引取ル可キノ契約アリト雖モ夫ヨリ後ニ生存スル婦財産ノ共通ヲ受クルヲ肯シタル時ニ非サレハ其婦ノ爲メニ同上ノ權ヲ生スルヲナカル可シ但シ婚姻ノ契約書ニ其婦共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサルト雖モ同上ノ權ヲ有ス可キ旨ヲ別段記シタル時ハ格別ナリトス  
婚姻ノ契約書ニ婦同上ノ權ヲ有ス可キヲ別段記シタル時ノ外婦

ニ分派ヲ爲ス可キ共通財産ノ合部中ヨリ其動産又ハ金高ヲ己レニ引取ル可シ其死去シタル夫ノ一身ニ屬スル財産中ヨリ之ヲ引取ル可カラズ

第一千五百十六條 夫婦中ノ後ニ生存スル者財産ノ分派ヲ爲ス前ニ金高又ハ動産ヲ預メ己レニ引取ル可キノ權ハ贈遺ノ法式ニ管シタルモノト看做ス可カラズ婚姻ノ契約ニ因リ生シタルモノト看做ス可シ

第一千五百十七條 夫婦中一方ノ死去又ハ准死ニ因リ他ノ一方ノ爲メ同上ノ權ヲ生ス可シ

第一千五百十八條 若シ離婚ニ因リ又ハ夫婦居ヲ分ツニ因リ財産ノ共通ヲ解除シタル時ハ其一方ノ者財産ノ分派ヲ爲ス前ニ同上ノ權ニ因リ動産又ハ金高ヲ現ニ己レニ引取ルヲ得ス但シ此場合ニハ



離婚又ハ分居ヲ得タル一方ノ者他ノ一方ノ者ヨリ後ニ生存スル時  
ハ同上ノ權ヲ行フヲ得可シ○若シ離婚婦又ハ分居ヲ得タル時ハ  
其婦同上ノ權ニ因リ得可キ金高又ハ財産ヲ假リニ夫ノ所有ト爲シ  
置キ夫ヲシテ其保證人ヲ立テシム可シ

第一千五百十九條 共通財産ノ債主ハ第一千五百十五條ニ記スル所ノ如  
ク夫婦中一方ノ者共通財産ノ分派ヲ爲ス前ニ預メ引取ル可キ財産  
ヲ賣拂フ可キノ權アリ但シ此場合ニ於テハ其一方ノ者共通ノ財産  
中ヨリ償還ヲ得可キノ求メテ爲スヲ得可シ

○第七款 夫婦共通ノ財産中ニテ互ニ平等ナラサル部分ヲ  
得可キノ契約

第一千五百二十條 夫婦ハ後ニ生存スル一方ノ者又ハ其遺物相續人ニ  
共通財産ノ半ヨリ少ナキ部分ヲ授ケ又ハ共通ノ財産ヲ得可キ權ニ

代ヘ定マリシ金高ノミヲ授ケ又時トシテハ夫婦中ノ生存スル者又  
ハ夫婦中ノ特ニ定メタル一方ノミニ共通財産ノ全部ヲ授ケ可キノ  
契約ヲ爲シ法律上ニ定メタル平等分派ノ方法ニ反スルヲ得可シ

第一千五百二十一條 若シ夫婦中一方ノ者又ハ其遺物相續人共通財産  
中ノ三分一又ハ四分一等ノ如ク別段定マリシ一部ノミヲ得可キ契  
約アル時ハ其一方ノ者又ハ其遺物相續人其得タル部分ニ准シテ共  
通ノ債ヲ擔當ス可シ

夫婦中一方ノ者又ハ其遺物相續人ヲシテ其共通ノ財産中ヨリ得可  
キ部分ヨリモ更ニ餘分ノ債ヲ擔當セシムルノ契約又ハ一方ノ者ノ  
得ル所ノ部分ニ當ル可キ債ヲ擔當ス可キ義務ヲ釋放スルノ契約ハ  
其効ナカル可シ

第一千五百二十二條 夫婦中一方ノ者又ハ其遺物相續人財産ノ分派ヲ



得可キ權ニ代へ別段定マリシ金高ノミチ得可キ契約アル時ハ他ノ一方ノ者又ハ其遺物相續人共通財産ノ利得ト負債トノ多少ヲ問ハス又其共通ノ財産ヲ以テ別段定マリシ金高ヲ與フルニ足ルト足ラサルトヲ問ハス必ス其契約シタル金高チ一方ノ者ニ與フ可キノ義務アリトス

第一千五百二十三條 若シ夫又ハ婦ノ遺物相續人ノミニ付キ同上ノ契約アル時其夫又ハ婦其配偶者ヨリ後ニ生存スルニ於テハ法律ニ循ヒ共通財産ノ半ノ分派ヲ得可シ

第一千五百二十四條 第一千五百二十條ニ記シタル所ニ因リ共通財産ノ全部ヲ保チタル夫又ハ其遺物相續人ハ共通ノ債ヲ全ク擔當ス可シ此場合ニ於テハ其債主婦又ハ其遺物相續人ニ對シ訴訟ヲ爲ス可カラス

若シ夫ヨリ後ニ生存スル婦定マリシ金高チ夫ノ遺物相續人ニ與へ共通財産ノ全部ヲ己レニ保ツ可キ權ヲ有スル時ハ其婦共通ノ債ヲ己レニ擔當シテ預定ノ金高チ夫ノ遺物相續人ニ與へ又ハ共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セスシテ共通ノ財産ト負債トヲ其夫ノ遺物相續人ニ任カスルヲ自由タル可シ

第一千五百二十五條 夫婦ハ共通ノ財産ノ全部ヲ後ニ生存ス可キ一方ノ者ノミニ屬ス可キノ契約ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テ他ノ一方ノ者ノ遺物相續人ハ其相續ヲ爲サシムル者ノ嘗テ共通ノ財産中ニ加入セシ物件及ヒ金高チ己レニ取戻スヲ得可キノ權アリ同上ノ契約ハ其本案ニ付テモ其法式ニ付テモ贈遺ノ契約ノ規則ニ管シタルモノト看做ス可カラズ婚姻ヲ結ビシ者ノ婚姻ノ契約ナリト看做ス可シ



○第八款 夫婦ノ間ニ其財産ノ全部ヲ共通ス可キ事

第一千五百二十六條 夫婦ハ其現ニ所有スルト後ニ所有ス可キトナ問  
ハス不動産並ニ動産ヲ全ク共通ト爲シ又ハ其現ニ所有スル不動産  
並ニ動産ノミチ共通ト爲シ又ハ後ニ所有ト爲ス可キ不動産並ニ動  
産ノミチ共通ト爲スコト婚姻ノ契約書ヲ以テ預定スルコト得可シ

○前ノ八款ニ通シ用フ可キ規則

第一千五百二十七條 夫婦其財産ヲ共通スル契約ハ必ズシモ前ノ八款

ニ記シタル規則ノミニ限ルコトナカル可シ

夫婦ハ第一千三百八十八條第一千三百八十九條第一千三百九十條ニ記シ  
タル規則ニ循フ時ハ第一千三百八十七條ニ記セシ如ク前ノ八款ト異  
ナリタル契約ヲ爲スコト得可シ

然レ夫婦中一方ノ者ニ前婚ノ子アル時他ノ一方ニ第一千九十八條 贈

第一千五百二十九條 夫婦嫁資分括ノ法ヲ用フルコトナク其財産ヲ共通

セスシテ婚姻ヲ結ビ又ハ財産ヲ分別シテ婚姻ヲ結フコトヲ述ヘタル

○第九款 夫婦財産ノ共通ヲ除去ス可キ契約

第一千五百二十八條 夫婦互ニ其財産ヲ共通スル契約書ニ法律上ニテ  
定メタル財産共通ノ規則ト異ナリタル條件ヲ別段約定シ又ハ其契  
約書ニ同上ノ規則ト異ナリタル條件アルコト自カラ知リ得可キ時  
ノ外ハ總テ契約ニリ生シタル財産共通ニ付キ法律上ニ定メタル財  
産共通ノ規則ヲ用フ可シ

悉ニ定メシ部分ニ過キタル財産ヲ贈與ス可キ契約ハ其過分ノ財産  
ニ付キ總テ其効ナカル可シ但シ夫婦ノ相與ニ勞働シテ得タル利益  
又ハ夫婦ノ入額互ニ等シカラサル時ト雖モ其入額ヲ節約シテ得タ  
ル利益ハ前婚ノ子ノ權利ヲ害ス可キモノト看做ス可カラズ



時ハ其契約ノ効チ左ノ如ク定ム可シ

○第一節 夫婦其財産ヲ共通セズ婚姻ヲ結フ契約

第一千五百三十條 夫婦財産ヲ共通セズシテ婚姻ヲ結フ契約アリト雖モ婦ハ己ノ財産ヲ支配スルノ權及ヒ其財産ノ利益ヲ收受スルノ權ヲ有スルヲナシ但シ其財産ノ利益ハ結縁間ノ費用ニ充ル爲メ婦ヨリ夫ニ持チ來リシモノト看做ス可シ

第一千五百三十一條 夫ハ其婦ノ動産及ヒ不動産ヲ支配シ且其婦ノ嫁資トシテ持チ來リシ動産又ハ結縁間其婦ノ贈遺及ヒ遺物相續ニ因リ人ヨリ得ル所ノ動産ヲ己ノニ收受スルノ權アリ但シ後日婚姻ヲ解ク時又ハ裁判所ヨリ夫婦ノ財産ヲ分ツ可キ言渡チ爲シタル時ハ其動産ヲ其婦ニ還與ス可シ

第一千五百三十二條 婦ノ嫁資トシテ持チ來リシ動産又ハ結縁間婦ノ

贈遺又ハ遺物相續ノ名義ニテ人ヨリ得ル所ノ動産中ニ費耗セズシテ用フルヲ得サル物件アル時ハ夫婚姻ノ契約書ニ其物件ノ評價書ヲ添ヘ置キ又ハ其婦ノ遺物相續又ハ贈遺ニ因リ人ヨリ物件ヲ得タル時其目錄ヲ記シ置キ後日夫ヨリ其評價書又ハ目錄ニ記スル所ノ價ヲ其婦ニ返還ス可シ

第一千五百三十三條 夫ハ總テ財産ノ入額ヲ所得ト爲ス者ノ義務ヲ己ノニ擔當ス可シ

第一千五百三十四條 此一節ニ記スル所ノ契約アリト雖モ婦其生計及ヒ一身ノ入用ノ爲メ自己ノ受取書ヲ以テ其財産ノ入額ノ一部ヲ毎歲所得ト爲ス可キヲ契約スルノ差支トナルヲナカル可シ

第一千五百三十五條 此一節ニ記スル場合ニ於テ婦ノ嫁資トナシタル不動産ハ之ヲ人ニ賣拂フ可カラサルモノニ非ストス



然其不動産ハ婦其夫ノ許諾ナクシテ之ヲ人ニ賣拂フヲ得ス又夫其事ヲ肯セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ之ヲ賣拂フヲ得ス

○第二節 夫婦財産ヲ分別スル契約

第一千五百三十六條 夫婦婚姻ノ契約書ニ其財産ヲ分別ス可キヲ約シタル時ハ婦其動産及ヒ不動産ヲ支配スルノ權並ニ其入額ヲ自由ニ所得ト爲スノ權ヲ己レニ保ツ可シ

第一千五百三十七條 夫婦ハ婚姻ノ契約書ニ記スル所ニ循ヒ各其結婚ノ間ノ費用ヲ分テ擔當ス可シ若シ婚姻ノ契約書ニ別段其事ヲ記セサル時ハ婦自己ノ入額ヲ三分ノ一ニ至ル迄其費用ヲ擔當ス可シ第一千五百三十八條 何レノ場合ニ於テモ如何ナル契約アルヲ問ハス婦ハ其夫ノ許諾ヲ得スシテ其不動産ヲ人ニ賣拂フヲ得ス又夫其

事ヲ肯セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ其不動産ヲ賣拂フヲ得ス

婚姻ノ契約書ニ因リ又ハ婚姻ノ契約書ヲ記シタル後夫其婦ニ總テ其不動産ヲ隨意ニ賣拂フ可キヲ泛博ニ許可シタルト雖モ其許可ノ効ナカル可シ

第一千五百三十九條 夫ト財産ヲ分別シタル婦其財産ノ入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ其夫ニ委テタル時ハ夫其婦ヨリ別段求メテ受タル時又ハ婚姻ヲ解キタル時現存スル入額ノミヲ其婦ニ還ス可シ其時ニ至ル迄既ニ費シタル入額ハ之ヲ算計スルニ及ハス

○第三章 嫁資ヲ分括スル法

第一千五百四十條 嫁資トハ第二章ニ記スル所ニ於テモ此章ニ記スル所ニ於テモ婦其結婚間ノ費用ニ充ツ可キ爲メ夫ノ方ニ持テ來リシ



財産ヲ云フ

第一千五百四十一條 婦自カラ嫁資ト爲シタル物件又ハ婚姻ノ契約書ニ因テ婦ノ人ヨリ贈遺トシテ得タル物件ハ別段ノ契約アル時ノ外之ヲ嫁資分括ノ法ヲ以テ處置ス可シ 第一千三百九十一條見合

○第一款 財産ヲ嫁資ト爲ス事

第一千五百四十二條 婦ハ現ニ所有スル財産并ニ後ニ所有ト爲ス可キ財産ノ全部ヲ嫁資ト爲シ又ハ現ニ所有スル財産ノ全部ノミヲ嫁資ト爲シ又ハ現ニ所有スル財産並ニ後ニ所有ト爲ス可キ財産ノ一部ヲ嫁資ト爲シ又ハ一個ノ品物ノミヲ嫁資ト爲スヲ得可シ 泛博ノ詞ヲ用ヒ婦ノ財産ヲ盡ク嫁資ト爲ス可キヲ契約書ニ記シタル時ハ婦ノ後ニ所有ト爲ス可キ財産ヲ包含スルヲナカル可シ 第一千五百四十三條 夫婦結縁ノ間ハ婦新タニ其財産ヲ家資ト爲ス可

カラス又預メ嫁資ト爲シタル財産ノ量ヲ増ス可カラス

第一千五百四十四條 父母各其女ニ嫁資トシテ與フ可キ部分ヲ定ムルヲナク相與ニ之ヲ贈與シタル時ハ雙方平等ノ部分ヲ贈與シタルト爲ス可シ

父一人コテ其女ニ嫁資ヲ與フルヲ約シタル時ハ縱令父ト母トノ權利ヲ以テ之ヲ與フルノ名義アリト雖モ其母ノ立會ノ有無ヲ問ハス父一人ニテ其約束ノ如ク執行フヲ擔當ス可シ

第一千五百四十五條 父母中ノ後ニ生存スル者ヨリ死者ノ財産ト自己ノ財産トヲ以テ其女ニ嫁資ヲ與フ可キヲ約シ死者ノ部分ト自己ノ部分トヲ別段定メタルヲナキ時ハ其女前ニ死シタル父又ハ母ノ財産中ヨリ其遺物トシテ己レノ得可キ部分ヲ先ツ嫁資トシテ所得ト爲シ其餘ハ嫁資ヲ與フルヲ約シタル父又ハ母ノ財産中ヨリ所



〇九六

得ト爲ス可シ

第一千五百四十六條 父母ヨリ嫁資ヲ得可キ女自己ニ屬スル財産ヲ所有シ父母其入額ヲ所得ト爲ス時ト雖モ其女ハ父母ノ財産中ヨリ其嫁資ヲ得可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第一千五百四十七條 嫁資ヲ與フル者ハ其嫁資トシテ贈與スル財産ヲ保證ス可シ

第一千五百四十八條 嫁資ヲ與フ可キ期限ヲ別段定メタル時ト雖モ其嫁資ヲ與ヘント約シタル者ハ夫婦トナル可キ者ノ婚姻ヲ結ヒシ以來其嫁資ノ財産ニ付テノ息銀ヲ拂フ可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス 第一千四百四十條見合セ

〇第二款 嫁資ノ財産ニ付テノ夫ノ權及ヒ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ可カラサル事

第一千五百四十九條 夫婦タル時間ハ夫一人ニテ嫁資ノ財産ヲ支配スルノ權アリ

又夫ハ其婦ニ嫁資ヲ與フ可キ者又ハ其嫁資ノ財産ヲ占有スル者ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ嫁資ノ財産ノ利益ヲ收受シ及ヒ嫁資ノ金高ヲ人ヨリ償還セシムルノ權アリ

然レ婦ハ其生計及ヒ一身ノ入用ノ爲メ自己ノ受取書ヲ以テ其財産ノ入額ノ一部ヲ毎歲所得ト爲ス可キヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ定ムルヲ得可シ

第一千五百五十條 夫ハ婦ヨリ嫁資ヲ受取ルニ付キ別ニ保證人ヲ立ルニ及ハス但シ婚姻ノ契約書ニ別段其保證人ヲ立ツ可キヲ定メタル時ハ格別ナリトス

一九六

第一千五百五十一條 嫁資ノ財産ノ全部又ハ一部婚姻ノ契約書ニ其價



ヲ定メタル動産ニシテ其價ヲ定ルト雖モ之ヲ夫ニ賣渡スコトナキ旨  
ヲ別段記セサル時ハ夫其所有者トナリ其代金ノミヲ婦ニ償フ可キ  
ノ義務アリトス

第一千五百五十二條 嫁資ノ財産中ノ不動産ヲ評價シタルト雖モ夫ニ  
其不動産所有ノ權ヲ移スコトナカル可シ但シ婚姻ノ契約書ニ其權ヲ  
夫ニ移ス可キコト別段記シタル時ハ格別ナリトス

第一千五百五十三條 嫁資ノ金高ヲ以テ買入レタル不動産ハ婚姻ノ契  
約書ニ其金高ヲ利益トナル可キ方法ニ用フルニ付テノ條件ヲ定メ  
タル時ノ外之ヲ嫁資ノ財産ナリトセス自由ニ賣拂ヒ得可キ  
又嫁資ノ金高ノ償トシテ之ニ代ヘ與タル不動産モ又同一ナリトス

第一千五百五十四條 嫁資ト爲シタル不動産ハ結縁ノ間夫又ハ婦各自  
ニ又ハ夫婦連合シテ之ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與シ又ハ書入質ト爲ス

コトヲ得ス但シ後ノ數條ニ記スル所ハ格別ナリトス

第一千五百五十五條 婦ハ其夫ノ許諾ヲ得タル上又其夫ノ許諾セサル  
時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上前婚ノ子ヲシテ産業ヲ定メシムル爲  
メ其嫁資ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得可シ但シ夫ノ許諾ヲ得ルコトナク  
裁判所ノ允許ヲ以テ其嫁資ノ財産ヲ前婚ノ子ニ贈與シタル時ハ其  
財産入額所得ノ權ヲ其夫ニ屬セシム可シ

第一千五百五十六條 又婦ハ夫ノ許諾ヲ得タル上其夫婦ノ間ニ生レタ  
ル子ヲシテ産業ヲ定メシムル爲メ其嫁資ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得  
可シ

第一千五百五十七條 嫁資ノ不動産ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與スルヲ得可  
キ旨ヲ婚姻ノ契約書ニ記シタル時ハ其賣拂又ハ贈遺ヲ爲スコトヲ得  
可シ



四九六

第一千五百五十八條 又左ノ數箇ノ場合ニ於テハ嫁資ノ不動産ヲ裁判所ノ允許ヲ得タル上三次ノ貼附ヲ爲シテ釋賣ニ爲スヲ得可シ

第一 夫又ハ婦ヲ獄舎ヨリ出テシムル爲メ

第二 第二百三條第二百五條第二百六條<sup>婚姻ニ定メタル場合ニ</sup>於テ親族ニ養料ヲ給與スル爲メ

第三 婚姻ノ契約ヲ爲ス以前ニ負ラタル日附ノ慥ナル婦ノ債又

ハ婦ニ嫁資ヲ與ヘシ者ノ債ヲ償フ爲メ

第四 嫁資ノ不動産ヲ保全スルニ付キ必要ナル修理ヲナス爲メ

第五 嫁資ノ不動産ヲ他人ト共通シテ所有シ之ヲ分別ス可カラ

サルヲノ分明ナル時

此諸般ノ場合ニ於テ其不動産ヲ賣拂ヒ得タル金高中ニテ必要ノ高

ニ過キタル部分ハ之ヲ婦ノ嫁資ノ一部ト爲シ婦ノ爲メニ利益トナ

ル可キ方法ニ用フ可シ

五九六

第一千五百五十九條 嫁資ノ不動産ハ婦ノ承諾ヲ得タル上之ト同一ノ價アル他ノ不動産又ハ其價ノ五分ノ四ニ下ラサル他ノ不動産ト交換スルヲ得可シ但シ此事ヲ爲スニハ其交換ノ利益アルヲ證シ且裁判所ノ允許ヲ得タル上其裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル評價人ヲシテ其評價ヲ爲サシムルヲ必要トス  
此場合ニ於テハ交換シテ得タル不動産ヲ嫁資中ノ物トナシ又前ノ不動産ノ價後ノ不動産ノ價ニ過キタル時ハ其過キタル價高ヲモ亦嫁資中ニ加入シテ婦ノ爲メニ利益トナル可キ方法ニ用フ可シ  
第一千五百六十條 前數條ニ記シタル格別ノ場合ノ外婦又ハ夫各自ニ又ハ夫婦連合シテ嫁資ノ不動産ヲ賣拂ヒタル時ハ婦又ハ其遺物相續人婚姻ヲ解キシ後其賣拂ノ契約ヲ取消スヲ得可シ但シ夫婦結



縁ノ間ハ其不動産ヲ買入レタル者期滿得免ノ權ヲ申述ヘテ其婦又ハ其遺物相續人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス○又婦ハ夫ト財產ヲ分チタル時モ亦同一ノ權アリ

夫モ亦結縁間嫁資ノ不動産賣拂ノ契約ヲ取消スコトヲ得可シ但シ其賣拂ノ契約書中ニ其不動産ハ婦ノ嫁資タルコトヲ別段記セシ時ノ外夫ヨリ之ヲ買入タル者ノ損失ヲ償フ可シ

第一千五百六十一條 婚姻ノ契約書ヲ以テ人ニ賣拂フコトヲ得可キ旨ヲ別段定メタルヨリ以外ノ嫁資ノ不動産ハ縱令之ヲ占有スル者アリト雖モ夫婦結縁ノ間其占有者期滿得免ノ權ヲ得ルコトヲ得ス但シ夫婦婚姻ヲ結フ前ニ占有者ノ爲メ既ニ期滿得免ノ期限ノ始マリタル時ハ格別ナリトス

又夫婦財產ヲ分チタル後ハ其占有者ノ爲メ期滿得免ノ期限ノ始マリタル期日ノ如何ナルヲ問ハズ其占有者其不動産ニ付キ同上ノ權ヲ得可シ

第一千五百六十二條 夫ハ嫁資ノ財產ニ付キ總テ入額所得者ノ義務ヲ擔當ス可シ

夫ハ其怠リニ因リ嫁資ノ財產ニ付キ人ニ期滿得免ノ權ヲ得セシメ又ハ其財產ヲ卑惡ニ至ラシメタル時ハ自カラ其責ニ任ス可シ

第一千五百六十三條 婦嫁資ノ財產ヲ失フ可キノ恐アル時ハ第一千四百四十三條以下數條ニ記シタル如ク夫ト財產ヲ分チタルノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ

○第三款 嫁資ヲ返還スル事

七九六 第一千五百六十四條 嫁資ノ不動産ナル時又ハ婚姻ノ契約書ニ其價ヲ定メサル動産ナル時又ハ其價ヲ定ムルト雖モ婦其所有ノ權ヲ失ハ



サル旨ヲ別段定メタル動産ナル時ハ婚姻ヲ解キシ後夫又ハ其遺物  
相續人ヨリ遅延ナク其嫁資ヲ返還ス可シ

第一千五百六十五條

又嫁資ノ金高ナル時又ハ價ヲ定ムルト雖モ婦其  
所有ノ權ヲ失ハサル旨ヲ別段定メタルトナキ動産ナル時ハ夫又ハ

其相續人婚姻ヲ解キシヨリ一年內ニ之ヲ返還スルニ及ハス

第一千五百六十六條

婦ノ所有スル動産其夫ノ過失ニ非ラス唯夫ノ之  
ヲ用ヒタルノミニ因リ損敗シタル時ハ後ニ存シタル其一部ヲ其時

ノ摸樣ノ儘返還ス可シ  
然レ何レノ場合ニ於テモ婦ハ自己ノ入用ノ爲メ麻布類及ヒ衣服類

ヲ己レニ取戻ス可シ但シ婚姻ノ契約書ニ其物件ノ價ヲ定メ  
タル時ハ婦己レニ取戻ス可キ諸件中ニテ其價ヲ減ス可シ

第一千五百六十七條

婦ノ人ヨリ得可キ義務又ハ年金ヲ嫁資ト爲シ夫

ノ怠リニ非スシテ其義務又ハ年金ヲ全ク失フニ至リ又ハ之ヲ減損  
シタル時ハ夫其責ニ任スルコトナク唯其義務又ハ年金ノ契約書ヲ返  
還ス可シ

第一千五百六十八條

財産ノ入額所得ノ權ヲ嫁資ト爲シタル時ハ夫又

ハ其遺物相續人婚姻ヲ解ク時ニ至リ唯其入額所得ノ權ヲ返還ス可  
ク結縁間得タル所ノ入額ヲ返還スルニ及ハス

第一千五百六十九條

人ヨリ婦ニ嫁資ヲ與ヘント約シタル期限ノ後十

年間結縁ノ上ニテ婚姻ヲ解キタル時ハ其婦又ハ其遺物相續人其嫁  
資ヲ夫ノ既ニ受取リシ旨ヲ證スルニ及ハスシテ其嫁資トナシタル  
財産ヲ夫ヨリ取戻ス可シ但シ夫其嫁資ヲ得可キ爲メ力ヲ竭  
シタルト雖モ終ニ之ヲ得ルコト能ハサル旨ヲ證セシ時ハ格別ナリト  
ス



〇〇七

第一千五百七十條 婦ノ死去ニ因リ婚姻ヲ解キシ時ハ其婦ノ遺物相續人其婚姻ヲ解キシ以來ノ嫁資ノ息銀及ヒ利益ヲ取戻スノ權アリ又夫ノ死去ニ因リ婚姻ヲ解キシ時ハ其婦一年ノ喪中其嫁資ノ息銀ヲ得又ハ其一年ノ時間夫ノ遺物中ヨリ養料ヲ得ル事自由ナリトス但シ此二箇中何ノ場合ニ於テモ其一年間婦ノ住居スル家屋ノ借賃ト其喪服ノ費用トハ夫ノ遺物財産中ヨリ之ヲ其婦ニ供給ス可クシテ其婦ノ得可キ嫁資ノ息銀中ヨリ之ヲ差引ク可カラス

第一千五百七十一條 婚姻ヲ解キシ時ハ其最終ノ一年中ニテ其婚姻ヲ解カサリシ時間ノ長短ニ准シ嫁資ノ不動産ノ利益ヲ夫及ヒ婦又ハ其遺物相續人等ノ間ニ分ツ可シ

其一年ノ時間ハ嘗テ婚姻ヲ行フタル日ヨリ之ヲ算ス可シ

第一千五百七十二條 婦及ヒ其遺物相續人ハ嫁資ヲ取戻スニ付キ自己

ヨリ前ニ夫ノ不動産ヲ書入質ト爲シタル債主ニ先チ夫ノ不動産ヲ己レニ得可キノ特權ナシ

第一千五百七十三條 父其女ニ嫁資ヲ與ヘタル時其夫既ニ己レノ負債ヲ償フコト能ハス且技藝職業ナキ者ニシテ夫其嫁資ヲ費シタルニ於テハ婦其夫ノ遺物相續人ヨリ償ヲ得可キノ權ノミチ父ノ遺物中ニ返還ス可シ

然レ夫婚姻ノ後負債ヲ償フコト能ハサル者トナリ又ハ夫財産ヲ有セスト雖モ之ニ代フ可キ技藝職業アル時ハ其嫁資ノ損失ヲ其婦己レニ擔當ス可シ

〇第四款 嫁資外ノ婦ノ財産

一〇七 第一千五百七十四條 嫁資ト爲サ、ル婦ノ財産ハ總テ之ヲ嫁資外ノ財産ト云フ



二〇七 第一千五百七十五條 婦ノ財産盡ク嫁資外ノ財産ニシテ其結縁間ノ費用中幾許ヲ其婦ノ擔當ス可キヤヲ婚姻ノ契約書ニ別段定メタルヲナキ時ハ其婦己レノ入額ノ三分一ニ至ル迄ヲ其費用トシテ出ス可シ

第一千五百七十六條 婦ハ其嫁資外ノ財産ヲ支配シ且其入額ヲ所得ト爲スノ權アリ

然レ婦ハ夫ノ許諾ヲ得タル上又夫ノ許諾セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ其財産ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與スルヲ得ス又其財産ニ付キ訴訟ノ原告又ハ被告トナルヲ得ス

第一千五百七十七條 婦其嫁資外ノ財産ヲ己レニ代テ支配ス可キノ權ヲ其夫ニ授ケ其財産ノ利益ヲ己レニ算計セシムルヲ契約シタル時ハ其夫總テ其他ノ名代人 此篇第十ニ等シク其婦ニ對シ其算計ヲ

爲スノ義務ヲ擔當ス可シ

第一千五百七十八條 若シ夫別段其婦ノ名代人タル可キノ契約ナク唯其婦ノ阻拒セサルニ因リ嫁資外ノ財産ノ利益ヲ所得ト爲シタル時ハ其婚姻ヲ解ク時ニ至リ又ハ婦ヨリ求メテ受ケタル時ニ至リ現存スル利益ノミテ還ス可ク既ニ費シタル利益ヲ算計スルニ及ハス

第一千五百七十九條 又夫其婦ノ阻拒シタルニ管セス嫁資外ノ財産ノ利益ヲ所得ト爲シタル時ハ其夫既ニ費シタル利益ト現存スル利益トヲ皆其婦ニ算計ス可シ

第一千五百八十條 婦ノ嫁資外ノ財産ノ利益ヲ所得ト爲ス夫ハ總テ入額所得者ノ義務ヲ負フ可シ

○格別ノ規則

三〇七 第一千五百八十一條 夫婦嫁資分括ノ法ニ循テ婚姻ヲ爲スト雖モ其結



四〇七

縁間ニ買入タル財産ヲ共通ス可キノ約ヲ爲スヲ得可シ但シ其共通ノ效ハ第一千四百九十八條及ヒ第一千四百九十九條ニ記シタル所ニ循フ可シ

○第六卷 賣買(千八百四年三月六日決定同月十六日布告)

○第一章 賣買ノ本義及ヒ法式

第一千五百八十二條 賣買トハ一方ヨリ物件ヲ渡シ他ノ一方ヨリ其價ヲ拂フ可キノ契約ヲ云フ  
賣買ハ公正ノ證書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ私ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スヲ得可シ

第一千五百八十三條 一方ヨリ未タ物件ヲ渡スヲナク且他ノ一方ヨリ

其價ヲ拂フヲナシト雖モ其物件ト其價トヲ互ニ協議シタル上ハ其雙方ノ間ニ於テ賣買ヲ爲シ了リタルモノトシ買主ハ賣主ニ對シテ其物件所有ノ權ヲ得可シ

第一千五百八十四條 賣買ハ別段ノ約束ナク之ヲ爲スヲ得又ハ義務ノ執行ヲ停止スル未必ノ條件第一千五百八十條見合セ及ヒ義務ヲ解除スル未必ノ條件第一千五百八十三條見合セニ管スル約束ヲ以テ之ヲ爲スヲ得可シ  
又賣買ハ二箇又ハ二箇以上ノ物件中ニテ其一ヲ擇ム可キノ約束ヲ以テ之ヲ爲スヲ得可シ

此中何レノ場合ニ於テモ賣買ノ契約ノ効ハ此篇第三卷 契約ニ記シタル一般ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

五〇七

第一千五百八十五條 商品ヲ一纏メト爲シテ賣ルヲナク之ヲ度量シ又ハ之ヲ算計シテ賣ラントスル時ハ之ヲ度量シ又ハ算計スルニ至ル



迄ノ間買主其物件ヲ己レニ擔當ス可キニ因リ其賣買ヲ爲シ了リタルモノト爲ス可カラズ但シ賣主契約ノ如ク執行ハサルコトアル時ハ買主其商品ノ引渡ヲ得ント訴へ又別段ノ道理アルニ於テハ損失ノ償ヲ得ント訴フルコト得可シ

第一千五百八十六條 又商品ヲ一纏メト爲シテ賣リタル時ハ未タ之ヲ度量シ又ハ算計セスト雖モ其賣買ヲ爲シ了リタルモノトス可シ

第一千五百八十七條 葡萄酒又ハ油又ハ總テ買入ル、前ニ味ヲ試ム可キ習慣アル物品ニ付テハ買主其試ミヲ爲シ承諾シタル上ニ非サレハ賣買ヲ爲シ了リタルモノト爲ス可カラズ。

第一千五百八十八條 先ツ物品ヲ試ミタル上ニテ之ヲ買入ル可キ約束アル賣買ハ義務ノ執行ヲ停止スル未必ノ條件ニ管シタル約束ヲ以テ爲シタルモノト爲ス可シ

第一千五百八十九條 雙方ノ者其賣買ス可キ物品ト其價トヲ互ニ協議シタル上ハ賣拂ノ約束ノミニテ既ニ賣買ヲ爲シタルニ等シキ効アリトス

第一千五百九十條 手附金ヲ出シテ賣買ノ契約ヲ爲シタル時其契約ヲ爲シタル一方ノ者左ノ條件ヲ行フニ於テハ其契約ヲ取消スコト得可シ

手附金ヲ渡シタル者ハ其手附金ヲ己レノ損失ト爲ス事  
手附金ヲ受取リタル者ハ其手附金ノ二倍ヲ返ス事

第一千五百九十一條 賣買ノ價ハ賣買ヲ爲ス雙方ノ者之ヲ定ム可シ  
第一千五百九十二條 然レ雙方ノ者ハ其評價ヲ他人ノ裁斷ニ任カスル

コト得可シ但シ此場合ニ於テ他人其評價ヲ爲スコト欲セス又ハ評價ヲ爲スコト能ハサル時ハ賣買ノ契約ナシトス可シ



第一千五百九十三條 賣買ノ證書ノ費用及ヒ其他賣買ニ付テノ費用ハ買主之ヲ擔當ス可シ

○第二章 賣買ヲ爲シ得可キ人ノ事

第一千五百九十四條 法律上ニテ別段禁止スル者ニ非サレハ何人ニ限ラス賣買ヲ爲ス可キヲ得可シ

第一千五百九十五條 賣買ノ契約ハ左ノ三個ノ場合ノ外夫婦ノ間ニ爲ス可キヲ得ス

第一 夫婦中ノ一方裁判所ノ言渡ヲ得テ財產ヲ分チタル他ノ一方ニ對シ義務ヲ盡クス爲メ財產ヲ讓リ渡ス場合

第二 夫婦財產ヲ分チタルト否トヲ問ハス夫其婦ノ不動産ヲ賣拂フテ得タル代金又ハ其婦ノ金高ヲ利益トナル可キ方法ニ用フル等ノ如ク總テ正當ノ原由アリテ其婦ニ自己ノ財產ヲ讓リ

渡ス場合但シ其婦ノ不動産又ハ金高ヲ夫婦ノ共通セサル時ニ限ル可シ

第三 婦其財產ヲ夫ト共通セサル時嫁資トシテ持來ル可キヲテ約シタル金高ニ代ヘ其財產ヲ夫ニ讓リ渡ス場合

此三箇ノ場合ニ於テ夫婦竊ニ其私利ヲ計リタル時ハ其遺物相續人已レノ權利ヲ保護ス可キノ訴ヲ爲ス可キヲ得可シ

第一千五百九十六條

後見人ハ其後見ヲ受クル者ノ財產

名代人ハ本人ニ代リテ賣拂フ可キノ任ヲ受ケタル財產

邑ノ支配人及ヒ公舎ノ支配人ハ其支配スル邑ノ財產又ハ公舎ニ屬スル財產

官ニ屬スル財產賣拂ノ任ヲ受ケタル官吏ハ其財產



此等ノ者ハ此等ノ財産ヲ自カラ買入ル、コトヲ得ス又人ノ介入ヲ以テ買入ル、コトヲ得ス縱令之ヲ買入レタルト雖モ其効ナカル可シ

第一千五百九十七條 裁判役及ヒ其代役ハ檢察官員、裁判所ノ書記、官使、吏、代書師、訴訟ノ代言人、證書人等ハ其職務ヲ行フ裁判所ノ所轄タル訴訟ヲ爲スノ權ヲ買受クルコトヲ得ス縱令之ヲ買受クルト雖モ其買受ノ効ナク且相手方ニ裁判所ノ費用ト損失ノ高トヲ償フ可シ

〇第三章 賣拂フコトヲ得可キ物件

第一千五百九十八條 通常賣買ヲ爲ス物件ハ總テ之ヲ賣拂フコトヲ得可シ但シ別段ノ規則ニ因リ其賣拂ヲ禁シタル時ハ格別ナリトス

第一千五百九十九條 賣主自己ノ所有ニ非サル物件ヲ賣拂フタル時ハ其賣拂ノ効ナカル可シ但シ此場合ニ於テ買主其物件賣主ノ所有ニ非サルコトヲ知ラサル時ハ其賣主ニ對シ損失ノ償ヲ得ント訴フルコト

ヲ得可シ

第一千六百條 生存スル人ノ遺物相續ヲ爲スノ權ハ縱令其人ノ承諾アリト雖モ之ヲ賣拂フコトヲ得ス 第一千百三十一條見合

第一千六百一條 賣拂フ可キ契約ヲ爲シタル物件ノ全部其賣拂ノ時ニ至リ滅盡シタルニ於テハ其賣買契約ノ効ナカル可シ

又其物件ノ一部滅盡シタル時ハ買主全ク其賣買ノ契約ヲ取消シ又ハ評價人ヲシテ其現存スル部分ノ價ヲ定メシメ之ヲ得ント求ムルコト自由ナリトス

〇第四章 賣主ノ義務

〇第一款 總規則

第一千六百二條 賣主ハ其義務ヲ詳カニ説明ス可シ

意味ノ分明ナラス又ハ疑ハシキ契約ノ文詞ハ皆賣主ノ損失トナル



二一七

可キ方法ニ之ヲ解釋ス可シ

第一千六百三條 賣主ノ爲メニ重大ナル義務ニ箇アリ其一ハ賣拂フタル物件ヲ引渡ス可キノ義務又一ハ其物件ヲ保證ス可キノ義務ナリ

○第二款 引渡ノ事

第一千六百四條 物件引渡トハ賣拂フタル物件ヲ買主ニ委附シ之ヲ其所有ニ移スヲ云フ

第一千六百五條 不動産ヲ引渡ス可キ義務ノ家屋ニ管シタル時ハ賣主

ヨリ買主ニ其鑰ヲ渡シタルニ因リ又土地ニ管シタル時ハ其所有ノ證書ヲ渡シタルニ因リ賣主ヨリ買主ニ對シテ其義務ヲ盡クシタルト爲ス可シ

第一千六百六條 動産ノ引渡ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第一 現ニ其動産ヲ渡ス事

第二 其動産ヲ入レ置キタル家屋ノ鑰ヲ渡ス事

第三 賣買ノ時其動産ヲ運送スルヲ能ハス又ハ買主賣買ニ非カル名義ヲ以テ既ニ其動産ヲ己レノ有ト爲シタル場合ニ於テハ賣主ト買主ト協議シタル事

第一千六百七條 權利ノ引渡ハ證書ヲ渡ス事又ハ買主賣主ノ承諾ヲ得テ其權利ヲ行フ事ニ因リ之ヲ爲ス可シ

第一千六百八條 引渡ニ付テノ費用ハ賣主之ヲ擔當ス可ク又運送ノ費用ハ買主之ヲ擔當ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第一千六百九條 引渡ハ賣拂ノ時其物件所在ノ場所ニテ之ヲ爲ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

三一七  
第一千六百十條 賣主其所爲ニ因リ嘗テ買主ト協議セシ期限内ニ物件



四一七

ヲ引渡スコトヲ遅延シタルニ於テハ買主其賣買ノ契約ヲ取消サント  
訴ヘ又ハ其物件ヲ己ノ所有ト爲サント訴フルコト自由ナリトス  
第一千六百十一條 何レノ場合ニ於テモ賣主買主ト當テ協議セシ期限  
内ニ其物件ヲ引渡サルニ因リ買主ノ爲メ損失ヲ生スル時ハ賣主買  
主ニ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第一千六百十二條 買主賣主ニ代金ヲ拂フコトナク且賣主ヨリ其拂方ノ  
猶豫ヲ買主ニ許シタルコトナキ時ハ賣主ヨリ買主ニ其物件ヲ引渡ス  
ニ及ハス

第一千六百十三條 賣買ノ契約ヲ爲シタル後買主家資分散ヲ爲シ又ハ  
産業ヲ破リタルニ因リ賣主其代金ヲ損失ス可キノ危急ナルニ於テ  
ハ縱令賣主其代金ヲ受取ルニ付テノ猶豫ヲ買主ニ許シタル時ト雖  
モ賣主買主ニ其物件ヲ引渡スニ及ハス但シ買主ヨリ賣主ニ對シ預

定ノ期限ニ至リ必ス其代金ヲ拂フ可キノ保證人ヲ立テタル時ハ格  
別ナリトス

第一千六百十四條 總テ引渡ス可キ物件ハ賣買ノ契約ヲ爲シタル時ノ  
景狀ノ儘之ヲ引渡ス可シ

其契約ノ時ヨリ後ニ其物件ヨリ生スル所ノ利益ハ買主ニ屬ス可シ  
第一千六百十五條 物件ヲ引渡ス可キ義務アル時ハ其物件ニ附從シタ  
ル物及ヒ總テ其物件ヲ永ク使用スル爲メ具ヘタル諸件ヲモ亦引渡  
ス可シ

第一千六百十六條 總テ賣主ハ賣買ノ契約書中ニ記シタル物件ノ總高  
ヲ引渡ス可シ但シ此事ニ付テハ後ノ數條ノ規則ニ循フ可シ

五 一七  
第一千六百十七條 不動産賣買ノ契約書ニ其不動産ノ方積ト其一區ニ  
付キ價幾許ノ割合トヲ記シタル時買主其契約書ニ記シタル如キ方



積ヲ得ント未ムルニ於テハ賣主ヨリ之ヲ引渡ス可シ  
若シ賣主其契約書ニ記シタル如キ方積ヲ渡スヲ能ハサル時又ハ買  
主之ヲ得ント未メサル時ハ賣主其契約書ニ記シタル所ノ方積ト現  
ニ在ル所ノ方積トノ差ニ准シテ其價ヲ減ス可シ

第一千六百十八條 若シ又前條ノ場合ニ於テ契約書ニ記セシヨリ其方  
積更ニ多分ニシテ其餘分ト積契約書ニ記シタル積ニ過クルコト二十  
分一以上ナル時ハ買主其價ノ增高ヲ與フルコト又ハ其契約ヲ取消ス  
コト自由ナリトス

第一千六百十九條 總テ其他ノ場合即チ前二條外ノ  
場合ヲ云フ

一箇ノ定マリタル不動産ノ賣買ヲ契約シタル時  
互ニ分別シテ且ツ離隔シタル不動産賣買ノ契約ヲ爲シタル時  
不動産ヲ定ムル前ニ先ツ之ヲ度量シテ其賣買ノ契約ヲ爲シタ

ル時又ハ先ツ其不動産ヲ定メタル上ニ於テ之ヲ度量シ其賣買ノ  
契約ヲ爲シタル時

此場合ニ於テハ其度量ヲ契約書ニ記シタルト雖モ現ニ在ル所ノ不  
動産ノ方積契約書ニ記シタル方積ヨリ多ク又ハ少ナキコト不動産全  
價ノ二十分一以上ノ差異アルニ非サレハ其餘分ニ付キ賣主ノ爲メ  
ニ其價ヲ増スコトナカル可ク又不足ニ付キ買主ノ爲メニ其價ヲ減ス  
ルコトナカル可シ但シ賣主ト買主ト別段ノ契約ヲ爲シタル時ハ格別  
ナリトス

第一千六百二十條 前條ニ循ヒ不動産ノ方積ノ餘分ナルニ付キ價ヲ増  
ス可キ時ハ買主其契約書ヲ取消スコト又ハ價ノ增高ヲ與フルコト自由  
ナリトス但シ買主其不動産ヲ己レノ方ニ保チ置キタル時ハ價ノ増  
高ト共ニ其息銀ヲ拂フ可シ



第一千六百二十一條 買主賣買ノ契約ヲ取消ス可キノ權アル場合ニ於テハ賣主其受取リタル代金ト其契約ヲ爲スニ付テノ費用トヲ買主ニ償還ス可シ

第一千六百二十二條 賣主價ノ增高ヲ求ムルノ訴訟及ヒ買主價ヲ減シ又ハ契約ヲ取消スヲ求ムルノ訴訟ハ其契約書ヲ記シタル日ヨリ一年内ニ之ヲ爲ス可ク然ラサレハ其訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ  
第一千六百二十三條 一通ノ契約書ニ據リ且相合シタル價ヲ以テ二箇ノ不動産ヲ賣拂ヒ其二箇ノ不動産ノ度量ヲ契約書ニ記シタル時其一箇ノ不動産ノ方積ハ契約書ニ記シタル積ヨリ少ナク他ノ一箇ノ不動産ノ方積ハ契約書ニ記シタル積ヨリ多キニ於テハ其多少ノ方積匹敵スルニ至ル迄互ニ相殺ス可シ但シ其價高ヲ増シ又ハ減ス可キノ訴訟ハ前ノ數條ニ記シタル規則ニ循テ之ヲ爲ス可シ

第一千六百二十四條 賣拂フタル物ヲ引渡ス前ニ其物ノ滅盡シ又ハ毀壞シタルノ責賣主ニアル可キヤ又ハ買主ニアル可キヤヲ知ルニ付テノ規則ハ此篇第三卷ノ契約ニ記シタル所ニ循フ可シ

○第三款 賣主其賣拂フタル物件ヲ買主ニ對シテ保證スル事

第一千六百二十五條 賣主ヨリ買主ニ對シテ爲ス可キ保證ハ二箇ノ目的アリトス但シ其一ハ其賣拂フタル物件ヲ買主ノ所有スルニ付キ阻害ナキノ保證ヲ爲ス事又一ハ其物件ニ知リ得ルヲ能ハサル不良ノ所ナキノ保證ヲ爲ス事ナリ

○第一節 買主他人ヨリ訴訟ヲ受テ其買入レタル物件ヲ奪ハル、コナキ旨ヲ賣主ヨリ保證スル事

第一千六百二十六條 賣買ノ時ニ賣主ノ保證ニ付キ別段契約ヲ爲サス



ト雖モ買主其買入レタル物件ノ全部又ハ一部ヲ他人ノ訴訟ニ因リ奪ハル、コナキ旨又ハ其物件ニ付キ賣買ノ時契約書ニ記セサル負債ハ買主擔當スルニ及ハサル旨ヲ賣主ヨリ買主ニ對シテ保證ス可シ

第一千六百二十七條 然レ賣主ト買主ト雙方互ニ別段ノ契約ヲ結ビ賣主ヨリ買主ニ對シ爲ス可キ當然ノ保證ニ付キ其義務ヲ増シ又ハ其義務ヲ減ス可キコナキ約シ又ハ賣主全ク其保證ヲ爲スコナカル可キ旨ヲ約スルコトヲ得可シ

第一千六百二十八條 賣主買主ニ對シテ同上ノ保證ヲ爲スニ及ハサルコトヲ別段約シタル時ト雖モ賣主自己ノ所爲ニ因リ生シタル諸件ニ付テノ保證ヲ爲サ、ルヲ得ス但シ之ニ反シタル契約ハ其効ナカル可シ

第一千六百二十九條 又賣主同上ノ保證ヲ爲スコナカル可キ旨ヲ契約シタル時ト雖モ買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入レタル物件ヲ奪ハル、ニ於テハ賣主ヨリ買主ニ其代金ヲ返ス可シ但シ買主賣買ノ契約ヲ爲シタル時後ニ其物件ニ付キ他人ヨリ訴訟ヲ受ケ之ヲ奪ハル可キノ恐レアルコトヲ既ニ知リタル時又ハ物件ヲ買入タル後之ヲ失フコトアリトモ其損失ヲ總テ己レニ擔當ス可キノ約束ヲ以テ買入タル時ハ格別ナリトス

第一千六百三十條 賣主買主ニ對シテ保證ヲ約シタル時又ハ保證ノ事ニ付キ別段契約ヲ爲シタルコトナキ時後ニ買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入タル物件ヲ奪ハレタルニ於テハ買主ヨリ賣主ニ對シ左ノ諸件ヲ得ント訴フルノ權アリ

第一 代金ノ返還



第二 買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入タル物件ト共ニ其物件ヨリ生シタル利益ヲ奪ハレタル時ハ其利益ノ償還

第三 買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケタル時其保證人タル賣主ヲ其訴訟ニ參セシムル手續ニ付テノ費用及ヒ其訴訟人ノ費用ハ買主ヨリ既ニ訴訟人ニ償フタルモノナク

第四 賣買契約書ノ費用並ニ買主ノ損失ノ償額

第一千六百三十一條 買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入タル物件ヲ奪ハレタル時ハ嘗テ買主ノ怠リニ因リ又ハ抗拒ス可カラサルノ力アル意外ノ事ニ因リ其物件ノ價減少シ又ハ其物件大ニ毀損セシマアリト雖モ賣主猶其價ノ總高ヲ返還セサルヲ得ス

第一千六百三十二條 然レ買主其物件ヲ毀損シタルニ因リ利益ヲ得タル時ハ賣主買主ニ返還ス可キ代金中ニテ其買主ノ利益トナリタル

高ヲ減シテ其餘ヲ返還スルヲ得可シ

第一千六百三十三條 買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入タル物件ヲ奪ハレタル時嘗テ買主ノ所爲ニ因ルト否トヲ問ハス其物件ノ價増シタルニ於テハ賣主ヨリ買主ニ其物件ノ賣拂代金ノ增高ヲ償還ス可シ  
第一千六百三十四條 買主其買入タル不動産ヲ修理シタル費用又ハ之ヲ良好ニ爲シタル費用ハ賣主自カラ之ヲ買主ニ償ヒ又ハ其買主ニ對シ訴訟ヲ爲シテ其不動産ヲ所得トシタル者ヲシテ之ヲ買主ニ償ハシム可シ

第一千六百三十五條 賣主若シ不正ノ意ヲ以テ他人ノ不動産ヲ賣リタル時ハ買主ノ其不動産ニ付キ爲シタル總テノ費用ヲ買主ニ償還ス可シ但シ買主ノ其不動産ニ付キ歡娛ノ爲メナシタル費用ト雖モ亦之ヲ償還セサルヲ得ス



第一千六百三十六條 買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入タル物件ノ一部ヲ奪ハレ其一部ヲ全部ト比較スルニ極メテ大切ノモノニシテ其一部ヲ所有ト爲スニ非サレハ初ヨリ買主ノ之ヲ買入ル、コナカル可シト思料ス可キニ於テハ買主其賣買ノ契約ヲ取消スコトヲ得可シ

第一千六百三十七條 又買主他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買入タル不動産ノ一部ヲ奪ハレタル時賣買ノ契約ヲ取消サ、ルニ於テハ其不動産ノ價ノ増減ニ管セス其一部ヲ奪ハレタル時ノ價ニ准シテ賣主ヨリ買主ニ其一部ノ代金ヲ償フ可ク賣買ノ時ノ價ニ准シテ之ヲ償フ可カラス

第一千六百三十八條 賣拂フタル不動産ニ付キ人目ニ觸レサル土地ノ義務アリテ賣買ノ時賣主ヨリ買主ニ之ヲ知ラシムルコトナク且其義務重劇ニシテ若シ買主其義務アルコトヲ知ル時ハ初ヨリ其買入ヲ爲

スコトナル可シト思料ス可キニ於テハ買主其賣買ノ契約ヲ取消スコトヲ訴フルヲ得可シ但シ買主其契約ヲ取消サスシテ唯其損失ノ償ヲ得ント欲スル時ハ格別ナリトス

第一千六百三十九條 前數條ニ記スル所ノ外賣主賣買ノ契約ノ如ク執行ハサルニ因リ買主ニ對シ損失ノ償ヲ爲ス可キ條件ハ此篇第三卷ノ契約ニ記シタル一般ノ規則ニ循フ可シ

第一千六百四十條 買主賣主ヲ裁判所ニ呼出スコトナクシテ終審ノ裁判ヲ受ケ又ハ控訴スルコト能ハサル確定ノ裁判ヲ受ケ其買入レタル物件ヲ他人ニ渡ス可キ旨ヲ言渡サレタル時賣主其訴訟ニ參スレハ原告人ノ申述ヲ拒ムニ足ル可キ憑據アルコトヲ證スルニ於テハ買主其買入レタル物件ヲ他人ノ爲メ奪ハル、ト雖モ賣主其償還ヲ爲スニ及ハス



○第二節 賣主其賣拂フタル物件ノ不良ナラサル旨ヲ保證スル事

第一千六百四十一條 賣主ハ其賣拂フタル物件ヲ當然ノ用法ニ供スル  
ト能ハサラシム可キ知リ難キ不良ノ所ナキ旨又ハ買主其不良ノ所  
アルヲ知リシ時ハ其物件ヲ買入ル、トナク又縱令之ヲ買入ル、  
ト雖モ少量ノ價ヲ出シタル可シト思料ス可キ不良ノ所ナキ旨ヲ買  
主ニ對シテ保證ス可シ

第一千六百四十二條 賣主ハ買主ノ自カラ知ルヲ得可キ不良ノ所アル  
ルニ付キ其責ニ任スルニ及ハス

第一千六百四十三條 賣主ハ其賣拂フタル物件ニ知リ雖キ不良ノ所アル  
ルヲ自カラ知ラサル時ト雖モ猶其責ニ任ス可シ但シ此場合ニ於  
テ賣主其責ニ任セサルヲ別段契約シタル時ハ格別ナリトス

第一千六百四十四條 第一千六百四十一條及ヒ第一千六百四十三條ノ場合  
ニ於テハ買主其買入タル物件ヲ賣主ニ返シテ其代金ヲ己レニ取戻  
ス事又ハ其物件ヲ己レニ保テ置キ評價人ノ定メタル所ニ循ヒ其代  
金ノ一部ヲ己レニ取戻ス事自由ナリトス

第一千六百四十五條 賣主其賣拂フタル物件ノ不良ナルヲ知リ之ヲ賣  
拂フタル時ハ其受取リシ代金ヲ返シタル上猶ホ買主ニ其損失ノ償  
ヲ爲ス可シ

第一千六百四十六條 賣主其賣拂フタル物件ノ不良ナルヲ知ラスシテ  
之ヲ賣拂フタル時ハ其代金ヲ返シ且買主ノ買入ニ付キ出シタル費  
用ヲ償フノミトス

七二七  
第一千六百四十七條 不良ナル物件其質ノ惡キニ因リ滅盡シタル時ハ  
賣主其損失ヲ擔當シテ買主ニ其代金ヲ返シ且前二條ニ記シタル償



チ爲ス可シ  
然レ同上ノ物件意外ノ事ニ因リ滅盡シタル時ハ買主其損失ヲ擔當  
ス可シ

第一千六百四十八條 賣拂フタル物件ニ不良ノ所アルニ因リ賣買ノ契  
約ヲ取消サントスル訴訟ハ其不良ナル事ノ種類ト其賣買ヲ爲シタ  
ル地ノ習慣トニ從ヒ買主相當ノ期限内ニ之ヲ爲ス可シ(千八百三十  
八年五月二十日ノ法ヲ以テ改ム)

第一千六百四十九條 前條ニ記シタル所ノ訴訟ハ裁判所ノ權ヲ以テ爲  
シタル賣拂ニ付キ之ヲ爲ス可カラス

○第五章 買主ノ義務

第一千六百五十條 買主ノ至重ノ義務ハ賣買ノ契約書ニ定メタル日ト  
場所トニ於テ其代金ヲ拂フ可キニアリトス

第一千六百五十一條 賣買ノ契約書ニ別段前條ノ事ヲ規定シタルトナ  
キ時ハ買主賣主ヨリ其物件ノ引渡ヲ得タル時ト場所トニ於テ其代  
金ヲ拂フ可シ

第一千六百五十二條 左ノ三箇ノ場合ニ於テハ買主賣主ニ價ノ母銀ヲ  
拂フニ至ル迄其息銀ヲ出ス可シ

第一 賣買契約書ニ別段同上ノ事ヲ記シタル時

第二 賣主其賣拂フタル物件ヲ引渡シタル後其物件ヨリ入額ヲ  
得タル時

第三 買主其代金ヲ拂フヲ怠リタルニ因リ賣主ヨリ之ヲ受取  
ル可キノ催促ヲ受ケタル時

但シ此末ノ一項ニ記シタル場合ニ於テハ賣主ヨリ買主ニ代金  
ヲ得ント催促シタル時ヨリ以來其息銀ヲ生ス可シ



第一千六百五十三條 買主其買入レタル物件ニ付キ之ヲ書入質ト爲シタル者ヨリ訴訟ヲ受ケ又ハ其物件ノ正當ノ所有者ヨリ之ヲ取戻サントスル訴訟ヲ受ケタル時又ハ此等ノ訴訟ヲ受ク可シト思料ス可キ道理アル時ハ賣主其訴訟ノ原因ヲ除去スルニ至ル迄買主其代金ヲ拂フコトヲ遅延スルヲ得可シ但シ賣主ヨリ買主ニ對シ此事ニ付キ保證人ヲ立テタル時又ハ縱令買主同上ノ訴訟ヲ受クルコトアリト雖モ其代金ヲ拂フ可キコトヲ預シメ契約シタル時ハ格別ナリトス

第一千六百五十四條 若シ買主代金ヲ拂ハサル時ハ賣主其賣買ノ契約ヲ取消サント訴フルコトヲ得可シ

第一千六百五十五條 不動産ノ賣主其不動産並ニ其代金ヲ共ニ失フ可キノ恐レアル時ハ裁判所ヨリ其賣買ノ契約ヲ取消ス可キ旨ヲ即時ニ言渡ス可シ

又同上ノ恐レナキ時ハ裁判役ヨリ其時ノ模様ニ從ヒ買主ニ多少ノ猶豫ヲ許スコトヲ得可シ

買主其猶豫ノ期限間ニ猶其代金ヲ拂フコトナキ時ハ賣買ノ契約ヲ取消ス可キコトヲ言渡ス可シ

第一千六百五十六條 不動産賣買ノ時賣主ト買主ト協議シタル期限内ニ買主其代金ヲ拂ハサルニ於テハ其賣買ノ契約ヲ取消ス可キコトヲ別段定メ置キタル時ト雖モ賣主ヨリ買主ニ其代金ヲ受取ル可キ催促ヲ爲サ、ル間ハ嘗テ協議シタル期限ノ終リシ後ニ至リ買主其代金ヲ拂フコトヲ得可シ然レ賣主ヨリ買主ニ其代金ヲ受取ラント催促シタル後ハ裁判役ヨリ其買主ニ更ニ猶預ノ期限ヲ許スコトヲ得ス

第一千六百五十七條 飲食料ノ商品及ヒ「エツヘー、モビリエール」  
 第五百三十五條見ノ賣買ヲ契約シタル時ハ其物ヲ引取ル可キ爲メ協議シタル期



限ノ終リシ後ニ至リ賣主ヨリ買主ニ其代金ヲ受取ル可キノ催促ヲ爲スヲナクシテ其賣買ノ契約ヲ取消スヲ得可シ

○第六章 賣買ノ契約ヲ取消ス事

第一千六百五十八條 既ニ此卷ニ記シタル賣買ノ契約ヲ取消ス可キ原由及ヒ總テ如何ナル契約ヲモ取消ス可キ原由ノ外買戻ノ權ヲ行フ事又ハ價ノ少ナキニ過キタル事ニ因リ亦賣買ノ契約ヲ取消スヲ得可シ

○第一款 買戻ノ權

第一千六百五十九條 買戻ノ權トハ賣主其得タル代金ヲ返シ且第一千六百七十三條ニ記スル所ノ償還ヲ爲シテ其賣拂フタル物件ヲ取戻ス可キノ契約ニ因リ生スル所ノ權ヲ云フ

第一千六百六十條 買戻ノ權ハ五年以上ノ期限間之ヲ行フ可キヲ契

約ス可カラズ

若シ五年ニ過キタル期限間其權ヲ行フ可キヲ契約シタル時ハ之ヲ五年ノ期限ニ減ス可シ

第一千六百六十一條 雙方ノ定メタル期限ハ嚴ニ之ヲ遵守ス可ク裁判役ヨリ其期限ヲ延スヲ得ス

第一千六百六十二條 賣主預定シタル期限内ニ買戻シノ要メヲ爲サル時ハ買主其物件ノ確定ノ所有者トナル可シ

第一千六百六十三條 何人ニ限ラス預定ノ期限内ニ買戻ノ權ヲ行フナキ時ハ終ニ其權ヲ失フ可シ但シ幼者ト雖モ亦同一ニシテ唯幼者ハ其後見人ニ對シ其償ヲ得可キノ訴ヲ爲スヲ得可シ

第一千六百六十四條 買戻ノ契約ヲ以テ物件ヲ賣拂フタル者ハ其買主ヨリ更ニ其物件ヲ買入ル者ニ對シ亦買戻ノ訴訟ヲ爲スヲ得可



シ但シ其買主更ニ其物件ヲ賣拂フ時ノ契約書ニ其買戻ノ權ヲ別段  
記入シタルコトナシト雖モ亦同一ナリトス

第一千六百六十五條 賣主ニ買戻ノ權ヲ授クル契約ヲ爲シテ物件ヲ買  
入タル者ハ總テ其賣主ノ權利ヲ行フコトヲ得可シ但シ此買主ハ真正  
ノ所有者人ナクハ別及ヒ其物件ヲ得ルノ權又ハ書入質トシテ其物  
件ヲ得ルノ權ヲ有スルト述フル者ニ對シ期滿得免ノ權ヲ行フコト  
得可シ

第一千六百六十六條 前條ニ記スル所ノ買主賣主ノ債主ヨリ其賣主ノ  
爲メニ義務ヲ行フ可キノ要メヲ受ケタル時ハ先ツ其賣主ノ財產ヲ  
以テ其義務ヲ得ルニ充テシメ猶其不足ナル時ニ至リテ其買入レタ  
ル物件ヲ渡ス可キ旨ヲ述フルコトヲ得可シ

第一千六百六十七條 賣主ノ他人ト共通セシ不動産ノ一部ヲ賣主ノ爲

メニ買戻ノ契約ヲ爲シテ買入タル者他人ヨリ其不動産賣主ノ要メ  
ヲ受ケ其賣主ニテ其不動産ノ全部ヲ己ニ買入タル時賣主買戻ノ權  
ヲ行ハントスルニ於テハ買主賣主チシテ其全部ヲ買戻サシムルコ  
トヲ得可シ

第一千六百六十八條 數人其共通シタル不動産チ一通ノ契約書ヲ以テ  
相與ニ賣拂フタル時ハ各其所有セシ部分ノミニ付キ買戻ノ權ヲ行  
フ可シ

第一千六百六十九條 又不動産ヲ賣拂フタル者ノ遺物相續人數人アル  
時ハ亦前條ニ等シク其各相續人其遺物ノ財產中ニテ己レノ得可キ  
部分ノミニ付キ買戻ノ權ヲ行フコトヲ得可シ

第一千六百七十條 然レ前二條ノ場合ニ於テ買主ハ數人ノ賣主又ハ遺  
物相續人等ニ對シ其不動産ノ全部ヲ買戻スコトヲ互ニ協議ス可キノ



求メテ爲スヲ得可シ若シ其數人互ニ協議セサル時ハ其數人中ノ一人ヨリ買戻ノ訴訟ヲ爲スト雖モ買主其訴ヲ拒ムノ權アリ

第一千六百七十一條 數人ニ屬シタル不動産ヲ其數人相與ニ賣ルヲナク各自ニ其所有スル部分ノミヲ賣リタル時ハ其數人自己ニ屬シタル部分ニ付キ各自ニ買戻ノ要メテ爲スヲ得可シ

此場合ニ於テ買主ハ買戻ノ要メテ爲シタル賣主ヲシテ其不動産ノ分部ヲ買戻サシムルヲ得ス

第一千六百七十二條 買主ノ遺物相續人數人アル時賣主ノ爲メニ買戻ノ契約ヲ爲シテ買入レシ不動産ヲ未タ分派セサル場合并ニ其不動産ヲ其遺物相續人數人ニ分派シタル場合ニ於テハ賣主其各相續人ニ對シ其得タル部分ノミニ付キ買戻ノ要メテ爲スヲ得可シ然レ其買主ノ遺物財産ヲ分派シ其買入レシ不動産ノ全部其相續人

中一人ノ所有トナリタル時ハ賣主其相續人中ノ相續シタル者ニ對シ其全部買戻ノ要メテ爲スヲ得可シ

第一千六百七十三條 物件買戻ノ權ヲ行フ賣主ハ其代金ヲ買主ニ返ス可キノミニ非ス賣買ニ付テノ費用及ヒ己ムヲ得サル修理ノ費用モ亦買主ニ償ヒ且其物件ノ價ヲ貴ウスルタメ爲シタル費用ノ中現ニ其價ヲ貴ウシタル高チ買主ニ償フ可シ○其賣主ハ總テ此等ノ義務ヲ盡シタル後ニ非サレハ其物件ヲ買戻スヲ得ス

又賣主買戻ノ契約ニ從ヒ其不動産ヲ買戻ス時ハ買主ノ其不動産ニ付キ擔當シタル負債及ヒ書入質ノ負債ヲ全ク滌掃シテ取戻スヲ得可シ但シ買主ノ詐偽ナク其不動産ヲ他人ニ貸貸シタル契約ハ其買戻ヲ爲シタル賣主モ亦之ヲ遵守ス可シ

○第二款 賣主ノ爲メ損失アル原由ヲ以テ賣買ノ契約ヲ取



消ス事 不動産ノ賣買  
ニ限ル可シ

第一千六百七十四條 賣主其不動産ノ價ニ付キ十二分ノ七以上ノ損失  
ヲ受ケタル時ハ賣主其賣買ノ契約ヲ取消サント訴フルノ權アリ但  
シ賣買ノ契約書ニ賣主其取消ヲ訴フルノ權ヲ拋棄セシ旨ヲ記シ且  
其契約書ニ定メタル價ニリ更ニ餘分ノ眞價アリト雖モ之ヲ買主ノ  
所得ト爲ス可キ旨ヲ記シタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第一千六百七十五條 賣主ノ爲メ十二分ノ七以上ノ損失アルコト知ラ  
ントスルニハ賣買ノ時ノ模様ト價トニ從ヒ其不動産ヲ評價ス可シ  
第一千六百七十六條 賣買ノ日ヨリ二年ノ後ニ至リテハ賣主ノ爲メ損  
失アルヲ以テ賣買ノ契約ヲ取消ス可キノ訴ヲ爲スコトヲ許サス  
婚姻シタル婦失踪者治産ノ禁ヲ受ケタル者丁年ノ賣主ノ權ニ代  
ル幼者ニ付テモ亦此二年ノ時間ヲ以テ同上ノ訴ヲ爲ス可キ期限ナ  
リトス

又買戻ノ爲メ契約シタル期間賣主損失ノ爲メ賣買ノ契約ヲ取消  
ス可キ期限ヲ遷延スルコトヲ得ス

第一千六百七十七條 賣主ノ爲メ損失アルノ證ヲ立ルコトヲ許スニハ別  
段裁判所ヨリノ言渡アル事並ニ其賣主ノ述フル所ヲ以テ其損失ヲ  
受ケタル旨ヲ大抵眞實ナリト思料ス可ク且十分至重ナル事故アル  
ヲ必要トス

第一千六百七十八條 其證ハ評價人三員ノ申立ニ因テ之ヲ立ツ可シ但  
シ其評價人三員ハ相與ニ一通ノ調書ヲ記ス可ク且其三員中其一員  
ノ說二員ノ說ト異ナル時ハ其二員ノ說ヲ以テ全員ノ說ト定ム可シ  
第一千六百七十九條 其三員ノ說各自相異ナル時ハ調書ニ其說ノ互ニ  
相異ノ趣旨ヲ記ス可シ但シ此評價人ノ說ハ云々彼評價人ノ說ハ



○四七

云々タルコヲ記スルヲ許サス

第一千六百八十條 評價人三員ハ裁判所ヨリ之ヲ任ス可シ但シ賣主及  
ヒ買主ノ雙方互ニ協議シテ其評價人三員ヲ任シタル時ハ格別ナリ  
トス

第一千六百八十一條 裁判所ニテ賣買ノ契約ヲ取消サントスル訴ノ如  
ク允許シタル時ハ買主其拂フタル代金ヲ己レニ取戻シテ其物件ヲ  
賣主ニ返ス事又ハ價ノ總高ノ十分一ヲ減シタル上ニテ正當ノ增高  
ヲ與ヘ其物件ヲ己レニ保有スル事自由ナリトス  
買主ヨリ更ニ其物件ヲ買入タル者モ亦同上ノ權アリトス但シ其者  
ハ以前ノ買主ニ對シ價ヲ添ムルコトヲ得可シ

第一千六百八十二條 買主前條ニ定メタル增高ヲ與ヘ其物件ヲ保有セ  
ント欲スル時ハ賣主ノ其賣買ノ契約ヲ取消サント訴ヘタル日ヨリ

以來其贈高ノ息銀ヲ拂フ可シ

若シ買主其物件ヲ賣主ニ返シ其代金ヲ己レニ取戻サント欲スル時  
ハ賣主ノ其契約ヲ取消スコトヲ訴タル日ヨリ以來其物件ヨリ得タル  
所ノ利益ヲ賣主ニ返ス可シ

又買主ノ拂フタル代金ノ息銀ハ賣主其契約ヲ取消サントスル訴ヲ  
爲シタル日ヨリ之ヲ其買主ニ算計ス可ク又買主其買入タル物件ヨ  
リ生セシ利益ヲ初メヨリ所得ト爲サ、ル時ハ其代金ヲ賣主ニ拂フ  
タル日ヨリ以來ノ息銀ヲ算計セシム可シ

第一千六百八十三條 買主ノ爲メニハ損失アルヲ以テ其賣買ノ契約ヲ  
取消ス可カラス

一四七

第一千六百八十四條 法律ニ循ヒ裁判所ノ言渡ヲ以テ爲シタル賣拂ニ  
付テハ損失アルヲ以テ其契約ヲ取消ス可カラス



第一千六百八十五條 數人相與ニ賣拂ヒ又ハ各自ニ賣拂フタル場合並ニ買主又ハ賣主ノ遺物相續人數人アル場合ニ付キ前款ニ記シタル規則ハ賣主ノ爲メ損失アルヲ以テ其賣買ノ契約ヲ取消ス事ニモ亦通シ用フ可シ

○第七章 糶賣ノ事

第一千六百八十六條 數人ノ共通スル物件ヲ損失ナク至當ニ分ツトテ得サル時又ハ數人ノ共通スル物件ヲ互ニ協議シテ分派シ其分派ヲ得可キ各人ノ皆己ノ所有ト爲ストテ得サル物又ハ所有トスルヲ欲セサル物アル時ハ糶賣ヲ以テ之ヲ賣拂ヒ其數人ニ其代金ヲ分ツ可シ

第一千六百八十七條 共通シテ物件ヲ所有スル各人ハ他人ヲシテ其糶賣ニ管涉セシムルヲ要ムルノ權アリ又其共通シテ所有スル者ノ

△

△

△

中一人幼者ナル時ハ必ス他人ヲシテ其糶賣ニ管涉セシム可シ  
第一千六百八十八條 糶賣ヲ爲スニ付テノ法式ハ此篇第一卷 遺物相續ノ卷ト 訴訟法トニ之ヲ定ム

○第八章 義務ヲ得可キノ權利及ヒ其他ノ權利ヲ人ニ移ス事  
第一千六百八十九條 義務ヲ得可キノ權又ハ訴訟ヲ爲スノ權ヲ人ニ移ス時ハ之ヲ渡ス者ヨリ之ヲ讓リ受ケル者ニ其證書ヲ渡シタルヲ以テ其權ノ引渡ヲ爲シタリトス

第一千六百九十條 權利ヲ讓リ受ケタル者義務ヲ行フ可キ者ニ其旨ヲ報知シタル上ハ他人ニ對シテモ亦其權利ヲ讓リ受ケタルト爲ス可シ

又權利ヲ讓リ受ケタル者ハ義務ヲ行フ可キ者公正ノ證書ヲ以テ其權利ヲ移リシトテ承諾シタルニ因リ亦他人ニ對シテ其權利ヲ讓リ



受ケタルト爲ス可シ

第一千六百九十一條 權利ヲ譲リ渡シタル者又ハ之ヲ譲リ受ケタル者其權利ヲ移セシメテ義務ヲ行フ可キ者ニ報知スル前ニ其義務ヲ行フ可キ者其權利ヲ譲リ渡シタル者ニ對シ其義務ヲ盡クセシ時ハ法ニ適シテ其義務ノ釋放ヲ得タルモノトス

第一千六百九十二條 義務ヲ得可キノ權利ヲ賣リ又ハ譲リ渡シタル時ハ保證並ニ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權等ノ如ク總テ其權利ニ附帶シタル諸件ヲモ亦包含ス可シ

第一千六百九十三條 義務ヲ得可キノ權利又ハ其他ノ權利ヲ賣リタル者ハ其賣拂ノ契約ニ別段保證ヲ爲スコトナシト雖モ其賣拂ノ時ニ當リ其權利ノ現存スルコトヲ保證ス可シ

第一千六百九十四條 義務ヲ得可キノ權利又ハ其他ノ權利ヲ賣リタル

者ハ之ヲ買受ケシ者ニ對シ其義務ヲ行フ可キ者ノ之ヲ盡クシ得可キコトヲ保證スルニ及ハス但シ其保證ヲ爲ス可キコトヲ別段約束シタル時ハ其賣主己レニ得タル代金ニ充ル迄其保證ヲ爲ス可シ

第一千六百九十五條 義務ヲ得可キノ權利又ハ其他ノ權利ヲ賣リタル者其買主ニ對シ其義務ヲ行フ可キ者ノ之ヲ盡クシ得可キノ保證ヲ爲スコトヲ約シタル時ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ當時之ヲ盡クシ得可キコトヲ保證シタルモノト爲シ之ヲ後日ニ及ホスコトナカル可シ但シ其賣主義務ヲ行フ可キ者ノ後日ニ至リ其義務ヲ盡クシ得可キコトヲ買主ニ對シ保證ス可キ旨ヲ別段約シタル時ハ格別ナリトス  
第一千六百九十六條 遺物財産中ノ各物件ヲ記列スルコトナク遺物相續ノ權ヲ賣リタル者ハ其買主ニ對シ自カラ遺物相續人タルコトヲ保證ス可シ



第一千六百九十七條 遺物相續ノ權ヲ賣リタル者既ニ其遺物財産中ノ物件ヨリ生シタル利益ヲ所得ト爲シタル時又ハ其遺物中ノ權利ノ一部ヲ既ニ得タル時又ハ遺物財産中ノ物件ヲ既ニ他人ニ賣渡シタル時ハ遺物相續ノ權ヲ買受ケシ者ニ對シ此等ノ諸件ヲ償フ可シ但シ賣買ノ契約書ニ此類ノ償ヲ爲サ、ルコト別段記シタル時ハ格別ナリトス

第一千六百九十八條 其買主ハ賣主ノ遺物相續ニ付キ擔當シタル義務ヲ盡セシ費用ヲ償ヒ且其他賣主ニ償フ可キ諸件ハ買主ヨリ之ヲ算計ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第一千六百九十九條 訴訟ヲ爲スノ權ヲ有スル者ヨリ他人ニ其權ヲ讓リ渡シタル時ハ其訴訟ヲ受ク可キ者其權ヲ得タル者ニ對シ其讓リ渡シテ得ルニ付テノ代金ト其正當ノ費用ト其權ヲ得ルニ付キ代金

ヲ拂フタル日ヨリ以來ノ其息銀トテ償フニ因リ其訴訟ヲ受クルコトヲ免カル、ヲ得可シ

第一千七百條 或事ニ管スル權利ニ付キ訴訟又ハ爭論ノ起リタル時ハ其事ヲ以テ訴訟アルモノト爲ス可シ

第一千七百一條 左ノ三箇ノ場合ニ於テハ第一千六百九十九條ニ記シタル規則ヲ用フ可カラス

第一 訴訟ヲ爲スノ權ヲ其賣主ト共ニ人ヨリ相續シタル者ニ其權ヲ賣渡シタル時又ハ賣主ト共ニ其權ヲ共通スル者ニ之ヲ賣渡シタル時

第二 一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ對シテ義務ヲ盡クヌニ代ヘ自己ノ訴ヲ爲ス權ヲ讓リ渡シタル時

第三 訴訟アル不動産ノ占有者入額所得者ノ如キヲ云フニ其訴訟ヲ爲スノ



權ヲ賣渡シタル時

○第七卷 交換ノ事(千八百四年三月七日決定同月十七日布告)

第一千七百二條 交換トハ雙方ニテ互ニ物件ヲ授受スル契約ヲ云フ

第一千七百三條 交換ハ賣買ニ等シク雙方ノ者ノ承諾ノミヲ以テ爲ス  
ヲ得可シ

第一千七百四條 互ニ交換スル者ノ中一人他ノ一人ヨリ交換ヲ爲ス可  
キノ名義ヲ以テ物件ヲ受取リタル後他ノ一人其物件ノ所有者ニ非  
サルノ證アル時ハ其物件ヲ受取リタル者ヨリ交換ノ爲メ他ノ一人  
ニ與フ可キヲ約シタル物件ヲ與フルニ及ハス唯其受取リタル物  
件ヲ返ス可シ

五

レ

第一千七百五條 互ニ交換スル者ノ中一人他ノ一人ヨリ受取リタル物  
件ヲ後ニ他人ヨリ訴訟ヲ受ケ奪ハレタル時ハ他ノ一人ヨリ其損失  
ノ償ヲ得又ハ己レヨリ與ヘタル物件ヲ取戻スヲ自由ナリトス

第一千七百六條 互ニ交換スル一方ノ者ノ爲メ損失アリト雖モ交換ノ  
契約ヲ取消スヲ得ス

第一千七百七條 其他賣買ノ契約ニ付キ定メタル規則ハ交換ノ契約ニ  
モ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第八卷 賃貸ノ契約(千八百四年三月七日決定同月十七日布告)

○第一章 總規則

第一千七百八條 賃貸ノ契約ニ二種アリ



○五七

一ハ物件ノ賃貸

一ハ人力ノ賃貸

第一千七百九條 物件ノ賃貸トハ一方ノ者他ノ一方ノ者ヨリ賃銀ヲ得テ定期ノ時間物件ヲ貸與フルノ契約ヲ云フ

第一千七百十條 人力ノ賃貸トハ一方ノ者他ノ一方ノ者ト協議ノ上定メタル賃銀ヲ得テ他ノ一方ノ爲メ或事ヲ爲ス可キ契約ヲ云フ

第一千七百十一條 此二種ノ賃貸ヲ分ツテ更ニ數種トス

第一 家屋及ヒ「ミユウブル」第五百三十ノ賃貸三條見合

第二 土地ノ賃貸

第三 労働ノ賃貸

第四 貸主ト借主トニ利益ヲ分ツ獸類ノ賃貸

第五 雙方ノ者ノ定メタル價ヲ以テ物ヲ造ル可キ請負ノ契約ヲ

爲シタル時其物ヲ造ルニ付キ用フル所ノ諸財ヲ其造主ヨリ備

辦スルニ於テハ之ヲ賃貸ノ契約ナリトス

第三第四第五ノ賃貸ハ別段ノ規則ニ循フ可シ

第一千七百十二條 官ニ屬スル財産邑ニ屬スル財産公舎ニ屬スル財産ノ貸借ノ契約ハ別段ノ規則ニ循フ可シ

○第二章 物件ノ賃貸

第一千七百十三條 如何ナル種類タルヲ問ハス動産又ハ不動産ヲ賃貸スルコトヲ得可シ

○第一款 家屋及ヒ土地ノ賃貸ノ契約ニ通シ用フ可キ規則  
第一千七百十四條 何人ニ限ラス書面又ハ口上ヲ以テ賃貸ヲ爲スコトヲ得可シ

一五七

第一千七百十五條 證書ナキ賃貸ヲ其契約ノ如ク執行ヒ始メサル中ニ